

2006 (平成 18 年度) 建築都市コース アニュアルレポート

目次

<日本語>

1. 建築都市コースのスタッフ紹介 (18 年 4 月時点)
2. 建築都市コースの研究概要
3. 建築都市コースの研究成果リスト
4. 特定学術研究
5. 学位論文リスト

<English>

1. Staff
2. Overview of Research Activities in 2006
3. List of Research Activities in 2006

建築都市コースのスタッフ紹介 (18年4月時点)

<建築計画・都市計画>

教授, 上野 淳, うえの じゅん

工学博士

建築計画, 地域公共施設計画, 環境行動研究, 環境心理学
9号館 869号室, 042-677-2814 内線 4778

准教授, 吉川 徹, よしかわ とおる

博士(工学)

都市計画, 都市解析, 地理情報システム
9号館 868号室, 042-677-2813

助教授, 竹宮 健司, たけみや けんじ

博士(工学)

建築計画, 環境行動研究
9号館 874号室, 042-677-内線 4785

准教授, 鳥海 基樹, とりうみ もとき

仏国博士(都市学)

都市設計, 都市計画, 都市史
9号館 867室, 042-677-2812

研究員, 饗庭 伸, あいば しん

博士(工学)

都市計画, 市民参加, マスタープラン
9号館 875号室, 042-677-1111 内線 4786

助手, 黒川 直樹, くろかわ なおき

工学修士

西洋建築史, 景観計画史, 建築文化財保全計画
9号館 828号室, 042-677-1111 内線 4764

助手, 松本 真澄, まつもと ますみ

住宅問題

9号館 877室, 042-677-1111 内線 4788

<建築歴史・意匠>

教授, 小林 克弘, こばやし かつひろ

博士(工学)

建築意匠, 建築設計, 西洋建築史

9号館 871号室, 042-677-2816 or 042-677-1111 内線 4782

准教授, 山田 幸正, やまだ ゆきまさ

博士(工学)

日本建築史, 東洋建築史, 保存

9号館 870号室, 042-677-1111 内線 4781, 042-677-2815

准教授, 小泉 雅生, こいずみ まさお

工学修士

建築設計, 意匠設計, 設計論

9号館 872号室, 042-677-2817

助手, 木下 央, きのした あきら

修士(工学)

建築意匠, 建築歴史, 建築設計

9号館 827号室, 042-677-1111 内線 4763

助手, 西田 司, にしだ おさむ

工学学士

建築設計, 意匠設計, 設計論

9号館 876号室, 042-677-1111 内線 4787

<建築生産>

教授, 深尾 精一, ふかお せいいち

工学博士

建築構法, 構法計画, 構法設計

9号館 873号室, 042-677-2818

教授, 橘高 義典, きつたか よしのり

工学博士

建築材料学, 仕上材料, コンクリート工学

9号館 775号室, 042-677-2797

准教授, 角田 誠, つのだ まこと

博士(工学)

建築生産, 耐用計画, 資源循環システム

9号館 767号室, 042-677-2807

助手, 門脇 耕三, かどわき こうぞう

修士 (工学)

建築構法, 構法計画

9号館 826号室, 042-677-1111 内線 4762

助手, 田村雅紀, たむら まさき

博士(工学)

建築材料学, コンクリート工学, 環境材料学

9号館 730号室, 042-677-1111 内線 4726

<建築構造>

教授, 芳村 学, よしむら まなぶ

工学博士

鉄筋コンクリート構造, 耐震工学, 耐震設計

9号館 773号室, 042-677-2800

教授, 山崎 真司, やまざき しんじ

工学博士

構造, 鋼構造, 構造設計

9号館 774号室, 042-677-2798

准教授, 藤田 香織, ふじた かおり

博士(工学)

木質構造, 伝統構法, 災害史

9号館 772号室, 042-677-1111 内線 4742

准教授, 北山 和宏, きたやま かずひろ

工学博士

鉄筋コンクリート構造, 耐震設計, 地震工学

9号館 771号室, 042-677-2802

助手, 山村 一繁, やまむら かずしげ

工学修士

構造工学, 荷重・外力

9号館 731号室, 042-677-2794

助手, 見波 進, みなみ すずむ

博士(工学)

構造, 鋼構造

9号館-727号室, 042-677-1111 内線 4723

助手, 中村 孝也, なかむら たかや

博士(工学)

鉄筋コンクリート構造

9号館 728号室, 042-677-1111 内線 4724

<建築環境>

教授, 石野 久彌, いしの ひさや

工学博士

建築環境工学, 建築設備学, 環境シミュレーション評価

9号館 766号室, 042-677-2806

教授, 市川 憲良, いちかわ のりよし

工学博士

建築環境学, 給排水衛生設備

昭島キャンパス 306号室, 042-543-3111 内線 306

准教授, 須永 修通, すなが のぶゆき

博士(工学)

建築環境学, 省エネ・自然エネルギー利用建築, 温熱快適性

9号館 768号室

042-677-1111 内線 4746

准教授, 永田 明寛, ながた あきひろ

博士(工学)

建築環境学, 熱湿気環境

9号館 769号室, 0426-77-2804

研究員, 中山 哲士, なかやま さとし

博士(工学)

建築環境工学, 気象データ, 都市気候

9号館 734号室, 042-677-1111 内線 4732

<都市空間システム>

教授, 中林一樹, なかばやし いつき

大学院 都市システム科学専攻

工学博士

都市計画, 防災計画, 復興計画, まちづくり

2号館-111号室, 042-677-2354

教授, 玉川 英則, たまがわ ひでのり

博士(工学)

都市・地域解析, 都市・地域計画

2号館 207号室, 042-677-1111 内線 1924

教授, 秋山 哲男, あきやま てつお

工学博士

都市交通計画, 福祉のまちづくり, 観光まちづくり, 交通ユニバーサルデザイン
2号館 206号室, 042-677-1111 内線 1943

研究員, 市古 太郎, いちこ たろう
博士(都市科学)
防災都市計画, 空間情報科学, 防災まちづくり
2号館 152号室, 042-677-1111 内線 1925

<都市社会システム>

教授, 星 旦二, ほし たんじ
医学博士
公衆衛生学, 都市健康科学
2号館 102号室, 024-677-2355

教授, 羽貝 正美, はがいまさみ
法学修士
行政学, 都市行政学
2号館 107号室, 042-677-1111 内線 1944

准教授, 伊藤 史子, いたう ふみこ
博士(工学)
都市計画, 住環境分析, 公共事業の経済評価
2号館, 209号室, 042-677-1111 内線 1921
(平成18年10月着任)

建築都市コースの研究概要

<建築計画・都市計画>

【上野淳・松本真澄】

高齢者の地域継続居住の支援システムに関する研究

上野 淳, 松本 真澄

障害や痴呆を持ちながらも、高齢者が住み慣れた身近な地域で継続的に居住していくことのできる、地域条件、コミュニティー施設のネットワーク条件、住戸条件、高齢者施設の計画条件、等について多角的、包括的に研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 自立高齢者を支える地域支援環境のあり方に関する研究
- 2) 東京都心下町地域における在宅高齢者の外出行動に関する研究
- 3) 小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究

多摩ニュータウンの再生・活性化に関する研究

上野 淳, 松本 真澄

開発・入居開始後30年を経過する我が国最大のニュータウンである‘多摩ニュータウン’をフィールドとし、その再生・活性化をめざす多角的な研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 多摩ニュータウンにおける子どもをめぐる犯罪の発生実態と環境要因との関連
- 2) 多摩ニュータウン団地居住高齢者の外出行動に関する研究
- 3) 多摩ニュータウンにおける自立高齢者の居場所に関する考察

教育施設の建築計画に関する研究

上野 淳

教育改革や社会情勢の変化に対応して、学校施設の在り方にもドラスティックな改革の動きが見られる。主として公立小・中学校に焦点をあて、児童・生徒の生活・学習の実際やカリキュラム運営の実際などを丹念に取材調査し、その計画・デザインの指針をもとめる継続的な研究を展開している。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 公立小中学校と地域公共施設の複合化に関する建築計画的な研究
- 2) 小中一貫校の建築計画に関する研究
- 3) 単位制総合高校における学校運営と生徒の活動に関する考察
- 4) 小規模小学校の計画デザイン提案と利用者の意識・行動の実態に関する考察

建築・都市空間における環境行動に関する研究

上野 淳, 松本真澄

都市施設、都市のオープンスペースにおける人間行動の法則性や特徴的な環境行動を丹念な調査によって取材し、建築・都市空間のデザインに指針、知見を導く一連の研究。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。

- 1) 鉄道駅プラットフォームにおける乗車待ちの滞在様態に関する研究
- 2) 都市の自由歩行空間における歩行誘導要素と歩行の揺らぎに関する研究

【吉川 徹】**既存公共施設ストックを活用した地域施設ネットワーク形成手法の開発**

吉川 徹

我が国では、社会の情報化、高齢化、成熟化により、既存公共施設を活用した公共施設ネットワーク再構成計画手法の開発が必要とされている。このため、多摩ニュータウンの最初期の開発地域を含む東京都多摩市を対象として、市の保有する公共施設ストックを活用した地域施設ネットワーク形成手法を開発した。特に地域施設需要の分布、最適な閉鎖順序について理論的研究を行った。

地図配信 ASP を活用した地域情報共有プラットフォームの構築研究

吉川 徹, 玉川 英則

本研究は、今後の我が国の成熟情報社会における地域情報共有の社会基盤整備に資することを目的とした。このため、地図配信ASPを活用して、地方自治体・地域住民・各種団体が地域情報を発信・共有できる、低コスト・柔軟・オープンなプラットフォーム構築の検討を行い、自治体、住民の参加による実証実験を行った。特に、住民団体による防災活動への適用可能性を模索した。

【竹宮 健司】**精神科患者の社会復帰施設支援態勢・環境に関する研究**

竹宮 健司

2006年度から施行された障害者自立支援法では、精神病院の基準病床削減目標を掲げているが、現実には社会復帰支援施設が少なく、また支援態勢も充分とはいえない。

そこで、本研究では、先駆的な実践を行っている医療法人を対象に精神科病院を退院後、社会復帰に至るまでの生活の場と各サービスの利用状況を把握し、これからの社会復帰支援態勢・環境の基礎的知見を得ることを目的としたケーススタディを行った。

乳幼児期を対象とした子育て支援施設の建築計画に関する研究

竹宮 健司

少子化・核家族化の進んだ都市部において、乳幼児期の子育て支援のあり方が模索されている。先駆的な取り組みを行っている武蔵野市では、乳幼児期の親子を対象とした新しいタイプの子育て支援を設立し、新たな支援の場を提供している。

そこで、本研究では先駆的な乳幼児期の子育て支援施設の利用実態を把握し、今後の子育て支援施設の建築計画に関する知見を得ることを目的に、同施設に於いて利用者記録調査、観察調査、等を行った。

高齢期の居住環境整備に関する研究

竹宮 健司

高齢者が住み慣れた地域に住み続けられるために、様々な取り組みがなされている。そうした試みの一つに、ケア付き住宅と呼ばれる居住施設がある。医療・介護サービスを受けつつ安心して暮らし続けることのできるケア付き住宅の利用実態や建築計画に関する蓄積は少ない。

そこで本研究では、先駆的な施設を対象に利用者の経年的なデータを分析し利用者とその家族にとってこうしたケア付き住宅の役割や意味を明らかにするケーススタディを実施し、知見を整理した。

【鳥海 基樹】**フランスに於ける都市景観の保全的刷新に関する研究**

鳥海 基樹

2004年に制定された景観法の広範かつ円滑な運用のため、フランス、とりわけパリを中心として如何なる手法で景観の保全的刷新がなされているかを研究する。

フランスに於ける中心市街地活性化に関する研究

鳥海基樹

2006年に改正が予定される都市計画法と中心市街地活性化法の基礎的調査として、フランスに於ける集団規定や商業都市計画、さらに住宅政策を研究する。

ヨーロッパ諸国の歴史的環境資源の保全的刷新に関する研究

鳥海基樹

2005年に実施される愛知万博の後処理に貢献するため、リスボン万博とハノーヴァー万博の施設の再利用状況を研究する。

【饗庭伸】

東京における震災復興まちづくり模擬訓練手法の開発と実践

饗庭伸

阪神・淡路大震災の教訓から東京都では地震災害に備えて、地域で住民と行政が協働で復興まちづくりを模擬体験する「震災復興まちづくり模擬訓練」を行っている。東京都八王子市旭が丘地区、東京都練馬区桜台地区においてそのプログラムを考案し、実践するなかでその課題や改善点を検討した。成果は地域安全学会等の学会や書籍にまとめて発表した。

都市計画の地方分権に関する研究

饗庭伸

都市計画の地方分権の実態について、①構造改革特区および地域再生計画における都市計画関連提案の実態調査、②事務処理特例制度を活用した都道府県から市区町村への分権の実態調査を行った。成果を雑誌の連載記事として発表した。

都市建築ストックの集積する都心地域の賦活に関する研究

饗庭伸

東京都心部の神田地域を対象にして、様々な年代に建設された様々な構造を持つ建築ストックが集積する地域の賦活技術について研究を行った。特に、都市建築ストックの類型化と将来像の計画手法、災害に対する地域の安全性の評価、土地所有形態の実態について調査研究を行った。

東アジア諸国のまちづくりの歴史に関する比較研究

饗庭伸

台湾、韓国、日本の3カ国を対象に、戦後のまちづくり（台湾では「社区营造」、韓国では「マウルマンドゥルギ」）の歴史の比較研究に着手し、各国の研究者と研究体制をつくり、意見交換と基礎的な情報の収集を行った。

【黒川直樹】

アメリカ建築史および景観計画史に関する研究

黒川 直樹

南北アメリカにおける建築資産の最適再利用を、とくに近現代商業ビルの再生計画をめぐる最新動向を現地調査し、調査結果を発表した。北米については小林克弘研究室と合同で首都大学東京21世紀

COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」の一環として7都市の事例調査を行い、また南米に関してはチリおよびブラジルを対象に自主調査を敢行した。

< 建築歴史・意匠 >

【小林克弘・木下央】

近代建築の構成手法に関する分析

小林克弘, 木下央

建築意匠研究の目標のひとつは、建築美を生み出す諸造形原理を明らかにすることにある。そのためには、優れた建築作品を分析することによって具体的な造形原理を抽出し、更にそうした原理が作品に適用される際の具体的な設計手法を考察することが極めて有効となる。この「近現代建築の構成手法に関する分析」という研究テーマは、近代以降の建築の中で、特に幾何学形態や明確な構成意図を備えた作品を対象として、その構成原理を具体的に分析・考察する。2006年度は、ルイス・サリヴァン、アルド・ファン・アイク、フィリップ・ジョンソンの建築作品を対象とした分析を行った。それまでの研究の成果の一部を2006年度日本建築学会大会や日本建築学会計画系論文集などに発表した。

建築設計手法の開拓

小林克弘, 木下央

建築意匠研究においては、研究によって見出した建築の造形原理や構成手法を実際の建築設計に応用することによって、理論と実践、基礎研究と応用とを結び付けることも大きな目標のひとつである。研究室として、年に数件の建築実施設計競技に取り組むことを通じて、また、具体的な実施プロジェクトを通じて、新たな建築設計手法、建築デザイン手法の開拓を目指す。本年度は香港で行われた国際設計競技へ参加し、また、オフィスビルから共同住宅にコンバージョンを行う具体的プロジェクトに取り組み、研究を通じて見出した成果を実際の建築設計に応用することの有効性を検証した。

建築ストックの活用に関する意匠的研究

小林克弘, 木下央, 三田村哲也

既存建築を様々な更新活用方法を考案することは、建築界の重要なテーマのひとつとなっている。首都大学東京大学院建築学専攻では、2003年度から文部科学省21世紀COEプロジェクト「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」に取り組んでおり、このテーマに対する建築意匠・建築設計の視点からの取り組みとして、用途変更（コンバージョン）による建築ストック活用の具体的なケーススタディや海外におけるコンバージョン・改築事例実地調査結果に基づく分析を行っている。海外事例調査の成果の一端を、「コンバージョン・デザインの可能性-イタリア近年の事例」, SD2005, pp. 69-100, 2005年12月に発表した。2006年度は、アメリカ、フランス、ドイツ、フィンランドの事例に関する実地調査を行った。

17世紀末から18世紀初頭の英国における建築と都市デザインに関する研究

木下央

17世紀後半、イギリスは大陸の古典主義建築の文化を積極的に吸収すると同時に、英国東インド会社の経済活動の拡大に伴い、それまで直接接することのなかった非西欧圏、特にインドや中近東の建築文化を知るようになり、その一部を吸収した。本研究では特に英国人がインドに建設した霊廟建築の様式的特徴に注目し、この時代にインドを訪れた建築家サー・ジョン・ヴァンブラの建築作品を通して、非西欧圏の建築文化がいかに英国バロック建築に影響を与えたのかを明らかとすることを目的とする。

【山田幸正】

アジアにおける伝統的木造建築の建築的実態と保存に関する調査研究

山田 幸正, 藤田 香織

アジアの諸地域における伝統的な建築物や集落の多くは、近年の急激な経済発展のなかで、建築的な実態が明らかにされる以前に消滅しているという危機的状況にあり、それらを調査・研究し、その保存策を講ずることは急務とすべき課題である。こうした観点に立ってベトナムにおいて継続的に実施してきた伝統的民家および集落に関する調査の成果を踏まえて、本年度は北部の伝統的集落にあるデザインと呼ばれる公共的施設を対象に、その建築的な実態とそこでの伝統的祭礼などについて考察した。

ベトナム・ハノイの近代集合住宅の改善計画

山田 幸正, 藤江 創, 西田 司

ベトナムは1950年代以降、旧ソビエトなど社会主義諸国からの援助を受けながら、首都ハノイをはじめ主要都市において、国営の集合住宅団地を数多く開発してきた。高温多湿の亜熱帯性気候のなか、これらの集合住宅は、構造的にも、設備・機能的にも、また美観的にも大いに老朽化してきている。近年、資本主義的な市場経済を積極的に導入するドイモイ政策が進展するなか、個人の嗜好の多様化を反映して、住宅に対して改変への要求はかなり増大しているものと考えられる。本研究では、ハノイ建築大学と協力体制を確立し、住民たちによって醸成されてきた既存の住環境的価値を活かしながら、新たな価値や機能を付与した都市型集合住宅に改善するための計画手法を検討している。

イスラーム文化圏における歴史的建造物および都市に関する研究

山田 幸正

イスラーム文化圏に所在する多くの歴史的建造物は、建築技法上においても意匠上においても、独特の卓越性をもつにもかかわらず、我が国ではいまだにその実態が十分理解されているとはいえない。それらの集合体である歴史的環境や都市性についても同様に解明されているとはいえない。そのようなイスラーム建築およびイスラーム都市に関する継続的な研究の一環として、本年度は、地中海東端に位置する歴史的な港町レバノン・サイダが経験した20世紀における都市的変容、トルコのオスマン朝および近現代の建築的潮流などについて考察した。

【小泉雅生・西田司】

都市及び建築における領域のアクセシビリティの研究

小泉雅生

住宅がいかに街に対して開かれるかという住宅と街との関係の分析を行い、さらに対象を一般化して建築と都市との関係へと考察を進める。住宅と街との接続方法や距離の作られ方、領域の配列、領域間の境界の強度などの分析を通じ、都市的なレベルでの領域のアクセシビリティを考慮した建築設計手法の研究・開発を行い、実地に応用をはかっていく。

家族像の変化に基づく住居の変化の研究

小泉雅生

高齢化・少子化・離婚率の上昇などにより、家族像が大きく変わりつつある。にもかかわらず、その器である住居については、殆どが旧来の核家族を想定した平面計画のままである。そこで現代の日本社会における家族形態・家族像の分析をベースに、実際の居住形式や住居の変化の分析を重ねあわせ、新しい住居のあり方を模索する。その一つの可能性としてコレクティブハウジングを取り上げ、具体的な設計提案を行う。

【深尾精一・門脇耕三】

高度成長期に建設された公共集合住宅の活用手法に関する研究

深尾 精一, 山崎 真司, 小林 克弘, 角田 誠, 門脇 耕三, 見波 進

我が国には、高度成長期に建設された大量の公共集合住宅ストックが蓄積されている。これらの公共集合住宅ストックは、建設から20年以上を経過しているが、住戸の内装や設備機器が劣化・陳腐化していることに加えて、バリアフリーへの対応が遅れていることが大きな問題となっている。本年度は、こうした公共集合住宅ストックを適切に改修し、活用する手法について、前年度に引き続き研究を進めた。

具体的には、公共集合住宅ストックの多くを占める、中層階段室型集合住宅へのエレベータ設置システムの開発を行った。平成17年度には、国土交通省の建設技術研究開発助成制度による研究助成を得て、新たなエレベータ設置システムの開発を行い、さらに開発したシステムのうちエレベータシャフト部分を、実際の階段室型集合住宅（取り壊し予定、居住者なし）に設置する実験を行ったが、平成18年度には、設置したエレベータシャフトと住棟を、居住者の継続的居住を妨げずに接続するシステムの開発を行い、これを試作し、様々な観点からの検証を行った。さらに、住宅の総合的な付加価値を向上させるという観点から、エレベータシャフトの地上階に設置するエントランス付加システムの開発を行い、試作実験を行った。

この成果は、日本建築学会やCIB(建築研究国際協議会)の主催する国際会議において発表するとともに、建築専門誌や新聞などにおいて発表した。

SI住宅の建設方式に関する研究

深尾 精一, 門脇 耕三

近年、集合住宅の新たな建設方式として、躯体と内装・住戸内設備等を明確に分離するSI住宅が目されており、一般の集合住宅に対しても、その考え方が適用されるようになってきている。

本年度は、建設会社を対象としたヒアリング調査を行い、SI住宅の現状や今後の発展可能性、SI住宅に関する技術開発の動向などについて明らかにした。

また、我が国では建設され始めてから既に35年が経過した超高層集合住宅についても、その改修にあたっては、全ての住戸を一斉に改修することが困難であるため、SI住宅的な考え方が有効になると考えられるが、本年度は、超高層集合住宅の住戸内改修の行いやすさについて、多数の超高層集合住宅の図面を用いて分析を行った。

戸建て住宅の改修実態に関する研究

深尾 精一, 門脇 耕三

我が国の戸建て住宅は、欧米諸国に比してその寿命が短いことは以前から指摘されてきたが、建築ストックの活用に関する意識が高まりつつある現在、戸建て住宅に適切な改修を加え、長年に渡って使用しようとする動きも活発になりつつある。

本年度は、特に戸建て住宅の外壁に対する改修に焦点をあて、目視調査や居住者へのアンケート調査により、その実態把握を行った。実態調査は、東京都下の複数の住宅地を対象として行い、その要因を分析するとともに、外壁の改修周期の算出を行った。この結果は、日本建築学会大会で発表した。

また、戸建て住宅における改修行為全般についても、東京都下の3つの住宅地において、アンケート調査による実態調査を行った。さらに、建て替えが行われた住宅と行われていない住宅について、その改修履歴の比較を行い、改修が戸建て住宅の建て替えに及ぼす影響について分析を行った。

【橋高義典・田村雅紀】

土壁系建築仕上げ材料の色彩特性に関する研究

橘高義典, 田村雅紀

土壁系建築仕上げ材料に関して、その基礎的物性を実験・解析を通じて評価した後に、これまで左官による経験的な施行により調整がなされてきた色彩特性に関して、得られた材料特性を影響因子として扱い、配合後の色彩特性が理論的に評価可能となるような方法を導出した。

超高層マンションの外装色彩特性に関する研究

橘高義典, 田村雅紀

超高層マンションの外装色彩に関して、その外装材の色彩特性が、調和感、好ましさ、洗練さ、目立ちやすさなどの印象評価に及ぼす影響を明らかにした。これより、超高層マンションを建設する際に、使用者や施主の外装色彩に対するニーズを反映した色彩設計の方針を具体的に示した。

各種建築外装パネルの耐火性能評価

橘高義典, 田村雅紀

ALCパネル、窯業系サイディング、金属サイディングなどの汎用的な建築外装パネル材を対象に、材料組成に着目し、加熱炉を用いて耐火試験を行った。その後、各パネル曲げ試験を行い、加熱による耐力低下度をISO834規格に準じて評価し、強度低下が著しくないものを対象に強度回復材を塗布して、部材の強度回復性状を評価した。

骨材回収型完全リサイクルコンクリートの基礎物性評価

橘高義典, 田村雅紀

コンクリートの資源循環には、セメントとして回収する方法と、骨材として回収する方法を確立する必要がある。ここでは長期的供用後においても骨材が品質低下することなくコンクリート塊から容易に回収する方法を検討した。その結果、コンクリートの基礎物性は確保され、かつ良質な骨材回収が可能であることが示された。

【角田 誠】

公共建築ストックの有効活用に関する研究

角田 誠

公共施設では住民のニーズに対応するための継続的な建設活動が必要となるが、新たな施設の建設の一方で、余剰となった既存施設も数多く見られる。これらの既存施設の有効活用は、行政財産の維持・向上だけでなく、さらなる地域サービスの提供においても極めて重要な課題となる。本年度は、高密度な土地利用がなされている都心部自治体における未利用容積の実態把握とともに、緩和措置を利用した容積率の移転や民間との公有地共同利用事例の分析から、既存公共施設における未利用容積の活用を成立させるための要件を明らかにし、その活用可能性モデルを提示した。また、官民協働による行政所有施設コンバージョン事業の実態を把握し、行政所有施設に有効なストック活用における運営手法を明らかにした。

コンバージョン設計手法に関する研究

角田 誠

ストック有効活用手法の一つであるコンバージョンは、既存建築物が設計条件に加味されるため、新築における設計手法に比べ、その内容に大きな制約がある。本年度は、工場などの生産施設、小学校の余裕教室を対象とし、既存建物がコンバージョン設計に与える影響について平面計画、断面計画の両面から明らかにした。生産施設では、大きな空間規模を有するため、壁や床などの空間分節要素の新設により、空間コンバージョン設計の多様さを担保できる一方で、コンバージョン後の施設エン

トランスなどの増設が不可欠であることが明らかとなった。小学校建築では、コンバージョン設計を規定する要素として構造躯体、天井面、開口面、床段差があり、それらの状況からコンバージョン設計の対象空間範囲を導き出した。

廃棄物発生量削減のための解体工法に関する研究

角田 誠

建築物の解体に伴い発生する廃棄物の量および種類は、建築物の造られ方とともに壊し方にも大きく影響を受ける。建設リサイクル法の施行などにより、解体工法については飛躍的に進歩しているが、解体対象物の造られ方に対応したものまでには至っていない。本年度は、新築時の生産性・施工性を合理化するために工場生産化率を高めたプレハブ住宅を対象とし、合理化の効果が解体時にどのように影響するかを定量的に明らかにした。工場でプレアセンブルされた複合材の使用は、解体時の分解や分離に多大な時間を要することから、処理技術レベルと分離時間との相互関係を考慮することの必要性を提示した。

<建築構造>**【芳村学・中村孝也】****既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準における「せん断柱」の靱性指標再評価に関する一考察**

芳村 学, 中村孝也

耐震診断基準における「せん断柱」からなる建物について、 I_s 値が等しくとも地震被害の程度が大きく異なるという結果が既往の研究より得られている。これは診断基準の作成時に「せん断柱」の最大強度以降の挙動や崩壊変形が不明であったため、これらを考慮せずに靱性指標 F を 1.0~1.27 という狭い範囲の値に限定したことに起因すると考えられる。現在では、実験結果に基づいて崩壊変形推定式と最大強度以降崩壊に至るまでの荷重変形関係推定式が提案されており、それらを考慮して F 値を評価することが可能である。本研究では“最大強度以降の変形能と地震応答の結果を考慮した F 値 (F' 値と呼ぶ)”の算定方法とその適用例を示した。 F' 値の算定は診断基準における靱性指標 F 算定の考え方に従うこととし、「想定する地震動に対して基準となる I_s 値 (本研究では $C \cdot F'$ に等しいとしている) の建物がどれくらいの被害を受けるか」をイメージして、 F' 値算定のクライテリアを設けた。地震応答解析の結果からクライテリアを満たすために必要な強度指標 C を崩壊変形に応じた形で求め、基準となる I_s 値との関係式から F' 値を求めた。崩壊変形推定式と本研究で得られた崩壊変形と F' 値の関係式を用いることで、柱の構造諸元から崩壊変形を求め、崩壊変形から靱性指標を求めることができる。

【山崎 真司・見波 進】**長周期地震動を受ける鋼構造超高層建築の耐震性能に関する考察**

山崎 真司, 見波 進

海溝型巨大地震時が発生した際には、長周期成分を含む地震動が数分間続くことが予測されている。既存の超高層建築が、このような長周期地震動を受けるときの性状について考察した。これまで設計で標準的に用いられていた地震動を受ける場合と長周期地震動を受ける場合の応答特性の違いを、主に塑性繰返し数とエネルギー吸収量の関係の点から明らかにした。

多層骨組の重力による進行性崩壊

山崎 真司, 見波 進

多層骨組の中のある層が何らかの原因により鉛直方向に崩壊した場合、それ以降の挙動として、局所的な崩壊で止まる場合と、連続的に崩壊が進行し全層が崩壊に至る場合がある。後者の場合を進行性崩壊という。進行性崩壊は骨組の重力による不安定現象と捉えられる。本研究では、層崩壊による解放される重力ポテンシャルエネルギーと層が鉛直方向変位に伴い吸収するエネルギーの釣合に基づき、局所的な崩壊で止まる場合と、連続的に層崩壊が進行する場合の骨組の条件を明らかにした。

繰返し曲げを受ける鋼梁のエネルギー吸収能力

山崎 真司, 見波 進

梁降伏型骨組の耐震性能を評価するためには、梁のエネルギー吸収を明らかにする必要がある。梁のエネルギー吸収は端部の塑性化領域でなされるが、塑性化領域の長さは、耐力上昇率によって決まる。従って、エネルギー吸収能力は耐力上昇率と密接な関係にある。本研究では、実験に基づき繰返し載荷が耐力上昇率に及ぼす影響を明らかにし、繰返し曲げを受ける鋼梁のエネルギー吸収能力を定量的に予測する方法を提案した。

【藤田香織】

【北山和宏】

プレストレスト鉄筋コンクリート (PRC) 立体柱・梁部分架構の耐震性能に関する実験研究

北山 和宏

鉄筋コンクリート (RC) 構造とプレストレスト・コンクリート (PC) 構造の中間的な性質を持つプレストレスト鉄筋コンクリート (PRC) 構造の立体柱・梁十字形部分架構試験体 (名称 JD-3) 1 体に対して、圧縮一定軸力下で水平二方向載荷する実験を行った。柱頭に直交して取り付けられた二基のジャッキによって、柱頭の描く軌跡が八の字形になるように二方向水平力を与えた。梁には上端・下端に普通鉄筋 4-D25 ずつを配するとともに、異形 PC 鋼棒 2-D22 を配筋した。終局プレストレス率は 0.26 である。

実験では柱および梁の付け根においてコンクリートが激しく圧壊し、梁 PC 鋼棒のひずみも弾性限を超えたものの、柱梁接合部のせん断破壊によって層間変形角 3% のときに最大層せん断力に達した。梁の普通主筋では層間変形角 1% 以降に危険断面位置において圧縮鉄筋の引張りへの転化が見られ、柱梁接合部内での付着劣化が生じた。PC 鋼棒の付着性状、柱梁接合部の二軸せん断耐力などについての詳細な検討は今後実施する。

連層鉄骨ブレースで耐震補強された鉄筋コンクリート平面骨組の三方向外力下での耐震性能

北山 和宏

鉄筋コンクリート (RC) 建物を鉄骨ブレースで耐震補強するとき、力の流れをスムーズにするために鉄骨ブレースを上下に連層で設置することが多い。2002 年度に当研究室では、連層鉄骨ブレースによって耐震補強した二層三スパンの RC 縮小平面骨組試験体に一方向水平載荷実験を行い、全体曲げ破壊および基礎浮き上がり破壊時の耐震性能を検討した。しかし実地震時には水平力は二方向から作用するので、特に鉄骨ブレース脚部での全体曲げ破壊時の挙動は大きく影響を受けると予想される。そこで本研究では 2002 年度と同一の平面骨組試験体に対して面外方向に載荷した状態を保持したまま (頂部変形角 1.5%)、面内水平力および一定圧縮軸力を与える静的実験を行い、三方向外力下での全体曲げ破壊の力学挙動を詳細に検討した。

なお実験に先立ち柱軸力の制御ミスによって、独立柱二本が二層位置で面外に座屈するという事故を生じた。ただしこの事故が面内力に対する骨組試験体の耐震性能に与える影響は小さいと判断して、本実験を実施したことを付記する。

この実験研究によって得られた結論を以下に示す。

- a. 頂部変形角 0.4% でブレース脇の付帯柱の全主筋が柱脚危険断面位置で引張り降伏し、その後境界梁が曲げ降伏して連層ブレースに対する抑え込み効果が一定になって骨組の最大水平耐力に達した (頂部変形角 1%)。その後、水平耐力は徐々に低下し、頂部変形角 2% を超えると付帯柱の主筋が次々に破断したため、耐力が急激に低下した。
- b. 境界梁の曲げ戻し効果とアンカー筋の引張り抵抗による寄与を考慮した水平耐力計算値 (Q_{cal}) よりも、実験による水平耐力最大値 (Q_{max}) は 6% ほど小さかった。また、2002 年度の面内加力のための試験体の結果と比較すると、 Q_{max}/Q_{cal} の値は 10% ほど小さかった。これより水平二方向加力によって鉄骨ブレース脚部で全体曲げ破壊するときの水平耐力は低下する、と判断できる。これは主に圧縮側の付帯柱脚部のコンクリート圧縮損傷が二方向加力によって促進されたためと考えられる。
- c. 三方向外力下での実験における限界変形は、「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説 2001」(日本建築防災協会)による終局変形よりも 1.4 倍大きかった。これより耐震診断基準は三方向外力下においても、鉄骨ブレースで耐震補強された骨組が全体曲げ破壊するときの終局変形を安全に評価できる。

既存学校建物の耐震診断および耐震補強計画の策定

北山 和宏

文部科学省 COE 研究の一環として、横浜市立桜台小学校の大規模改修に関するプロジェクトに参加している。既存校舎は昭和 30 年および 34 年に建設された RC 三階建ての一文字形で、コンクリート圧縮強度は 1 階 : 14.9MPa、2 階 : 13.7MPa、3 階 : 12.3MPa、とかなり悪い。桁行き方向は三構面で形成されており、代表的な各柱 1 本ずつを取りだしたユニット骨組を対象として、2001 年版耐震診断基準に則って二次診断を実施した。

その結果、1 階にはせん断柱、曲げ柱および極脆性柱が混在するが、2 階以上は全て曲げ柱であった（ただし靱性指標 F は 1.0 から 2.75 とばらついた）。構造耐震指標 I_s の値は 1 階 : 0.29、2 階 : 0.34、3 階 : 0.46、保有水平耐力を表す C_{tuSd} 指標は 1 階 : 0.40、2 階 : 0.37、3 階 : 0.50 であった。全体的に耐震性能は劣っているが、特に 1 階および 2 階は強度、靱性ともに不足していることが分かった。1 階北側の柱は腰壁および垂れ壁のせいで極脆性柱となり、靱性指標 $F=0.8$ で 1 階の耐震性能が決定されるため、その性能を引き下げている。

このような既存校舎に対して強度抵抗型の耐震補強を施すために、北側構面に鉄骨ブレースの新設、袖壁や開口壁の増設を行うことが有効なこと、ただしこの部分の既存の柱幅および梁幅ともに小さいために増設部材のサイズを大きくできないこと、支配面積の大きい中（なか）構面に入ったり通風の開口を設けつつ鉄骨格子やコンクリート製格子ブロックなどで耐震補強することが有効であること、などを提案した。また当該校舎は張間方向 2 階および 3 階の耐震壁量が少ないので、張間方向の耐震補強も同時に実施するべきであることを指摘した。

【山村一繁】

常時微動による建築会館の振動特性把握

山村 一繁

建築会館では 1982 年より強震観測が行われており、最近の記録を分析すると計測震度は大手町に比べて平均で約 1 小さく、卓越振動数は 2Hz であることが明らかになっている。これらの特性は、建築会館そのものの影響が含まれていると考えられる。そこで、建築会館の常時微動測定を行い、その振動特性を明らかにした。

その結果、以下の結論を得た。建築会館の地点では軟弱な表層がそれほど厚くなく、敷地全体を占める建築会館の地下階はこの軟弱層を排除していると考えられる。そのため、地下階相当の 3 地点では微動特性はほぼ同じであるが、強震計設置位置のみ上部高層の影響が含まれていることが分かった。また、上部構造の振動特性は、高層部の並進一次固有振動数と減衰定数は長辺方向で 2.8Hz、2%、短辺方向で 3.4Hz、4%であり、コの字型になっていることから全体としては複雑な振動性状を示すことが明らかになった。

常時微動による木造建物の耐震補強効果の評価

山村 一繁

来るべき大地震に備えて、建物の耐震診断や耐震改修が進められている。地方自治体による補助や融資が実施されるようになり、その数はますます増加しつつある。補強によって耐震性能が向上していることは間違いないが、振動特性がどの様に変化・向上しているかは必ずしも明らかでない。そこで本研究では、実際に耐震補強された木造建物について、その前後に常時微動測定を行い、その解析結果から振動特性の変化を明らかにすることを目的とした。

その結果、以下の結論を得た。

i) 固有振動数は、耐震補強効果の大きい x 方向では 5.4Hz から 6.3Hz と高くなった。一方 y 方向では 6.8Hz でほとんど変化がなかった。

ii) x 方向のモード形状は、補強前は 1 階の剛性の不足から 1 階にかなり大きな変形を生じていたが、

補強後は適切な形状となった。

iii) 補強前には x, y 方向の振動が相互に影響を及ぼしあっていたが、補強により振動の独立性が高くなった。

iv) 減衰定数は、x 方向では補強前後で 3.4%と 4.6%と増加したが、y 方向では 6.0%と 4.2%と逆に減少する結果となった。

v) 層剛性を評価した結果、補強による層剛性の上昇率は、上部構造評点の向上率と良い対応を示すことが明らかになった。

< 建築環境 >**【石野久彌・中山哲士】****自然換気・シーリングファンを併用したハイブリッド空調換気システムに関する研究**

石野久彌

近年、自然換気と機械換気、機械空調を組み合わせた空調換気システムによって室内環境制御を行う建物実施例および研究事例が増えており、省エネルギー性と快適性を両立させる新しい手法として定着しつつある。しかし、運用時の検証によってその制御実態と執務空間の室内環境について明らかにされた事例は少ない。

本研究は、従来のハイブリッド空調換気システムに、気流感によって快適性を補うことを目的としてシーリングファンを付加した空調システムを対象に実測調査を行い、快適性と省エネルギー性の実現を意図した制御ロジックの有効性および、執務空間の室内環境、換気性能について検証した。そして自然換気、シーリングファン、機械空調の3種類を組み合わせたハイブリッド空調換気システムの執務環境の快適性と空調負荷削減効果について明らかにした。なお本研究は本年度日本建築学会論文報告集に掲載された。

ヒートアイランド低減化手法としての屋上緑化の実測評価

石野久彌

ヒートアイランドの低減化手法として屋上緑化は普及しつつあり屋上緑化に特化した各種植物製品が多数販売されるようになった。かつては灌水の必要が無く生命力の強いセダム種などが多く用いられていたが、蒸散しないこの種の植物はヒートアイランドの緩和にほとんど効力を持たないことから、最近では灌水方法に特色をもたせた芝生製品が多く見られるようになった。芝生は比較的デリケートな植物であるため、灌水や土壌のメンテナンス方法および屋上気象条件により蒸散活力に大きな影響を与える。しかし、芝生製品の詳細な特性を検討した事例は少なく、測定事例の蓄積が求められている。

本研究では、芝生による屋上緑化やクールルーフの熱・水分パラメータ特性を、屋上緑化製品を中心とした多面的な実測から明らかにし、地表面の芝生との比較を行った。また、実測に基づいて熱・水分収支式を構成し、年間計算により屋上緑化による熱的效果や灌水・貯水の必要条件を明らかにした。なお本研究は本年度日本建築学会論文報告集に掲載された。

日射の直散分離に影響を及ぼす気象要素の特性研究 ー放射輝度分布の不規則性と雲の状態による要因ー

中山哲士, 石野久彌

全天日射量から直達日射成分と拡散日射成分の各成分を推定する直散分離は建築環境予測に不可欠な手段である。この直散分離の予測精度に影響を与える種々の誤差要因について個々に特性を明らかにすることは直散分離予測精度向上にむけて非常に基本的かつ重要なことである。本研究は、予測の誤差要因となっている気象要素を個々に取り上げ、その気象要素の特性と誤差との関連性を明らかにするものである。

本年度の研究では天空放射輝度分布の不規則性および雲の形態の2つの要因を新たにとりあげ、各要因を数値化する指標を提案し、直散分離精度との関連性を明らかにした。なお本研究は本年度日本建築学会論文報告集に掲載された。

【市川憲良】**建物内における最適給水システム構築のための検討**

市川 憲良, 浅野 良晴 (信州大学), 紀谷文樹木 (神奈川大学)

建物内の給水システムは、水道直結式（直圧方式、増圧方式）と受水槽式（高置水槽方式、圧力水槽方式、ポンプ圧送方式）とに大別される。中規模以上の建物には、それまで受水槽方式が採用されてきたが、小規模受水槽における水質劣化の問題のから、中規模程度の建物を対象に増圧直結給水方式が10年前から導入されるようになった。当該システムは多くの利点を有しているが、今後、検討しなければならない問題点も多くある。

本年度は、計画瞬時流量モデルの構築などについて検討の検討、更新を考慮した給水システムについて検討した。

これらの成果は、日本建築学会論文集及び大会などへ発表している。

循環式浴槽におけるレジオネラ感染防止に関する研究

市川 憲良、近藤靖史（武蔵工業大学）、長澤 康宏（鹿児島大学）

近年、わが国では、大型浴場におけるレジオネラ属菌による集団感染・死亡事故が多発している。また、水泳プールにおいても、アデノウイルスによる咽頭結膜熱（プール熱）の感染が問題となっている。これ等の施設の共通点は、水槽内の水を循環ろ過するシステムが採用されていることである。特に、レジオネラ感染事故は、循環式浴槽システムを採用している施設で多く発生しており、浴槽水のろ過方法と消毒方法をはじめ、システム的な構造に対して早急に検討する必要があることが指摘されている。

本年度は、槽内の停滞水域等を明らかにするために、CFD（Computational Fluid Dynamics：数値流体力学）を用いて検討した。

これらの成果は、CIB-W62 国際シンポジウムなどにおいて発表している。

省資源・省エネルギーを考慮した水利用に関する研究

市川 憲良、岩本静男（神奈川大学）、鎌田元康（東京大学大学院）、大塚雅之（関東学院大学）

渇水年の降雨量は減少する傾向にあり、将来、安定した水利用を確保するためには、節水の啓発をはじめ、計画的な水の多段階利用・再利用・雨水利用、及び新たな水資源となる水回収の開発などに対して積極的に取り組まなければならない時代を迎えている。

本年度は、節水機器に関する性能評価、及びISO環境マーク基準などについて検討した。

これらの成果は、日本建築学会論文集及び空気調和・衛生工学会学術講演会・国際セッションなどへ発表している。

【須永修通】

快適な環境配慮型・自然エネルギー利用建築に関する研究

須永修通

地球環境保全のためには、建築分野では省エネルギーとともに自然エネルギーの活用が不可欠である。また、それらを考慮して設計された省エネ・自然エネルギー利用建築を広く普及させるためには、その実際の性能を明らかにすること、また、地球環境への影響や室内環境の快適性等を考慮した総合的な評価手法を整備する必要がある。

当研究室では、『省エネ・自然エネルギー利用建築』と『人体の温熱快適性』を主テーマとして、建築的要素の工夫によるパッシブデザイン手法、太陽熱などの自然エネルギー利用による室内気候調整、それらに関連する建築部材の開発、実在する環境共生建築の性能評価、並びに、建築、特に住宅の評価方法などに関する研究を継続的に行っている。

本年度は、これらに関して以下の研究・活動を行った。各々概要を示す。

学校建築のエコスクール化： a) 日本全国の環境に配慮された学校建築について文献調査を行い、そのうちの約250校に、環境共生手法やエネルギー消費量に関するアンケート調査を行った。

b) 学校の温熱快適性に関して、学校と自宅の温湿度の違いについて実測調査した。冷房のない学校では夏季の温度が非常に高いこと、児童下校後の戸締まりが室温の低下を阻んでいることなどを明らかにした。

c) 断熱、日射遮蔽、通風などの環境共生手法の効果について、夏季実測およびシミュレーションにより明確にした。

2) RC住宅の外断熱改修： a) 外断熱改修を行った戸建住宅、屋上の断熱改修を行った集合住宅について夏季の実測および様々な条件でのシミュレーションを行い、改修の効果を示した。

b) 「多摩ニュータウンの超高断熱(超省エネ)手法による既存建築ストック活用・団地再生」調査研究を行った。また、その報告書では、「高断熱改修に伴う熱環境的問題点と改善手法」をまとめた。

3) 環境配慮型建築の性能評価手法： 空調を使用しない建築にも適用でき、居住者の着衣量変更などの環境調整行動も加味して評価できる室内環境評価方法に関して、建築学会論文集に投稿し、掲載決定を得た。また、昨年度行った実際の住宅を用いた被験者実験のデータ解析を行い、その結果を学会で発表した。

4) 露出型天井配管冷房システム： 天井全面に冷水を通すパイプを設置して冷房するシステムの性能について、新冷却パイプを用いた場合の夏季実測を行い、良好な室内環境と省エネルギー性を確認した。また、除湿量に関する物質移動係数を、実測および実験室実験から明らかにした。

5) コンバージョン計画における室内環境改善： 事務所建築から集合住宅に転換する実プロジェクト(本学21世紀COEプログラムのプロジェクトの一つ)で、断熱性能や遮音性能などの改善を盛り込む提案を行った。また、改築前の遮音性能の測定を行った。

6) 人体の季節順化による快適範囲の変化： 熊本大学石原研究室主導の札幌、東京、熊本、沖縄の4地域(大学)での調査研究に参画し、被験者の通常の生活における温湿度環境と温熱快適性について実測・アンケート調査を2ヶ月ごとに行った。また、そのデータを用いて、夏季の季節順化について解析した。

7) IEA の Sustainable Solar Housing プロジェクト： 昨年度までに執筆したハンドブック(BIOCLIMATIC HOUSING -INNOVATIVE DESIGNS FOR WARM CLIMATES-)の校正を行った。

【永田明寛】

住宅の熱湿気特性の同定に関する研究

永田 明寛

住宅の熱湿気環境の予測手法は、現在非常に発達してきているが、竣工後の性能把握・評価という側面はなおざりにされている。例えば、熱損失係数や日射取得係数は、住宅の省エネルギー基準でも基本的な熱性能指標として採用されているが、これは部材の熱性能がわかった上での計算にとどまっている。しかし、性能評価は実際の建物で行うのが本来であろう。建物全体ではなく部材ごとの熱貫流率の現場実測も大きな課題である。我々は、面状発熱体と熱流センサーを用いた熱貫流率の現場測定法を2004年に提案したが、本年度は、この方法の精度について、現場実験により検討した。

温度荷重の簡易予測法に関する研究

永田 明寛

建築部材は、建設開始時から運用時、更に解体時まで温度変化に常時曝される。建築構造によっては、この温度変化による部材の変形や応力が無視できないオーダーになり、設計時に考慮しなければならないことがある。このような「建築物に荷重効果を発生させる温度」が温度荷重だが、部材の温度は外気温や日射量などの外界気象や室温の他、部材構成によっても異なるため一律に定めることができない。そのため、温度荷重を設定するためには、諸条件をもとに計算する必要がある。本研究では、ISO/TR 9492:1987, "Bases for design of structures - Temperature climatic actions" をベースに、気象データの整備や壁・柱・梁への適用法について検討を行っている。

<都市空間システム>

【中林一樹】

都市の震災復興計画立案・復興まちづくり推進のための事前準備に関する研究

中林一樹, 市古太郎, 饗庭 伸, 他

大規模な都市災害からの復興対策も事前に準備しておく必要がある。東京をモデルに、震災後の復興計画を立案し、被災市街地で復興まちづくりを推進するための手法の開発を行う。

トルコ・台湾・日本の都市・住宅の震災復興過程に関する比較研究

中林一樹, 市古太郎, 饗庭 伸, 他

1999年に発生した二つの地震災害、トルコ・マルマラ地震と台湾・集集地震では特徴的な復興方策と過程をたどっている。中越地震及び阪神・淡路大震災と対比させつつ、その復興過程を比較研究し、より有効なアジア型都市・住宅復興対策を考究する。

首都直下地震の被害軽減と防災まちづくりに関する研究

中林一樹

首都直下地震の災害像及びその特徴を解明するとともに、その被害軽減のための震災対策の体系化と、脆弱な木造住宅密集市街地での防災まちづくり推進方策を考究した。

「街づくり条例」の策定と運用に関する研究

中林一樹

大都市郊外自治体で展開されてきた「街づくり条例」について、多摩市の条例策定を支援しつつ、その運用及びまちづくり推進方策を考究した。

【玉川英則】

都市の持続可能性に関する研究

玉川英則

都市の持続可能性について、共同研究により多様な観点（基礎的概念、消費エネルギー、自動車の制御、環境問題、団地建て替えに伴う諸問題等）から検討した成果を編著にまとめ、国連大学出版社より出版した。

都市の魅力・都市空間の認知度と都市型ツーリズムに関する基礎的研究

玉川英則, 粕谷巧

都市の魅力の中でも特に都市の安全性を扱った都市論について、その草分けともいえるジェーン・ジェイコブズの理論を、日本の実情と対照させながら俯瞰する論考を発表した。また、全国のひたたくり事件のデータを用い、その都道府県別の特性を明らかにした。

【秋山哲男】

主要な研究は、以下の3点がある。

第一は、**障害者・高齢者を主たる対象とした鉄道・などのアクセスに拘わるバリア・フリーデザイン、ユニバーサルデザインに関する研究**である。これは基本的には交通計画のユニバーサルデザインの考え方を整理し、計画的には、交通バリアフリー法による基本構想の具体的な検討を新宿区や台東区などで実施したものである。さらに計画を推進している。空港に関してはユニバーサルデザインの観点からガイドラインを作成の支援をした。

第二は、**障害者・高齢者を中心とする交通手段の供給システムに関する研究**（ST サービスやデ

マンド・レスポンシブ・トランスポート (DRT)、バス)である。これは、欧米の政策と日本の交通政策・計画に関する国際的な比較を行うとともに、バス交通計画やSTサービスの計画のありか方を論じている。さらに事例研究として、過疎地域におけるモビリティと公共交通の現状分析や公共交通としてのDRTの将来展望などを検討した。

第三は**観光**である。観光については、観光の人材育成研究を行い、これに基づいて授業を実施した。利用者の観点から観光のユニバーサルデザイン研究を行っている。

【市古太郎】

首都直下地震リスク軽減化のための地区まちづくり計画技術の研究

市古太郎

首都直下地震の被害は建物全壊全焼戸数で見れば阪神淡路の約5倍（内閣府 M7.3, 風速 15m）と想定されている。死者や負傷者といった直接被害だけでなく、住宅や生活環境といった間接被害についても被害軽減化戦略を立て、事前の取り組みに反映していくことが不可欠である。そのため本研究は、都市計画の視点から、地区まちづくり計画技術を構築する。

平成18年度は東京都都市整備局が主催する「都市復興図上訓練」に運営協力し、計画策定手法についての検証と事前準備策としての訓練手法について検討をおこなった。

事前復興論に基づく震災復興まちづくり模擬訓練手法の開発

中林一樹, 饗庭伸, 市古太郎

首都直下地震による甚大な被害想定を前にして、「事前復興」という視点から間接被害を軽減化するため、住民、行政、専門家の訓練手法を開発する。

今年度は、練馬区桜台地区における震災復興まちづくり模擬訓練の運営支援を行い、訓練を通して得られた知見をとりまとめた。また、桜台訓練成果を踏まえて、基礎自治体が備える「震災復興マニュアル」についての素案検討をおこなった。

<都市社会システム>

【星 旦二】

都市の健康水準と高齢者の健康維持要因追跡研究

星 旦二

都市の健康水準を明確にする研究とともに、高齢者の健康維持要因について、追跡研究を実施している。

【羽貝正美】

地方分権改革とローカル・ガバナンスに関する研究

わが国で進行中の分権改革と自治体再編の潮流のなかで、各自治体がどのようにローカル・ガバナンスを再構築しようとしているのか、なお残る課題は何かについて住民自治、団体自治の両面から考究することを目的としている。

今年度は主として自治体再編に注目し、新潟県における市町村合併の過程と帰結について考察した。

フランスにおける基礎自治体と広域行政に関する研究

わが国とは対照的に、現代なお極めて多くの基礎自治体がのこるフランスを対象に、小規模自治体相互の連携・協力の関係がどのように築かれ、都市政策を展開しているのかについて考究することを目的とする。

今年度は関連する先行研究に関する調査を中心に、広域連携による地域再生の取り組みについて基礎的な作業を進めた。

【伊藤史子】

住宅需要と居住地選択に関する研究

伊藤史子（共同研究）

本研究では、多様化する住宅需要の具体データの詳細な分析を通じて、転居行動における住居・居住地選択の要因を明らかにした。女性の消費生活に関するパネルデータ（財・家計経済研究所）を用いて、ライフスタイル・生活意識・生活行動・居住環境に関する項目が転居発生の前後でどのように変化するかについて基礎的な知見を得た（07年度へ継続）。

不動産情報のあり方に関する研究

伊藤史子（共同研究）

我が国では住生活基本法が施行され、住環境向上や住宅ストック管理のため住宅市場を活用する方向へと住宅政策の大きな転換期を迎えた。このために必要不可欠な不動産情報の適切な提供について、本研究では検討を進めた。住宅政策で求められている不動産情報、施策取り組みと情報提供の現状、海外での情報提供現状などについて調査研究をおこない、不動産情報標準化と不動産情報提供要件に関する示唆を得た（07年度へ継続）。

公共プロジェクトの経済評価に関する研究

伊藤史子（共同研究）

本研究では、都市における様々なプロジェクトについて、経済的な手法で評価を試みる実証分析をいくつか行った。新潟県妻有地方の「大地の芸術祭」について、来訪者・地域住民にとっての価値をCVMにより分析した（07年度へ継続）。山形県の公共施設の改善プロジェクトを想定しコンジョイント分析をおこなった。新潟市信濃川流域の河川改修プロジェクトを想定しヘドニック価格法により便益を分析した。新潟市政令市移行に伴う区割り設定代替案について住民の旅行費用に基づき分析した（07年度へ継続）。いずれもプロジェクト実施のあり方に関する示唆を得た。

建築都市コースの研究成果リスト

<建築計画・都市計画>

【上野淳】

1. 審査論文

保育所における園児の居場所の反復性に関する研究

山田あすか, 上野淳

日本建築学会計画系論文集 : No. 602, 2006. 04. : pp35-42

中学校における生徒の場所の想起と居場所の選択に関する考察

常陰有美, 倉斗綾子, 新田佳代, 上野淳

日本建築学会計画系論文集 : No. 604, 2006. 06. : pp31-37

学習集団の編成と展開からみた中学校の建築計画に関する研究

新田佳代, 倉斗綾子, 上野淳

日本建築学会計画系論文集 : No. 605, 2006. 07. : pp39-45.

学校教室の天井高が音・光環境と生徒による環境評価に及ぼす影響

宗方淳, 佐久間哲哉, 平手小太郎, 倉斗綾子, 橋本都子, 上野淳

日本建築学会環境系論文集 : No. 605, 2006. 07. : pp127-132.

学校教室と天井高についての生徒の印象評価と寸法知覚に関する研究

橋本都子, 倉斗綾子, 上野淳

日本建築学会計画系論文集 : No. 606, 2006. 08. : pp41-47.

学校教室に対する児童生徒の評価に関する検討

学齢と慣れが教室の天井高に対する児童生徒の反応に及ぼす影響 (その1)

宗方淳, 倉斗綾子, 佐藤将之, 橋本都子, 丹沢広行, 山本聖一郎, 上野淳

日本建築学会計画系論文集 : No. 607, 2006. 09. : pp65-70.

自立高齢者の地域支援施設のあり方に関する考察

一多摩市いきがいデイサービスセンターの利用実態と利用者の特性

鄭ソイ, 山田あすか, 上野淳

日本建築学会計画系論文集 : No. 608, 2006. 10. : pp35-42

幼保一体型施設の現況に関する報告及び考察

山田あすか, 樋沼綾子, 上野淳

日本建築学会技術報告集, No. 24 : 2006. 12. : pp307-312

都内公立小中学校と地域公共施設との複合化事例における管理・運営の実態と管理者の意識について

斉藤潔, 金子公亮, 上野淳

日本建築学会技術報告集, No. 24 : 2006. 12. : pp317-322

A CONSIDERATION ON THE SOCIAL SUPPORT FACILITY FOR THE INDEPENDENT ELDERLY PEOPLE
IN TAMA NEW TOWN

Soyi CHEONG, Asuka YAMADA, Masumi MATSUMOTO and Jun UENO

Proceeding of the 7th International Symposium on Environment-behavior Research, Dalian, China :
p p. 577-585, 2006.10

The actual condition and the evaluation of Japanese school classrooms from the teachers'
viewpoint on Appropriate Class Size in a Japanese school

Ryoko KURAKAZU, Kuniko HASHIMOTO, Jun MUNAKATA, Jun UENO

EBRA2006 PROCEEDINGS OF THE 7th INTERNATIONAL SYMPOSIUM FOR ENVIRONMENT-BEHAVIOR STUDIES
"HARMONY IN TRANSITION" ;pp67-75

2. 口頭発表

幼保一体型施設の運営実態からみた建築計画に関する研究

樋沼綾子, 山田あすか, 上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 101- : 2006. 09.

児童館における1日の活動展開 児童館の活動場面の展開に関する研究その1

金子公亮・常陰有美・山田あすか・倉斗綾子・上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 125- : 2006. 09.

児童館における集団編成と活動場面の展開に関する考察 児童館の活動場面の展開に関する研究その2

常陰有美・金子公亮・山田あすか・倉斗綾子・上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 127- : 2006. 09.

いきがいデイサービスの提供プログラムによる活動の様子

自立高齢者の地域支援施設の在り方に関する研究(その1)

松本真澄・鄭ソイ・山田あすか・上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 187- : 2006. 09.

いきがいデイサービスの利用者類型とその特性

自立高齢者の地域支援施設の在り方に関する研究(その2)

鄭ソイ・山田あすか・松本真澄・上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 189- : 2006. 09.

ユニットケア特別養護老人ホームにおける入居者の中心的滞在場所からみた入居者の類型化

小規模生活単位型特別養護老人ホームにおける入居者の生活様態 その1

芦沢由紀・濱洋子・山田あすか・上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 201- : 2006. 09.

ユニットケア特別養護老人ホームにおける入居者の移動の様子と交流様態

小規模生活単位型特別養護老人ホームにおける入居者の生活様態 その2

濱洋子・山田あすか・芦沢由紀・上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 203- : 2006. 09.
公立小中学校と生涯学習施設との複合化事例における管理・運営の実態
東京都における公立小中学校と地域公共施設の複合化事例に関する研究 (4)
齊藤潔・金子公亮・上野淳
日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 323- : 2006. 09.

地域条件からみた街区公園の利用様態に関する研究
藤澤祐介・山田あすか・上野淳
日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 445- : 2006. 09.

学校教室の印象および環境評価の実態
首都圏の小・中・高等学校の児童・生徒を対象としたアンケート調査結果
橋本都子 (千葉工業大)・倉斗綾子・宗方淳・上野淳・丹沢広行
日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 1121- : 2006. 09.

教師からみた学校教室環境の評価とその実態 全国公立学校・教師アンケート調査から
倉斗綾子・橋本都子・宗方淳・丹沢広行・山本聖一郎・上野淳
日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 1123- : 2006. 09.

学校教室における児童生徒の行動に関する考察
学齢と慣れが教室の天井高に対する児童生徒の反応に及ぼす影響
佐藤将之 (早稲田大)・倉斗綾子・橋本都子・宗方淳・山本聖一郎・丹沢広行・上野淳
日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 1125- : 2006. 09.

アンケート調査による多摩ニュータウンのこどもの屋外活動の把握
多摩ニュータウンにおけるこどもの屋外活動に関する研究 その1
山田あすか (立命館大)・近藤樹理・松本真澄・倉斗綾子・上野淳
日本建築学会大会学術講演梗概集・F-1 分冊, p. 551- : 2006. 09.

多摩ニュータウンのこどもの屋外活動の展開
多摩ニュータウンにおけるこどもの屋外活動に関する研究 その2
近藤樹理・上野淳・松本真澄・倉斗綾子・山田あすか
日本建築学会大会学術講演梗概集・F-1 分冊, p. 553- : 2006. 06.

6. 作品等

福島県河東町：河東学園 計画総合プロデューサー
基本設計・実施設計監修 (小・中学校一貫, 生涯学習連携のキャンパス計画)
建設工事監修 2007. 03. 第一期工区竣工

山口県豊北町：豊北町統合中学校計画：計画総合プロデューサー
基本設計・実施設計監修
生涯学習施設と複合化する教科教室型運営中学校の計画：2006. 04. 竣工

【吉川徹】

1. 審査論文

個人の空間機能利用パターンにねざした人間空間における空間機能布置モデル

谷口幸平, 吉川徹

日本建築学会計画系論文集, No. 612, pp. 123-129, 2007年2月

地形による負荷と年齢による身体能力の変化を勘案した歩行換算距離の検討

-地形条件と高齢化を勘案した地域施設配置モデル その1-

佐藤栄治, 吉川徹, 山田あすか

日本建築学会計画系論文集, No. 610, pp. 133-139, 2006年12月

不動産価格の形成要因からみた多摩ニュータウンの居住環境評価

中林綾, 佐藤栄治, 吉川徹

都市計画論文集, No. 41-3, pp. 677-682, 2006年10月

利用者による施設選択過程を考慮した地域施設利用構造の研究

-シミュレーション分析による距離減衰の考察-

柳澤一希, 吉川徹

日本建築学会計画系論文集, No. 607, pp. 111-118, 2006年9月

A Method to Quantify Accessibility in Urban Space Reflecting Space Function and kind of Users

- Focusing on Newly Developed Urban Space in Large Cities of Japan -

Eiji Satoh and Tohru Yoshikawa

Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2006, pp. 260-270, 2006年8月

公共施設ストックの空間再編のための機能諸室の捉え方に関する調査

-東京都多摩市を対象として-

謝秉銓, 角田誠, 竹宮健司, 吉川徹, 倉斗綾子

日本建築学会技術報告集, No. 23, pp. 305-308, 2006年6月

2. 口頭発表

Optimum Closing Location and Sequence of Public Facilities from the Viewpoint of Depopulation

kazuki Yanagisawa and Tohru Yoshikawa

Proceedings of the 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, Vol. 1,

pp. 647-650, 2006年10月

高齢社会における文化施設へのアクセシビリティに関する定量的研究

首都圏の美術館を例として

山口庸介, 吉川徹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp. 1087-1090, 2006年9月

来街者の活動空間としての駅前広場に関する研究

歩行者空間の構成に着目して

監物拓, 吉川徹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 833-834, 2006 年 9 月

トラス上での地域施設の利用者移動距離分布のシミュレーション その 2

吉川徹, 柳澤一希

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 785-786, 2006 年 9 月

トラス上での地域施設の利用者移動距離分布のシミュレーション その 1

柳澤一希, 吉川徹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 783-784, 2006 年 9 月

地形と年齢を勘案した歩行換算距離の経路立体形態への応答 2つの定義の比較

佐藤栄治, 吉川徹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 773-774, 2006 年 9 月

魅力的な坂道の空間構成の定量的分析 東京都心部周辺の有名な坂を題材として

上村麻梨子, 吉川徹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 165-166, 2006 年 9 月

俯瞰視線に着目した都市歩行空間の構成に関する研究 ペDESTリアンデッキを例として

内原英貴, 吉川徹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp. 163-164, 2006 年 9 月

4. 研究報告

情報メディアが構築する街のイメージに関する研究-店舗情報の空間分布に着目して

鈴木 宏紀, 吉川 徹

都市計画報告集, No. 5-4, pp. 121-126, 2007 年 3 月

住宅ストックと世帯構成に着目した都市シミュレーション-東京都を対象として

近藤 怜, 吉川 徹

都市計画報告集, No. 5-4, pp. 127-131, 2007 年 3 月

トランジットモール導入前後における歩行者の移動自由度の変化について 那覇国際通りを事例として

鳥袋寛之, 吉川徹

都市計画報告集, No. 5-2, pp. 63-68, 2006 年 10 月

5. 解説, 評論

都市住宅ストックの賦活・更新技術育成はいかにあるべきか ~首都大学東京 21 世紀 COE プログラムの取り組みを通じて~

吉川徹

住宅, Vol. 55, pp. 13-20, 2006 年 9 月

高齢社会における都市計画の課題に関する一考察 -コンパクトシティ形成とアクセシビリティの保障に着目して-

吉川徹

季刊 不動産研究, 第48巻3号, pp. 3-11, 2006年7月

【竹宮健司】

1. 審査付論文

ユニバーサルデザイン建築ガイドラインの策定及び実践状況の自治体間比較

宮田直明 (アサツーディ・ケイ)・竹宮健司

日本建築学会計画系論文集, No. 612, pp. 7-14, 2007年2月

公共施設ストックの空間再編のための機能諸室の捉え方に関する調査—東京都多摩市を対象として—
謝 秉銓, 角田 誠, 竹宮健司, 吉川 徹, 倉斗綾子

日本建築学会技術報告集 No. 23, pp. 305-308, 2006年6月

2. 口頭発表

周産期医療ネットワークの概況と周産期医療施設の稼働実態 周産期医療施設における施設機能及び配置計画に関する研究 (2)

石澤三香子・小林美智・竹宮健司

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1分冊, p. 89-90, 2006年

周産期医療ネットワークの現状分析 周産期医療施設における施設機能及び配置計画に関する研究 (3)

小林美智 (共同設計)・竹宮健司

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1分冊, p. 91-92, 2006年

高齢者ケア施設における多世代交流と空間構成に関する基礎的研究

箕輪優花・竹宮健司

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1分冊, p. 147-148, 2006年

ユニバーサルデザイン建築ガイドラインの策定経緯及び整備項目に関する考察 ユニバーサルデザイン建築ガイドラインの策定及び実践状況の自治体間比較 その1

田龍一・宮田直明・竹宮健司

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1分冊, p. 793-794, 2006年

ユニバーサルデザイン建築ガイドラインにおける利用者タイプ及び建設プロセスに関する考察 ユニバーサルデザイン建築ガイドラインの策定及び実践状況の自治体間比較 その2

宮田直明 (アサツーディ・ケイ)・竹宮健司

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1分冊, p. 795-796, 2006年

新生児集中治療病棟における子どもと家族の療養環境に関する研究

竹宮健司・三浦祥

平成18年度日本建築学会関東支部研究発表会梗概, p7-10, 2007年3月

6. その他

ホスピスの癒しの環境「生きる歓び☆アゲイン」

癒しの環境でめざめる生命のネットワーク

共著, 医歯薬出版株式会社, pp. 232-236, 2007年3月

【鳥海基樹】

2. 口頭発表

「フランスに於ける歴史的環境保全のための行政組織-ヨーロッパ諸国・EUの文化財保護システムに関する研究その1」

鳥海基樹

『文化政策研究会／文化政策準備会 2006年度研究大会予稿集』、2006年12月、pp. 26-29

「フランスの歴史的環境を活かした街づくり」

鳥海基樹

『世界遺産講演会「富岡製糸場の世界遺産をめざして」』

於富岡製糸場東繭倉庫、2006年11月11日、梗概3枚、パワー・ポイント34枚

(本発表に関する新聞記事：『上毛新聞』、2006年11月5日、11月12日、11月21日)

『日仏産業遺産シンポジウム「世界から見た富岡製糸場」』

鳥海基樹-コーディネイト

東京・日仏会館、2006年11月12日(本コイディネートに関する新聞記事：『上毛新聞』、

2006年10月24日、11月14日、11月21日)

3. 専門書

«Les Caractéristiques de l'espace au Japon dans la trajectivité architecture/jardin/ville ou le désordre paysager dû à l'absence de mésocosme»

TORIUMI Motoki

BERQUE Augustin et al. (sous la direction de), *La Ville insoutenable*, Paris, Belin, mai 2006, pp.257-268

古いヨーロッパ・フランスは抵抗する

鳥海基樹

三浦展(編著)：『下流同盟-格差社会とファスト風土』、東京：朝日新書、2007年1月、pp. 195-234

住宅政策なくして中心市街地の活性化なし-フランスに於ける中心市街地活性化のための三位一体の都市政策

鳥海基樹

東京：丸善、住宅総合研究財団印刷助成論文、2007年1月

5. 解説・評論

コスモスの咲きほこる風土への旅-オギュスタン・ベルク氏特別講義解題解説

鳥海基樹

『季刊まちづくり』、第10号、2006年4月、pp. 97-98

【饗庭伸】

1. 審査論文

都市たたむ時代のアーバンデザイン原理 (地域開発 500号記念懸賞論文「人口減少時代の地域開発」優秀賞)

饗庭伸

地域開発第501号, pp37-46, 日本地域開発センター (2006年6月)

2. 口頭発表

参加のまちづくり技術を用いた震災復興まちづくり模擬訓練の報告 その3
一八王子市における導入型模擬訓練の開発一

饗庭伸・中林一樹・市古太郎・吉川仁・高見澤邦郎

地域安全学会研究発表会概要集, pp. 56~59, 地域安全学会 (2006年5月)

公開型市民活動支援助成制度の課題と自治体NP0支援方策への提案

饗庭伸

日本NP0学会大会報告概要集第8号, 日本NP0学会 (2006年6月)

3. 専門書

日本建築学会叢書3 都市建築の発展と制御シリーズ・都市建築のビジョン

日本建築学会 (饗庭伸編著)

日本建築学会 (2007年2月)

造景叢書 復興まちづくりの時代

佐藤滋・真野洋介・饗庭伸 (編著)

建築資料研究社 (2006年10月)

事前復興まちづくりのための都市イメージの共有と地域力の醸成

饗庭伸

新しい自治のしくみづくり, pp425-440, ぎょうせい (2006年7月)

4. 研究報告

連載 構造改革特区制度と都市計画・まちづくり

饗庭伸・野澤千絵・内海麻利・窪田亜矢・桑田仁・真鍋陸太郎・米野史健

新都市第60巻9号~12号 第61巻1号~3号, 都市計画協会 (2006年9月~2007年3月)

【黒川直樹】

2. 口頭発表

チリ・サンチャゴ市における近現代建築の最適再利用とコンヴァージョンの最新動向

黒川 直樹

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 建築歴史・意匠, pp. 173-174 (2006年9月)

【松本真澄】

1. 審査論文

A CONSIDERATION ON THE SOCIAL SUPPORT FACILITY FOR THE INDEPENDENT ELDERLY PEOPLE IN TAMA NEW TOWN : Soyi CHEONG,

Asuka YAMADA, Masumi MATSUMOTO and Jun UENO

Proceeding of the 7th International Symposium on Environment -behavior Research, Dalian, China : p p. 577-585, 2006.10

2. 口頭発表

いきがいデイサービスの提供プログラムによる活動の様子

自立高齢者の地域支援施設の在り方に関する研究 (その1)

松本真澄・鄭ソイ・山田あすか・上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 187- : 2006. 09.

いきがいデイサービスの利用者類型とその特性

自立高齢者の地域支援施設の在り方に関する研究 (その2)

鄭ソイ・山田あすか・松本真澄・上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・E-1 分冊, p. 189- : 2006. 09.

アンケート調査による多摩ニュータウンのこどもの屋外活動の把握

多摩ニュータウンにおけるこどもの屋外活動に関する研究 その1

山田あすか (立命館大)・近藤樹理・松本真澄・倉斗綾子・上野淳

日本建築学会大会学術講演梗概集・F-1 分冊, p. 551- : 2006. 09.

多摩ニュータウンのこどもの屋外活動の展開

多摩ニュータウンにおけるこどもの屋外活動に関する研究 その2

近藤樹理・上野淳・松本真澄・倉斗綾子・山田あすか

日本建築学会大会学術講演梗概集・F-1 分冊, p. 553- : 2006. 06.

<建築生産・材料>

<建築歴史・意匠>

【小林克弘】

1. 審査論文

「動的平衡」概念に着目したルイス・サリヴァンの建築思想の考察」

椎橋武史, 小林克弘

日本建築学会計画系論文集 第 612 号、pp.169-175, 2007 年 2 月

A Case Study on Renovated Offices for Self-Employers in Japan

Tetsuya MITAMURA, Katsuhiko, KOBAYASHI, Akira KINOSHITA

The 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, A+T, Neo Value in Asian Architecture, Korea: Architectural Institute of Korea, Oct.2006, pp.169-172

Development of a New Elevator Addition System for Aged Residential Building

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko, KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI

Adaptable 2006, TU/e, International Conference on Adaptable Building Structures, Proceedings of the Joint CIB Tensinet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction, Volume 1, PP.149-154, July 2006

2. 口頭発表

用途転用を伴った建築改修に関する意匠考察—パリにおける近代建築の改修事例 1—

三田村哲哉, 小林克弘, 木下央

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 分冊, pp.729-730, 2006 年 9 月

「風景概念」の形成期における非西欧圏文化の影響—サー・ジョン・ヴァンブラの建築作品とスラトにおける霊廟建築

木下央, 小林克弘

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 分冊, pp.735-736, 2006 年 9 月

ルイス・サリヴァンの「動的均衡」に関する考察

椎橋武史, 小林克弘, 木下央

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 分冊, pp.737-738, 2006 年 9 月

5. 解説・評論

変わる建築/デザイン教育 15 基本を忘れずに、新たな試みを

小林克弘

建築雑誌 第 122 集, 第 1560 号, p.44, 2007 年 3 月

【山田幸正】

1. 審査付き論文

A Typological Study on the Timber Frame Structures of Traditional Farmhouses in Vietnam —Based on the Results of a Nationwide Survey between 1997 and 2002

Yukimasa YAMADA, TRAN Thi Que Ha

Proceeding of the 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA 2006),
vol. I, pp. 487-492, 2006 年 10 月

Static Loading Test of Traditional Timber Frame Structure in North Vietnam

Kaori FUJITA, Ayumi YAMAGUCHI, TRAN Thi Que Ha, Yukimasa YAMADA

Proceeding of the 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA 2006),
vol. II, pp. 1085-1089, 2006 年 10 月

Study on the Dynamic Characteristics of Traditional Timber Farmhouses in Mountainous Districts
of Japan —Microtremor Measurements in the Hida Region

Hitomi SATO, Kaori FUJITA, Yukimasa YAMADA, Masahisa YAMADA

Proceeding of the 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA 2006),
vol. II, pp. 1096-1099, 2006 年 10 月

2. 口頭発表

ディンの建築的特徴について—ベトナム紅河デルタの伝統的集落における共用施設に関する調査研究
(1)

野儀 和人, 山田 幸正, チャン ティクエハー

日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2 分冊, pp. 287-288, 2006 年 9 月

ディンを集落社会の中核施設として行なわれる伝統的祭礼について—ベトナム紅河デルタの伝統的集
落における共用施設に関する調査研究 (2)

山田 幸正, チャン ティクエハー, 野儀 和人

日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2 分冊, pp. 289-290, 2006 年 9 月

チュントウ団地内の交通実態に関する考察—ベトナム・ハノイの団地型集合住宅の改善手法に関する
調査研究 (4)

藤江 創, 山田 幸正, 佐々木 仁美, チャン ティクエハー, 西田 司

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊, pp. 181-182, 2006 年 9 月

チュントウ団地内の商業活動からみた外部空間の利用実態—ベトナム・ハノイの団地型集合住宅の改
善手法に関する調査研究 (5)

日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊, pp. 183-184, 2006 年 9 月

佐々木 仁美, 山田 幸正, 藤江 創, チャン ティクエハー, 西田 司

A Study on the Early Development Process of Urban Form and Function in the Eastern Sector of
Old Saida (1875-1935)

日本建築学会関東支部研究報告集, pp. 365-368, 2007 年 3 月

アブドルラティーフ ゾーヤ, 山田 幸正

5. 解説・評論

アタテュルク廟とトルコのアイデンティティー

山田 幸正

地中海学会月報, No. 288, p. 5, 2006 年 3 月

王妃ハセキ・ヒュッレム・スルタン

山田 幸正

地中海学会月報, No. 296, p. 8, 2007 年 1 月

【小泉雅生】

2. 口頭発表

透過性を保持した既存木造戸建て住宅の開口部補強に関する研究その2

耐震補強工事における適用と考察

高橋壮太郎, 藤田香織, 小泉雅生

日本建築学会大会学術講演梗概集 C-1 分冊 構造Ⅲ, pp. 351-352, 2006 年 9 月

アシタノイエに見る環境工学デザイン

小泉雅生, 深澤たまき

第 36 回熱シンポジウム「温暖・蒸暑地域から学ぶバイオクライマアティックデザインの未来
ー持続可能な社会における建築の技術・デザインとライフスタイルー」

日本建築学会環境工学委員会熱環境運営委員会, pp. 101-104, 2006 年 11 月

第 1 回コレクティブハウジングフォーラム「多文化社会におけるコレクティブハウジングの暮らし・
住まい・まち」ハウスシンポジウム

住宅総合研究財団 日本建築学会, pp. 22, 2006 年 10 月

4. 研究報告

日本のすまいの境界

小泉雅生／小泉アトリエ

すまいろん, 80 号, 財団法人住宅総合研究財団, pp. 6~pp. 27 (2006 年 10 月)

5. 解説・評論

小泉雅生×タイル

小泉雅生／小泉アトリエ

建築知識, No. 605, エクスナレッジ, pp. 210~pp. 213 (2006 年 4 月)

近作訪問

小泉雅生／小泉アトリエ

住宅特集, No. 240, 新建築社, pp. 165~pp. 165 (2006 年 4 月)

熱を蓄えることとサステナビリティ

小泉雅生／小泉アトリエ

マテリアルデザイン 2006, 彰国社, pp. 21~pp. 23 (2006 年 4 月)

「オール電化住宅なら、家の中心にキッチンを設置することもできます」

小泉雅生／小泉アトリエ

Graph TEPCO, 631 号, 東京電力, pp. 11~pp. 11 (2006 年 7 月)

”スタイルキッチン”でつくる新しい空間

小泉雅生／小泉アトリエ

日経アーキテクチュア, 832号, 日経BP社, pp.56～pp.57 (2006年9月)

最近・家づくり事情

小泉雅生／小泉アトリエ

Memo 男の部屋, 74号, ワールドフォトプレス, ; pp.124～pp.124 (2006年10月)

Orleans.Habiter au japon

小泉雅生／小泉アトリエ

magazine AIR FRANCE, AIR FRANCE, pp.184～pp.184 (2006年10月)

この一年の主なコンペ・ニュース

小泉雅生／小泉アトリエ

土木学会, 第2回景観・デザイン研究発表会, 土木学会, pp.35～pp.35 (2006年12月)

温故知新～想像と創造～

小泉雅生／小泉アトリエ

ヨコハマ文化情報, 101号, 財団法人横浜市芸術文化振興財団, pp.2～3 (2007年3月)

6. 作品等

ARCHILAB JAPAN 2006

Masao Koizumi

HYX Publisher, pp.136～143 (2006年)

鴻巣市文化センター (クレアこうのす)

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

現代日本の建築家, 1号, 社団法人日本建築家協会, pp.278～pp.279 (2006年5月)

戸田市立芦原小学校

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

建築設計資料, 105号, 建築資料研究社, pp.90～pp.97 (2006年6月)

インタラクティブの仕組み

小泉雅生／小泉アトリエ

ディテール, No.169, 彰国社, pp.59～pp.59 (2006年7月)

Switch! the design project

小泉雅生／小泉アトリエ

電化上手, 34号, 東京電力, pp.2～pp.2 (2006年8月)

埼玉県戸田市立芦原小学校

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

ゆか monthly, 第49巻第10号, インテリアタイムス, pp.61～pp.67 (2006年10月)

戸田市立芦原小学校

小泉雅生／小泉アトリエ C+A

文教施設, 24号, 社団法人文教施設協会, pp.129～pp.131 (2006年10月)

オール電化の可能性“デンカノイエ”

小泉雅生／小泉アトリエ

住まいと電化, 209号, 日本工業出版, pp.85～pp.90 (2006年11月)

オール電化住宅が、未来の家のあり方を変える

小泉雅生／小泉アトリエ

TITLE, 第7巻第11号, 文芸春秋, pp.108～pp.109 (2006年11月)

市民のためのスペースを内外に表現した複合建築

小泉雅生／小泉アトリエ

ゆるやかにつながる社会, 日刊建設通信新聞社, pp.168～pp.173 (2006年11月)

「象の鼻」夜はおぼろげ

小泉雅生／小泉アトリエ

日本経済新聞, 日本経済新聞社, pp.5～pp.5 (2006年11月)

ハマ原点囲い演出

小泉雅生／小泉アトリエ

神奈川新聞, 神奈川新聞社, pp.2～pp.2 (2006年11月)

光が囲む「象の鼻」に

小泉雅生／小泉アトリエ

読売新聞, 読売新聞社, pp.5～pp.5 (2006年11月)

「小泉雅生」

小泉雅生

55人の建築家ファイル, アシェット婦人画報社, pp.76～pp.77 (2006年12月)

2007年「住まい&ライフスタイル」カタログ

小泉雅生／小泉アトリエ

LiVES, 31号, 第一プロGRESS, pp.46～47 (2007年2月)

象の鼻地区再整備事業(横浜市)

小泉雅生／小泉アトリエ

日経アーキテクチュア, 843号, 日経BP社, pp.58～59 (2007年3月)

建築家の自邸

小泉雅生／小泉アトリエ+メジロスタジオ

MODERN LIVING, 171号, アシェット婦人画報社, pp.90～91 (2007年3月)

住空間のシキリ

小泉雅生／小泉アトリエ

ディテール, 172号, 彰国社, pp. 60～61 (2007年4月)

イガタ

小泉雅生／小泉アトリエ

住宅特集, 252号, 新建築社, pp. 102～106 (2007年4月)

これからは、キッチンも個性派。

小泉雅生／小泉アトリエ

meuble, 8号, エムディエヌコーポレーション, pp. 102～103 (2007年4月)

【木下央】

1. 審査論文

A Case Study on Renovated Offices for Self-Employers in Japan

Tetsuya MITAMURA, Katsuhiko, KOBAYASHI, Akira KINOSHITA

The 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, A+T, Neo Value in Asian Architecture, Korea: Architectural Institute of Korea, Oct. 2006, pp. 169-172

2. 口頭発表

「風景概念」の形成期における非西欧圏文化の影響ーサー・ジョン・ヴァンブラの建築作品とスラトにおける霊廟建築

木下央, 小林克弘

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 分冊, pp. 735-736, 2006年9月

用途転用を伴った建築改修に関する意匠考察ーパリにおける近代建築の改修事例 1-

三田村哲哉, 小林克弘, 木下央

日本建築学会大会学術講演梗概集, F-2 分冊, pp. 729-730, 2006年9月

【西田司】

1. 審査論文

2. 口頭発表

3. 専門書

4. 研究報告

5. 解説・評論

<建築生産・材料>

【深尾精一・門脇耕三】

1. 審査論文

フランスの団地更新における re' sidentialisation の概念について

阿部順子 (相山女学園大学), 深尾精一

日本建築学会計画系論文集, NO. 611, P. 175-181, 2007 年 1 月

Function of Grids in Adaptable Buildings

Seiichi FUKAO

Proceedings of the Joint CIB, TensiNet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction "adaptables' 06", Vol. 1, pp. 123-127, Jul. 2006

Development of a New Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the Joint CIB, TensiNet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction "adaptables' 06", Vol. 1, pp. 149-154, Jul. 2006

2. 口頭発表

階段室型集合住宅エレベータ付加の既存手法の分析及び開発提案 - 団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 その1-

深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 鈴木啓之

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 653-654, 2006 年 9 月

アクセス方式変更を伴う改修の計画上の特性 - 公共住宅におけるアクセス方式変更を伴う改修に関する研究 その1-

大野亮介, 門脇耕三, 大野木智也, 深尾精一

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 647-648, 2006 年 9 月

アクセス方式変更を伴う改修の設計・施工上の問題点 - 公共住宅におけるアクセス方式変更を伴う改修に関する研究 その2-

門脇耕三, 大野亮介, 大野木智也, 深尾精一:

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 649-650, 2006 年 9 月

団地型集合住宅におけるエレベータ一付加改修工事に関する研究 - 階段室型エレベーターの生産方式-

鈴木啓之, 深尾精一, 門脇耕三

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 651-652, 2006 年 9 月

エレベータ付加改修提案の試験施工を通じた有効性の検証 - 団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 その2-

小川仁, 深尾精一, 山崎真司, 小林克弘, 門脇耕三, 見波進, 田原健一

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 655-656, 2006 年 9 月

改修工事における道連れ工事の発生要因に関する研究 ー公共施設の改修工事における工種の組合せに着目してー

西川謙一, 高橋暁, 深尾精一, 門脇耕三

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 657-658, 2006 年 9 月

住宅用サッシの開発動向に関する調査研究 ー住宅メーカーとサッシメーカーの連携関係を中心としてー

鈴木絵里加, 深尾精一, 門脇耕三

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp. 731-732, 2006 年 9 月

外壁構法の分布とその改修に対する意識調査 ー戸建住宅における外壁構法の実態に関する研究 その1ー

草野祥子, 齋藤茂樹, 深尾精一, 門脇耕三

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp. 243-244, 2006 年 9 月

戸建住宅の外壁改修履歴に関する研究 ー戸建住宅における外壁構法の実態に関する研究 その2ー

齋藤茂樹, 深尾精一, 門脇耕三, 草野祥子

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp. 245-246, 2006 年 9 月

4. 研究報告

団地型公共集合住宅のトータルリモデル

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 阿部順子, 首藤亮一, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 柳沼大樹, 梅田綾

首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 17 年度成果報告会予稿集, pp. 8-9, 2006 年 5 月

5. 解説・評論

団地再生の視点 団地のライフ

深尾精一

日本住宅協会, 住宅 55 巻 5 月号, pp. 9-12, 2006 年 5 月

住宅部品業界に望むこと 巻頭言

深尾精一

リビングアメニティ協会, ALIA NEWS 第 96 号, pp. 2-4, 2006 年 11 月

膨大な量の建築群を将来も使い続けるー首都大・21 世紀 COE プログラム

ストックを活かす・巨大都市建築の活用

深尾精一

都政新報, 2006 年 9 月 12 日

公営住宅の大規模修繕

門脇耕三

建築とまちづくり, No. 344, pp. 34-35, 2006 年 4 月

団地の魅力再びー外付けエレベータを開発ー
門脇耕三
都政新報, 第6面, 2006年9月15日

団地の改修を通じて, ストック活用を思う
門脇耕三
建築技術, No. 686 (2007年3月号), p. 184, 2007年2月

6. 作品等

階段一体型エレベータ付加システム試作実験棟
深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 梅田綾, 大野亮介, 柳沼大樹, 羽田和樹
建設通信新聞, 第2面, 2006年12月14日

階段一体型エレベータ付加システム試作実験棟
深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 梅田綾, 大野亮介, 柳沼大樹, 羽田和樹
日経アーキテクチュア, No. 839 (2007年1月8日号), pp. 96-97, 2007年1月

階段一体型エレベータ付加システム試作実験棟・円弧梁による片廊下・バルコニー増築システム
深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 梅田綾, 大野亮介, 柳沼大樹, 羽田和樹
東京新聞, 第30面, 2007年1月26日

【橋高義典】

1. 審査付き論文

建築石材仕上げの視覚的評価に及ぼす表面性状の影響に関する研究, その4 砂岩の視覚的評価に及ぼす距離・照射角度の複合的影響
土屋潤, 橋高義典, 田村雅紀
日本建築学会構造系論文集, 第603号, pp25-29, 2006. 5

光沢系アルミパネルを用いた外装壁改修操作による団地型集合住宅の色彩的印象評価
佐藤真由美, 橋高義典, 田村雅紀, 土屋潤
日本建築学会技術報告集, 第24号, pp. 39-42, 2006. 12

Properties of Porous Mortar Containing High Water Absorbent Resin for
the Use of Environmental Concrete Interlocking Blocks
Kitsutaka Yoshinori and Kikuta Mayo
Proceedings of the 8th International Conference on Concrete Block
Paving, pp. 243-251, November 6-8, 2006. 9

Application of Hollow Prestressed Concrete Panel for Planting Wall

Panel,

Yoshinori Kitsutaka and Yumiko Teratou

Proceedings of the 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, RPP-18-26, 2006.11

A Method of Numerical Analysis for Vibrant Behavior of High-Strength Fiber Reinforced Concrete During SSI

Shintaro Fukuoka, Yoshinori Kitstutaka and Carlos Cuadra

Proceedings of the 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, HSP-59-68, 2006.11

Visual Effects of Building Stone Finishing,

Jun Tsuchiya, Yoshinori Kitsutaka and Masaki Tamura

Proceedings of the International Symposium on Sustainable Habitat Systems, Kyushu University, pp.67-76, 2006.12

コンクリート構造物における価値向上のためのアンケート調査

松村光太郎, 田村雅紀, 舟川勲, 橋高義典

コンクリート工学年次論文集, Vol.28, No.1, pp.2027-2032, 2006.7

2. 口頭発表

建築群の維持保全における多様性の時間空間的調和 その2. 建築外装の色彩改修への評価手法の適用例,

橋高義典

日本建築学会学術講演梗概集 A-1 分冊, pp.1069-1070, 2006.9

鉄筋腐食促進による劣化作用を受けた鉄筋コンクリートかぶり部の評価に関する研究

新井健志, 橋高義典, 田村雅紀

日本建築学会学術講演梗概集 A-1 分冊, pp.187-188, 2006.9

建築内装仕上げ材料を対象としたホルムアルデヒド低減効果の簡易試験方法と材料性能評価

高柳靖史, 橋高義典, 田村雅紀

日本建築学会学術講演梗概集 A-1 分冊, pp.1099-1100, 2006.9

光沢系アルミパネルを用いた外装壁改修操作による団地型集合住宅の色彩的印象評価

佐藤真由美, 橋高義典, 田村雅紀

日本建築学会学術講演梗概集 A-1 分冊, pp.1065-1066, 2006.9

外装石材の視覚的評価に及ぼす表面仕上げと色彩特性の影響に関する研究, その6

砂岩の印象評価に及ぼす観察距離・光の照射角度の影響,

土屋潤, 橋高義典, 田村雅紀

日本建築学会学術講演梗概集 A-1 分冊, pp1063-1064, 2006.9

土の色彩的性質と土壁に与える影響に関する研究

蛭田暁, 橘高義典, 田村雅紀

日本建築仕上学会研究発表論文集, pp.135-138, 2006.10

各種建築外装仕上げパネルの耐火性能に関する研究

平松宏基, 橘高義典, 田村雅紀

日本建築学会関東支部研究報告集 1, pp.1-4, 2007-3

4. 研究報告

コンクリートの文化性に関する調査研究委員会報告書

橘高義典, 田村雅紀 (共著)

日本コンクリート工学協会, 2006.4

5. 解説・評論

JCI 基準 (JCI-S-001?003) の概要

橘高義典, 金久保利之

コンクリート工学, Vol.44, No.12, pp.10-15, 2006.12

デザインレビュー, 建築材料・エイジングの視点,

橘高義典

建築雑誌, VOL.121, NO.1551, pp.24-25, 2006.9

鼎談, デザインと材料研究の視点からみた建築素材について

橘高義典, 杉本賢司, 山下保博

建築雑誌, VOL.122, NO.1560, pp.4-9, 2007.3

【角田誠】

1. 審査付き論文

A Study on Transformation of Spatial Reorganization for Regeneration of Public Facilities -
A Case Study in Tama-City -

HSIEH Ping-Chuan, Makoto TSUNODA

The 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia Vol.2, pp.1397-1402,
2006.10

学校建築における部分コンバージョンの設計プロセスに関する調査

角田 誠, 岡村卓麻

日本建築学会技術報告集 No.23, pp.321-324, 2006年6月

公共施設ストックの空間再編のための機能諸室の捉え方に関する調査—東京都多摩市を対象として—

謝 秉銓, 角田 誠, 竹宮健司, 吉川 徹, 倉斗綾子

日本建築学会技術報告集 No.23, pp.305-308, 2006年6月

2. 口頭発表

地域材活用を目的とした木造住宅の生産供給実態に関する調査研究

田中亜希・角田 誠

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 701-702, 2006年.9月

EUにおける解体工事に関する研究 その1 建築物の解体工事に関する調査

坂本 優・清家 剛・鈴木香菜子・角田 誠 ほか

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 671-672, 2006年.9月

EUにおける解体工事に関する研究 その2 資源循環を考慮した解体の仕組みに関する調査

鈴木香菜子・清家 剛・坂本 優・角田 誠 ほか

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 673-674, 2006年.9月

室空間再編に着目した開放諸室スペックの実態把握 東京都多摩市公共施設ストックの有効活用に関する研究 その1

謝 秉銓・角田 誠

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 659-660, 2006年.9月

施設ニーズに着目した既存空間転用シミュレーション 東京都多摩市公共施設ストックの有効活用に関する研究 その2

角田 誠・謝 秉銓

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, pp. 661-662, 2006年.9月

市町村合併に伴う既存庁舎空間の利用及び転用計画に関する調査研究

岡本奈留美・角田 誠

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1, 選抜梗概, pp. 5-8, 2006年.9月

3. 専門書

地球にやさしい住まいと暮らし

角田 誠

生活価値創造住宅開発技術組合, 全55頁, 2006年10月

5. 解説・評論

ものづくりにおける資源循環

角田 誠・清家 剛

総合論文誌(日本建築学会), No. 5, pp. 60-61, 2007年2月

プレハブ住宅の部品・部材再生の現場

角田 誠

建築雑誌, vol. 122, No. 1560, p39, 2007年3月

【田村雅紀】

1. 審査論文

建築石材仕上げの視覚的評価に及ぼす表面性状の影響に関する研究, その4 砂岩の視覚的評価に及ぼす距離・照射角度の複合的影響

土屋潤, 橋高義典, 田村雅紀

日本建築学会構造系論文集, 第603号, pp25-29, 2006.5

光沢系アルミパネルを用いた外装壁改修操作による団地型集合住宅の色彩的印象評価

佐藤真由美, 橘高義典, 田村雅紀, 土屋潤,

日本建築学会技術報告集日本建築学会技術報告集, 第24号, pp. 39-42, 2006. 12

コンクリート構造物における価値向上のためのアンケート調査

松村光太郎, 田村雅紀, 舟川勲, 橘高義典

コンクリート工学年次論文集, Vol. 28, No. 1, pp. 2027-2032, 2006. 7

2. 口頭発表

携帯型ひび割れ幅測定器を用いたコンクリート構造体の安全性に関するユーザー自主管理手法の一考察

田村雅紀, 茨田匠, 近藤照夫

コンクリート構造物への非破壊検査の展開論文集 No. 2, 日本非破壊検査協会, pp. 79-85, 2006. 8

低・中品質再生粗骨材の改質処理による構造体への適用に関する研究 (その3 耐久性)

田村雅紀, 辻埜真人, 丸山一平, 野口貴文

第60回セメント技術大会学術講演集, pp. 119-120, 2006. 5

携帯型ひび割れ幅測定器を使用した構造体の安全性に関するユーザー自主管理手法の一考察

田村雅紀, 茨田匠, 近藤照夫

オーガナイズドセッション, 日本建築学会学術講演梗概集 A-1, pp. 133-136, 2006. 9

樹脂型枠を使用したコンクリート面の仕上がり性状に関する研究 (その5 モルタルの付着性状)

下屋敷朋千, 藤本効, 田村雅紀, 近藤照夫

第60回セメント技術大会学術講演集, pp. 264-265, 2006. 5

低・中品質再生粗骨材の改質処理による構造体への適用に関する研究 (その4 RC梁曲げ特性)

辻埜真人, 田村雅紀, 丸山一平, 野口貴文

第60回セメント技術大会学術講演集, pp. 121-122, 2006. 5

低・中品質再生粗骨材の表面改質処理による構造体への適用に関する研究, その4 普通コンクリートとの比較

辻埜真人, 福山智子, 田村雅紀, 他

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 665-667, 2006. 9

鉄筋腐食促進による劣化作用を受けた鉄筋コンクリートかぶり部の評価に関する研究

新井健志, 橘高義典, 田村雅紀

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 187-188, 2006. 9

建築内装仕上げ材料を対象としたホルムアルデヒド低減効果の簡易試験方法と材料性能評価

高柳靖史, 橘高義典, 田村雅紀

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 1099-1100, 2006. 9

光沢系アルミパネルを用いた外装壁改修操作による団地型集合住宅の色彩的印象評価

佐藤真由美, 橋高義典, 田村雅紀

日本建築学会学術講演梗概集, pp. 1065-1066, 2006. 9

外装石材の視覚的評価に及ぼす表面仕上げと色彩特性の影響に関する研究, その6 砂岩の印象評価に及ぼす観察距離・光の照射角度の影響

土屋潤, 橋高義典, 田村雅紀

日本建築学会学術講演梗概集, pp1063-1064, 2006. 9

土の色彩的性質と土壁に与える影響に関する研究

蛭田暁, 橋高義典, 田村雅紀

日本建築仕上学会研究発表論文集, pp. 135-138, 2006. 10

各種建築外装仕上げパネルの耐火性能に関する研究

平松宏基, 橋高義典, 田村雅紀

日本建築学会関東支部研究報告集 1, pp. 1-4, 2007-3

Surface Characteristics of Concrete with environment-conscious Synthetic Resin Type Formwork
Part 1

Masaki Tamura et al.

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006. 11

Study on the Low Quality Recycled Coarse Aggregate to Concrete Structure by Surface Modification Treatment

Masato Tsujino, Masaki Tamura et al.

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006. 11

Surface Characteristics of Concrete with environment-conscious Synthetic Resin Type Formwork
Part 2

Shimoyashiki Tomoaki, Masaki Tamura et al.

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006. 11

Surface Characteristics of Concrete with environment-conscious Synthetic Resin Type Formwork
Part 3

Teruo Kondo, Masaki Tamura et al.

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006. 11

Visual Effects of Building Stone Finishing, Proceedings of International Symposium on Sustainable Habitat Systems

Jun Tsuchiya, Yoshinori Kitsutaka and Masaki Tamura

Kyushu University, pp. 67-76, 2006. 12

3. 専門書

マテリアル・デザイン 2007

田村雅紀(共著)

ディテール, 2007.3

4. 研究報告

コンクリートの文化性に関する調査研究委員会報告書

橘高義典, 田村雅紀 (共著)

日本コンクリート工学協会, 2006.4

外壁全面修繕工法の調査検討業務報告書 その2

田村雅紀 (共著)

都市再生機構, ベターリビング, 2006.4

コンクリート産業における環境負荷評価マテリアルフローシュミレータの開発および最適化支援システムの構築に関する研究

田村雅紀 (共著)

平成17年度環境省廃棄物処理用化学研究費報告書, 2006.5

サステナブル・ビルディング普及のための基本的な考え方

田村雅紀 (共著)

日本建築学会地球環境委員会, サステナブル・ビルディング小委員会報告書, 2007.3

5. 解説・評論

れんが・かわらに関するQ&A

田村雅紀, 兼松学

Finex, Vol.18, No.109, pp.47-49, 2006.12

「コンクリート文化」創成に向けて

田村雅紀

コンクリート工学, Vol.45, No.1, pp.52-57, 2007.1

< 建築構造 >

【芳村学, 中村孝也】

1. 審査付論文

既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準における「せん断柱」の靱性指標再評価に関する一考察

上野裕美子 (構造計画研究所), 芳村学

日本建築学会構造系論文集, 第609号, pp.155-163 (2006年11月)

脆性的挙動を示す既存中層鉄筋コンクリート造集合住宅の耐震性評価 -柱の実験結果に基づく検討-
保木和明, 芳村学

日本建築学会構造系論文集, 第 610 号, pp. 145-152 (2006 年 12 月)

2. 口頭発表

せん断破壊型鉄筋コンクリート柱の損傷状態推定に関する研究

高稲宜和, 芳村学

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 387-388 (2006 年 9 月)

袖壁と直交壁が付く RC 柱のせん断終局強度に関する考察

金 紅日, 芳村学

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 415-416 (2006 年 9 月)

耐震診断基準における「せん断柱」の靱性指標再評価-鉄筋コンクリート造建築物を対象として- (その 1 靱性指標算定方法)

芳村学, 上野裕美子 (構造計画研究所)

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 433-434 (2006 年 9 月)

耐震診断基準における「せん断柱」の靱性指標再評価-鉄筋コンクリート造建築物を対象として- (その 2 靱性指標算定結果)

上野裕美子 (構造計画研究所), 芳村学

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 435-436 (2006 年 9 月)

柱の荷重低下を考慮した骨組解析による旧基準中層集合住宅の耐震性評価

保木和明, 芳村学

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2, pp. 437-438 (2006 年 9 月)

【山崎真司】

1. 審査論文

繰返し曲げを受ける鋼棒履歴ダンパーのエネルギー吸収能力

田原 健一, 山崎 真司, 見波 進, 柳沼 大樹

鋼構造年次論文報告集, 第 14 巻, 日本鋼構造協会, pp. 335-342 (2006 年 11 月)

長周期地震動を受ける鋼構造超高層建築の耐震性能評価に関する考察

見波 進, 山崎 真司, 松野 瓦吾

鋼構造年次論文報告集, 第 14 巻, 日本鋼構造協会, pp. 379-386 (2006 年 11 月)

強震を受ける鋼構造骨組のエネルギー応答

松野 瓦吾, 山崎 真司, 見波 進

鋼構造年次論文報告集, 第 14 巻, 日本鋼構造協会, pp. 387-392 (2006 年 11 月)

Experimental Study on Torsional Response of Coupled Vibration Control Structures with Steel

Dampers

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the Fifth International Conference on Behaviour of Steel Structures in Seismic Areas (STESSA 2006), pp. 785–791 (2006. 8)

Ultimate Performance of Hysteresis Steel Rod Damper

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Hiroki YAGINUMA

Proceedings of Eighth Pacific Structural Steel Conference (PSSC 2007), Vol. 1, pp. 51–56 (2007. 3)

Analysis of Progressive Collapse in Multi-storey Frames based on Post-buckling Behaviour of Steel Columns

Susumu MINAMI and Shinji YAMAZAKI

Proceedings of Eighth Pacific Structural Steel Conference (PSSC 2007), Vol. 2, pp. 321–326 (2007. 3)

2. 口頭発表

連結制振構造に関する研究 その6 理論最適解近傍での性状

田原 健一, 山崎 真司, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2 分冊, 日本建築学会, pp. 751–752 (2006 年 9 月)

鋼棒を用いた履歴ダンパーの限界性能

柳沼 大樹, 山崎 真司, 見波 進, 田原 健一

日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2 分冊, 日本建築学会, pp. 789–790 (2006 年 9 月)

鋼構造多層骨組における進行性崩壊に関する研究

羽田 和樹, 山崎 真司, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 661–662 (2006 年 9 月)

長周期地震動を受ける梁降伏型骨組の耐震性能評価

松野 互吾, 山崎 真司, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 677–678 (2006 年 9 月)

中心圧縮鋼柱の座屈後挙動解析

山崎 真司

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 821–822 (2006 年 9 月)

H形断面鋼柱の塑性曲げ振れ座屈挙動

外山 圭佑, 山崎 真司, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 831–832 (2006 年 9 月)

任意方向の水平力を受ける H 形断面鋼柱の弾塑性挙動に関する実験的研究 その3 単調載荷実験と解析結果の比較および考察

見波 進, 山崎 真司, 外山 圭佑, 高濱亮太

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 833–834 (2006 年 9 月)

任意方向の水平力を受ける H 形断面鋼柱の弾塑性挙動に関する実験的研究 その 4 繰返し載荷実験結果と解析結果の比較および考察

高濱 亮太, 山崎 真司, 見波 進, 外山 圭佑

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 835-836 (2006 年 9 月)

階段室型集合住宅エレベータ付加の既存手法の分析及び開発提案 団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 その 1

深尾 精一, 山崎 真司, 小林 克弘, 門脇 耕三, 見波 進, 小川 仁, 鈴木 啓之

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, 日本建築学会, pp. 653-654 (2006 年 9 月)

エレベータ付加改修提案の試験施工を通じた有効性の検証 団地住棟のバリアフリー改修手法の開発提案 その 2

小川 仁, 深尾 精一, 山崎 真司, 小林 克弘, 門脇 耕三, 見波 進, 田原 健一

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, 日本建築学会, pp. 655-656 (2006 年 9 月)

鋼構造多層骨組における進行性崩壊 その 1 進行性崩壊の停止条件および動的解析モデルの検討

見波 進, 山崎 真司, 羽田 和樹

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 89-92 (2007 年 3 月)

鋼構造多層骨組における進行性崩壊 その 2 動的解析結果

羽田 和樹, 山崎 真司, 見波 進

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 93-96 (2007 年 3 月)

繰返し載荷履歴が鋼梁の耐力とエネルギー吸収能力に及ぼす影響 その 1 繰返し載荷実験

見波 進, 山崎 真司, 柳沼 大樹

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 141-144 (2007 年 3 月)

繰返し載荷履歴が鋼梁の耐力とエネルギー吸収能力に及ぼす影響 その 2 実験結果の考察とエネルギー吸収能力の予測方法

柳沼 大樹, 山崎 真司, 見波 進

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 145-148 (2007 年 3 月)

制振構造における履歴型ダンパーの地震応答性状

小林 珠恵, 山崎 真司, 見波 進, 田原 健一

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 225-228 (2007 年 3 月)

制振手法による既存構造物の耐震性向上 —制振構造に用いる履歴ダンパーの限界性能—

山崎 真司, 見波 進, 田原 健一, 柳沼 大樹

東京都立大学 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 17 年度成果報告会, pp. 30-31 (2006 年 5 月)

Development of a New Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI and Susumu

MINAMI

Proceedings of the joint CIB, Tensinet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction (Adaptables2006), volume1, pp.149-154 (2006.7)

4. 研究報告

巨大地震による長周期地震動の予測と既存建築物の耐震性と今後の課題

山崎 真司, 見波 進 (分担執筆)

2006 年度日本建築学会大会, 特別研究部門, 研究協議会資料, pp. 45, 84-91, 99-101, 190-196, 228-229 (2006 年 9 月)

首都圏を襲うであろう直下型地震・海溝型地震に対する建物の終局耐震性能

山崎 真司

2006 年度日本建築学会大会, 防災部門, パネルディスカッション資料, pp. 15-20 (2006 年 9 月)

弾塑性地震応答における P-Δ 効果

山崎 真司

第 7 回日中建築構造技術交流会論文集, pp. 33-42 (2006 年 10 月)

東海地震等巨大災害への対応特別調査委員会報告書

山崎 真司, 見波 進 (分担執筆)

日本建築学会, pp. 163, 240-253, 267-268, 452-459, 508-509 (2006 年 3 月)

6. 作品

階段一体型エレベータ付加システム試作実験棟

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 梅田綾, 大野亮介, 柳沼大樹, 羽田和樹

建設通信新聞, 第 2 面, 2006 年 12 月 14 日

階段一体型エレベータ付加システム試作実験棟

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 梅田綾, 大野亮介, 柳沼大樹, 羽田和樹

日経アーキテクチュア, No. 839 (2007 年 1 月 8 日号), pp. 96-97, 2007 年 1 月

階段一体型エレベータ付加システム試作実験棟・円弧梁による片廊下・バルコニー増築システム

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 梅田綾, 大野亮介, 柳沼大樹, 羽田和樹

東京新聞, 第 30 面, 2007 年 1 月 26 日

【藤田香織】

1. 審査論文

2. 口頭発表

3. 専門書

4. 研究報告

5. 解説・評論

【北山和宏】

1. 審査論文

Earthquake Resistant Performance of Precast Prestressed Concrete Beam-Column Joints Assembled by Post-Tensioning Steel under Bi-Lateral Load Reversals

Kitayama, K., Masuda, T., Tajima, Y. and Kishida, S.

Proceedings of Fib 2006 Naples Congress, CD-ROM, ID 8-13, pp.1-12(2006, June.)

圧着接合されたプレストレスト・コンクリート柱梁接合部の損傷過程におけるせん断ひび割れ挙動に関する研究

北山和宏、岸田慎司（芝浦工業大学）、永井覚（鹿島）

コンクリート工学年次論文集、Vol. 28、No. 2、pp. 301-306(2006年7月)

プレストレスト鉄筋コンクリート（PRC）柱・梁十字型部分架構の耐震性能に関する研究

田島祐之、北山和宏、岸田慎司（芝浦工業大学）、木藤明義

コンクリート工学年次論文集、Vol. 28、No. 2、pp. 343-348(2006年7月)

2. 口頭発表

連層鉄骨ブレースで耐震補強されたRC建物の三方向地震応答解析 ～連層鉄骨ブレースが基礎浮き上がり破壊あるいは全体曲げ破壊する場合～

永作智也、北山和宏、李康寧(CANNY コンサルタント)

日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2 構造 IV、pp. 649-650(2006年9月)

付着性能に注目したプレストレスト鉄筋コンクリート（PRC）柱梁十字形部分架構の復元力特性に関する研究（その1、その2）

北山和宏、田島祐之、岸田慎司（芝浦工業大学）、宮崎裕之介

日本建築学会大会学術講演梗概集、C-2 構造 IV、pp. 1-4(2006年9月)

3. 専門書

建築家のための鉄筋コンクリート構造

北山和宏、林静雄（東京工業大学）、衣笠秀行（東京理科大学）、坂田弘安（東京工業大学）

市ヶ谷出版社(2007年1月)

【山村一繁】

1. 審査論文

常時微動による木造建物の耐震補強効果の評価

山村 一繁

日本地震工学シンポジウム論文集, paper No.0171, pp. 790-793 (2006年11月)

2. 口頭発表

軟弱地盤上に建つ中低層建物の振動特性同定に関する研究

藤井 博史、西川 孝夫、山村 一繁

日本建築学会大会学術講演梗概集、B-2、構造 II、pp. 425-426 (2006年9月)

微動観測による建築会館の振動特性把握 目的及び地下階における微動特性

片岡 俊一(弘前大), 山村 一繁, 吉村 智昭(大成建設), 境 茂樹(ハザマ), 渡壁 守正(戸田建設)
日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2, 構造 II, pp. 487-488 (2006年9月)

微動観測による建築会館の振動特性把握 上部構造の振動特性

山村 一繁, 片岡 俊一(弘前大), 吉村 智昭(大成建設), 境 茂樹(ハザマ), 渡壁 守正(戸田建設)
日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2, 構造 II, pp. 489-490 (2006年9月)

【見波進】

1. 審査論文

繰返し曲げを受ける鋼棒履歴ダンパーのエネルギー吸収能力

田原 健一, 山崎 真司, 見波 進, 柳沼 大樹

鋼構造年次論文報告集, 第14巻, 日本鋼構造協会, pp. 335-342 (2006年11月)

長周期地震動を受ける鋼構造超高層建築の耐震性能評価に関する考察

見波 進, 山崎 真司, 松野 瓦吾

鋼構造年次論文報告集, 第14巻, 日本鋼構造協会, pp. 379-386 (2006年11月)

強震を受ける鋼構造骨組のエネルギー応答

松野 瓦吾, 山崎 真司, 見波 進

鋼構造年次論文報告集, 第14巻, 日本鋼構造協会, pp. 387-392 (2006年11月)

Experimental Study on Torsional Response of Coupled Vibration Control Structures with Steel Dampers

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the Fifth International Conference on Behaviour of Steel Structures in Seismic Areas (STESSA 2006), pp. 785-791 (2006.8)

Ultimate Performance of Hysteresis Steel Rod Damper

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Hiroki YAGINUMA

Proceedings of Eighth Pacific Structural Steel Conference (PSSC 2007), Vol. 1, pp. 51-56 (2007.3)

Analysis of Progressive Collapse in Multi-storey Frames based on Post-buckling Behaviour of Steel Columns

Susumu MINAMI and Shinji YAMAZAKI

Proceedings of Eighth Pacific Structural Steel Conference (PSSC 2007), Vol. 2, pp. 321-326 (2007.3)

2. 口頭発表

連結制振構造に関する研究 その6 理論最適解近傍での性状

田原 健一, 山崎 真司, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2 分冊, 日本建築学会, pp. 751-752 (2006年9月)

鋼棒を用いた履歴ダンパーの限界性能

柳沼 大樹, 山崎 真司, 見波 進, 田原 健一

日本建築学会大会学術講演梗概集, B-2 分冊, 日本建築学会, pp. 789-790 (2006 年 9 月)

柱梁接合部における梁端接合部の破壊評価方法の検討 その 2 材料試験およびローカルクライテリア
見波 進, 中込 忠男, 山田 文富, 石田 正法

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 589-590 (2006 年 9 月)

鋼構造多層骨組における進行性崩壊に関する研究

羽田 和樹, 山崎 真司, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 661-662 (2006 年 9 月)

長周期地震動を受ける梁降伏型骨組の耐震性能評価

松野 互吾, 山崎 真司, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 677-678 (2006 年 9 月)

H 形断面鋼柱の塑性曲げ捩れ座屈挙動

外山 圭佑, 山崎 真司, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 831-832 (2006 年 9 月)

任意方向の水平力を受ける H 形断面鋼柱の弾塑性挙動に関する実験的研究 その 3 単調載荷実験と
解析結果の比較および考察

見波 進, 山崎 真司, 外山 圭佑, 高濱亮太

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 833-834 (2006 年 9 月)

任意方向の水平力を受ける H 形断面鋼柱の弾塑性挙動に関する実験的研究 その 4 繰返し載荷実験
結果と解析結果の比較および考察

高濱 亮太, 山崎 真司, 見波 進, 外山 圭佑

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-1 分冊, 日本建築学会, pp. 835-836 (2006 年 9 月)

せん断破壊型 RC 柱のサブストラクチャ擬似動的実験 その 1 実験概要

中村 孝也, 芳村 学, 傳野 悟史, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, 日本建築学会, pp. 359-360 (2006 年 9 月)

せん断破壊型 RC 柱のサブストラクチャ擬似動的実験 その 2 実験結果

傳野 悟史, 中村 孝也, 芳村 学, 見波 進

日本建築学会大会学術講演梗概集, C-2 分冊, 日本建築学会, pp. 361-362 (2006 年 9 月)

階段室型集合住宅エレベータ付加の既存手法の分析及び開発提案 団地住棟のバリアフリー改修手法
の開発提案 その 1

深尾 精一, 山崎 真司, 小林 克弘, 門脇 耕三, 見波 進, 小川 仁, 鈴木 啓之

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, 日本建築学会, pp. 653-654 (2006 年 9 月)

エレベータ付加改修提案の試験施工を通じた有効性の検証 団地住棟のバリアフリー改修手法の開発
提案 その 2

小川 仁, 深尾 精一, 山崎 真司, 小林 克弘, 門脇 耕三, 見波 進, 田原 健一

日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, 日本建築学会, pp. 655-656 (2006 年 9 月)

鋼構造多層骨組における進行性崩壊 その1 進行性崩壊の停止条件および動的解析モデルの検討

見波 進, 山崎 真司, 羽田 和樹

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 89-92 (2007 年 3 月)

鋼構造多層骨組における進行性崩壊 その2 動的解析結果

羽田 和樹, 山崎 真司, 見波 進

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 93-96 (2007 年 3 月)

繰返し載荷履歴が鋼梁の耐力とエネルギー吸収能力に及ぼす影響 その1 繰返し載荷実験

見波 進, 山崎 真司, 柳沼 大樹

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 141-144 (2007 年 3 月)

繰返し載荷履歴が鋼梁の耐力とエネルギー吸収能力に及ぼす影響 その2 実験結果の考察とエネルギー吸収能力の予測方法

柳沼 大樹, 山崎 真司, 見波 進

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 145-148 (2007 年 3 月)

制振構造における履歴型ダンパーの地震応答性状

小林 珠恵, 山崎 真司, 見波 進, 田原 健一

第 77 回日本建築学会関東支部 2006 年度研究報告集, I, 日本建築学会, pp. 225-228 (2007 年 3 月)

下町建築ストックの地震リスク情報化とその地域での共有化

見波 進, 饗庭 伸, 山村 一繁, 藤田 香織, 高見澤 邦郎

首都大学東京 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 17 年度成果報告会, pp. 24-25 (2006 年 5 月)

制振手法による既存建造物の耐震性向上 —制振構造に用いる履歴ダンパーの限界性能—

山崎 真司, 見波 進, 田原 健一, 柳沼 大樹

東京都立大学 21 世紀 COE プログラム「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」平成 17 年度成果報告会, pp. 30-31 (2006 年 5 月)

Development of a New Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the joint CIB, Tensinet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction (Adaptables2006), volume1, pp. 149-154 (2006. 7)

4. 研究報告

巨大地震による長周期地震動の予測と既存建築物の耐震性と今後の課題

山崎 真司, 見波 進 (分担執筆)

2006 年度日本建築学会大会, 特別研究部門, 研究協議会資料, pp. 45, 84-91, 99-101, 190-196, 228-229 (2006 年 9 月)

東海地震等巨大災害への対応特別調査委員会報告書

山崎 真司, 見波 進 (分担執筆)

日本建築学会, pp.163, 240-253, 267-268, 452-459, 508-509 (2006年3月)

6. 作品

階段一体型エレベータ付加システム試作実験棟

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 梅田綾, 大野亮介, 柳沼大樹, 羽田和樹

建設通信新聞, 第2面, 2006年12月14日

階段一体型エレベータ付加システム試作実験棟

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 梅田綾, 大野亮介, 柳沼大樹, 羽田和樹

日経アーキテクチュア, No.839 (2007年1月8日号), pp.96-97, 2007年1月

階段一体型エレベータ付加システム試作実験棟・円弧梁による片廊下・バルコニー増築システム

深尾精一, 山崎真司, 門脇耕三, 見波進, 小川仁, 田原健一, 鈴木啓之, 梅田綾, 大野亮介, 柳沼大樹, 羽田和樹

東京新聞, 第30面, 2007年1月26日

<建築環境>

【石野久彌・中山哲士】

1. 審査論文

自然換気・シーリングファンを併用した空調換気システムの制御手法と性能評価に関する研究
水出喜太郎(日建設計), 石野久彌, 郡 公子, 永田明寛, 長井達夫, 大高一博, 大原千幸
日本建築学会環境系論文集, No. 604, pp. 69-76, 2006年6月

ヒートアイランド低減化手法としての屋上緑化の実測評価
一ノ瀬雅之(東京理科大学), 石野久彌, 郡 公子, 永田明寛
日本建築学会環境系論文集, NO. 605, pp. 47-54, 2006年7月

放射輝度分布の不規則性と雲の状態による要因, 日射の直散分離に影響を及ぼす気象要素の特性研究
(その2)

中山哲士, 石野久彌
日本建築学会環境系論文集, No. 611, pp. 21-27, 2007年1月

2. 口頭発表

気流感を活用した快適性に関する実践的研究
水出喜太郎(日建設計), 石野久彌, 郡公子, 永田明寛, 長井達夫
IBPSA-Japan 日本支部研究発表会講演論文集(発行予定)(審査付き), 2007年3月

短時間間隔気象観測システムの構築と日射の積算時間の影響に関する研究
中山哲士, 石野久彌
IBPSA-Japan 日本支部研究発表会講演論文集(発行予定)(審査付き), 2007年3月

省エネルギー空調における組み合わせ着衣の熱抵抗値と温熱感覚
大熊涼子, 石野久彌
IBPSA-Japan 日本支部研究発表会講演論文集(発行予定)(審査付き), 2007年3月

首都圏における外気温度分布実態調査に関する研究
大山美衣, 石野久彌, 郡公子, 井上隆, 中山哲士, 一ノ瀬雅之
IBPSA-Japan 日本支部研究発表会講演論文集(発行予定)(審査付き), 2007年3月

オフィス着衣条件における冬期20℃暖房の温熱環境
大熊涼子, 石野久彌, 中山哲士
日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1035-1036, 2006年9月

ハイブリッド空調オフィスにおけるシーリングファンの計画手法と性能検証に関する研究
水出喜太郎, 石野久彌, 郡公子, 永田明寛, 長井達夫, 大原千幸, 植田浩文, 小林陽一, 金政秀
日本建築学会大会学術講演梗概集, 選抜梗概, pp. 1037-1040, 2006年9月

床冷房併用空調の基本特性に関する数値解析 第1報 シミュレーション法と基準冷房方式での解析
小林愛子, 郡公子, 石野久彌
日本建築学会大会学術講演梗概集, 選抜梗概, pp. 1049-1052, 2006年9月

床冷房併用空調の基本特性に関する数値解析 第2報 主要要因の室内環境・エネルギーへの影響解析

鈴木隆, 小林愛子, 郡公子, 石野久彌

日本建築学会大会学術講演梗概集, 選抜梗概, pp. 1053-1056, 2006年9月

植栽の熱的特性および熱環境調整効果に関する研究

幸田裕美子, 石野久彌, 中山哲士

日本建築学会大会学術講演梗概集, 選抜梗概, pp. 1061-1064, 2006年9月

屋上緑化植栽の熱特性に関する実測調査

西田志津華, 石野久彌, 中山哲士

日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1089-1090, 2006年9月

移動実測による山手線圏内気候実態調査

大山美衣, 石野久彌, 中山哲士, 一ノ瀬雅之

日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1093-1094, 2006年9月

東京における雲の特性と日射の直散分離精度向上の可能性に関する検討

中山哲士, 石野久彌

日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1095-1096, 2006年9月

ダブルスキンシステムの日射性能の入射角特性に関する基本解析

尾形拓志, 郡公子, 石野久彌

日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1211-1212, 2006年9月

FACES プログラムによるオフィスビルの省エネルギー手法に関する研究 1次エネルギー消費量への影響と経済性評価

田端康宏, 石野久彌, 猪岡達夫

日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1341-1342, 2006年9月

事務所ビルにおける空調設備のコスト推定に関する研究

田端康宏, 石野久彌, 猪岡達夫, 中山哲士

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 1105-1108, 2006年9月

拡張アメダス空調設計用気象データによる最大熱負荷の特性に関する研究

鈴木隆, 郡公子, 石野久彌, 師岡淳

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 1853-1856, 2006年9月

アトリウム空間の動向に関する文献調査研究

佐藤豊, 郡公子, 石野久彌

空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 439-443, 2006年9月

冬期 20°C暖房時の温熱快適性に関する研究 着衣条件と座位の違いによる影響及び床暖房時の人体生理心理反応

大熊涼子, 石野久彌, 中山哲士
空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 1993-1996, 2006年9月

東京都心部における冬季外気温分布の実測調査
中山哲士, 石野久彌, 郡公子, 井上隆, 一ノ瀬雅之
空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集, pp. 1441-1444, 2006年9月

3. 専門書

躯体蓄熱
石野久彌
株式会社 オーム社 (単行本)、2007年3月27日

COOL BIZ の室内温熱環境
石野久彌、大熊涼子
空気調和衛生工学、第80巻第7号, pp. 9-13、2006年7月、(社) 空気調和・衛生工学会

大規模修繕等における PAL 計算法について
石野久彌、柳井崇
IBEC, No. 154, Vol. 27-1, pp. 50-53、2006年5月、(財) 建築環境・省エネルギー機構

4. 研究報告

エネルギーシミュレーションの将来像
石野久彌
最近の建築設備におけるシミュレーション, pp. 29-64, 2006年11月、(社) 建築設備技術者協会

BEST0703 (パイロット版) について
石野久彌
BEST 第5回中間シンポジウム、2007年3月、(財) 建築環境・省エネルギー機構

BEST プログラムの開発
石野久彌
BEST 第4回中間シンポジウム, pp. 1-18、2006年11月、(財) 建築環境・省エネルギー機構

BEST のマクロデザイン
石野久彌
BEST 第3回中間シンポジウム, pp. 1-9、2006年8月、(財) 建築環境・省エネルギー機構

BEST プログラムのランドデザイン
石野久彌
BEST 第2回中間シンポジウム, pp. 1-32、2006年4月、(財) 建築環境・省エネルギー機構

5. 解説・評論

建築設備の評価の視点のまとめ
石野久彌

第2回建築設備シンポジウム、p.73、2006年11月、日本建築学会 環境工学委員会

部屋で快適に過ごすコツ！「http://www.be-us.net/interview/2006_vol8.html」

石野久彌

インタビューVol.8、2006年、ピアス

屋上緑化の手法及びその効果

石野久彌

三菱電機、建築設備メールマガジン、Vol.276、2007年1月

【市川憲良】

1. 審査論文

推定最大による計画瞬時流量モデルの構築、集合住宅における増圧直結給水方式に関する実測調査
その2

中野民夫、浅野良晴（信州大学）、市川憲良、高地 進

日本建築学会環境系論文集、No.603、pp.71-76、2006年5月

サーモスタット混合水栓・手元止水機能付シャワーヘッドによる節水効果、節水・節湯器具の評価に
関する研究、

近藤武士、岩本静男（神奈川大学）、市川憲良、鎌田元康（東京大学）

日本建築学会環境系論文集 No.607、pp.87-93、2006年9月

2. 口頭発表

使用感を考慮した節水性能の評価に関する研究 第1報 節水装置の吐水性能

水谷貴俊（神奈川大学）、市川憲良、紀谷文樹（神奈川大学）、大塚雅之（関東学院大学）

空気調和衛生工学会学術講演論文集、I - pp.31-34、2006年9月

An Approach to Water Saving Equipment for the ISO Environmental Label in Japan

Noriyoshi ICHIKAWA, Yoshiharu ASANO (shinsyu Univ.), Shin SUMIKAWA, Mariko Yamada (Japan
Environment Association)

空気調和衛生工学会学術講演論文集、国際セッション IS-5、pp.23-26、2006年9月

集合住宅における給水システムの更新計画・更新技術に関する研究 その1 既存集合住宅を対象と
したケーススタディー

水谷貴俊（神奈川大学）、市川憲良、紀谷文樹（神奈川大学）、堀静香（ZO設計室）

日本建築学会大会学術講演梗概集、D-1、pp.413-414、2006年9月

4. 研究報告

第32回 CIB-W62 国際シンポジウム報告

市川憲良

給排水設備研究、Vol.23、No.4、2007年1月

循環式浴槽に用いる濾過器の性能評価基準

市川憲良、他11名

空気調和・衛生工学会, ろ過性能評価と維持管理検討委員会 pp. 1-17

5. 解説・論評

増圧直結給水の現状とこれからの展望

市川憲良, 他 5 名

給排水設備研究, Vol. 23, No. 2, 2006 年 7 月

【須永修通】

1. 審査論文

A Study on Thermal Comfort Range Considering Adjustment Actions by Residents,
Tamaki Fukazawa, Nobuyuki Sunaga, and et al.

Proceedings of PLEA2006 – The 23rd Conference on Passive and Low Energy Architecture, Vol. 2,
pp. 479-484 (2006)

2. 口頭発表

気候特性の把握と地域差の比較

須永 修通, 深澤たま

日本建築学会第 36 回熱シンポジウム予稿集, pp. 3-9 (2006)

木造住宅密集地域における夏季の屋外熱環境に関する実測調査

松本聡子, 須永修通, 深澤たまき

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-1 分冊, pp. 683-684 (2006)

建築ストックの断熱性改善に関する研究 – 内断熱事例における改修効果の検討 –

横田歩, 須永修通, 深澤たまき

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 103-104 (2006)

居住者の環境調整行動を考慮した温熱性能評価方法に関する研究 その 3

被験者実験概要および曝露環境

千葉陽輔, 深澤たまき, 須永修通, 松田克己, 尾崎充男, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊,
pp. 503-504 (2006)

居住者の環境調整行動を考慮した温熱性能評価方法に関する研究 その 4

曝露環境と温冷感申告値, 快適感申告値との関係

尾崎充男, 深澤たまき, 須永修通, 松田克己, 千葉陽輔

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 505-506 (2006)

居住者の環境調整行動を考慮した温熱性能評価方法に関する研究 その 5

温冷感評価, 快適感評価による許容空気温度範囲

深澤たまき, 須永修通, 松田克己, 千葉陽輔, 尾崎充男

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 507-508 (2006)

屋上および壁面植栽が教室の温熱環境に与える影響に関する実測解析

岡本沙織, 須永修通

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 575-576 (2006)

エコスクールモデル校のエネルギー消費量に関する調査研究－東京都内のモデル校と一般校の比較－
池澤知子, 須永修通

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 577-578 (2006)

太陽熱水蓄放熱床暖房システムの夏季の室内気候調整に関する研究 外気温が与える影響

秋田真範, 須永修通, 咸哲俊

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 601-602 (2006)

露出型天井配管冷房システムに関する研究

田沼孝啓, 須永修通, 藤江創

日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2 分冊, pp. 1147-1148 (2006)

東京の木造密集住宅地域における夏季の屋外熱環境実態調査

松本聡子, 須永修通, 深澤たまき

日本ヒートアイランド学会第1回全国大会論文集, pp. 24-25 (2006)

富山に建つRC戸建住宅の外断熱改修に関する研究

横田歩, 須永修通, 深澤たまき, 藤江創, 根本佳菜

太陽／風力エネルギー講演論文集, pp. 389-392 (2006)

3. 専門書

太陽エネルギー利用技術 5章 建築と居住環境(監修), 5.3 日射遮蔽・採光と照明・5.5 パッシブソーラーヒーティング(執筆),

須永 修通

オーム社, pp. 103-109 and 114-122 (2006)

建築設計資料集成[環境] (第2章 建築と環境: パッシブデザイン)

須永 修通

丸善, pp. 76-81 (2007)

4. 研究報告

「多摩ニュータウンの超高断熱(超省エネ)手法による既存建築ストック活用・団地再生」調査報告書

1.2.2 屋上外断熱改修の夏季における効果に関する実測調査・2.2 高断熱改修に伴う熱環境的問題点と改善手法

須永 修通

国土交通省平成18年度全国都市再生モデル調査, pp. 40-46 and pp. 92-100 (2007)

6. 作品等(環境配慮設計コンサルト)

UR都市機構 ひばりが丘パークヒルズ(8-2, 8-3, 8-4号棟), 設計:(株)千代田設計, 2007年3月竣工

【永田明寛】

1. 審査論文

自然換気・シーリングファンを併用した空調換気システムの制御手法と性能評価に関する研究

水出喜太郎(日建設計), 石野久彌, 郡公子(宇都宮大), 永田明寛, 長井達夫(東京理科大), 大高一博(日建設計), 大原千幸(日建設計)

日本建築学会環境系論文集, No. 604, pp. 69-76, 2006年6月

ヒートアイランド低減化手法としての屋上緑化の実測評価

一ノ瀬雅之(東京理科大), 石野久彌, 郡公子(宇都宮大), 永田明寛

日本建築学会環境系論文集, No. 605, pp. 47-54, 2006年7月

2. 口頭発表

温度荷重の簡易予測法に関する研究 その4 100年再現期待値によるRC屋根スラブの検討

伊藤博夫(伊藤構造環境研究所), 永田明寛, 石川孝重(日本女子大)

日本建築学会大会学術講演梗概集, B-1分冊, pp. 93-94, 2006年9月

建築部位断熱性能の現場測定法の開発 その1 熱流計を用いた熱板法

長井達夫(東京理科大), 永田明寛, 黒木勝一(建材試験センター), 加藤信介(東大)

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2分冊, pp. 119-120, 2006年9月

建築部位断熱性能の現場測定法の開発 その2 熱画像法 熱伝達率測定センサーの構造及び校正

萩原伸治(建材試験センター), 黒木勝一(建材試験センター), 永田明寛, 加藤信介(東大), 中村陽介(建材試験センター)

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2分冊, pp. 121-122, 2006年9月

建築部位断熱性能の現場測定法の開発 その3 熱画像法 実験室における壁体モデルを用いた検証実験

中村陽介(建材試験センター), 黒木勝一(建材試験センター), 萩原伸治(建材試験センター), 永田明寛, 加藤信介(東大)

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2分冊, pp. 123-124, 2006年9月

近年の住宅建築における空隙長と開口率に関する研究

高畑憲介(首都大), 永田明寛

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2分冊, pp. 319-320, 2006年9月

ハイブリッド空調オフィスにおけるシーリングファンの計画手法と性能検証に関する研究

水出喜太郎(日建設計), 石野久彌, 郡公子(宇都宮大), 永田明寛, 長井達夫(東京理科大), 大原千幸(日建設計), 植田浩文(大阪ガス), 小林陽一(安井建築設計事務所), 金政秀(安井建築設計事務所)

日本建築学会大会学術講演梗概集, D-2分冊(選抜梗概), pp. 1037-1040, 2006年9月

躯体温度簡易予測法の概要

永田明寛

日本建築学会構造部門(荷重)PD「温度変化を考慮した建築構造の設計」, pp. 3-8, 2006年9月

CVMによる風環境評価の試み ー地域および自宅内における微風・通風価値の評価ー

佐藤圭奈, 永田明寛

空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集, pp. 2293-2296, 2006年9月

4. 研究報告

空気調和設備委員会熱負荷シミュレーションと装置容量小委員会：委員会中間報告

永田明寛, 長井達夫(東京理科大)

空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集, p. 2301, 2006年9月

5. 解説・評論

教室の空気環境・熱環境 ～換気の問題を中心として～

永田明寛

文教施設, Vol. 22, pp. 43-46, 2006年4月

<都市空間システム>

【中林一樹】

1. 審査論文

事前復興対策としての都市復興図上訓練の現状と考察

— 8回目を迎えた東京区市行政職員向け都市復興図上訓練から—

市古太郎, 饗庭伸, 佐藤隆雄, 中林一樹

都市計画論文集(都市計画学会) No. 41, pp. 701-706, 2006.11

被災家族の住宅再建行動に関する要因関連構造の質的分析

—トルコ・マルマラ地震後のデルメンデレ市における事例研究—

吉川忠寛, 中林一樹

都市住宅学(第14回学術講演会研究発表論文集) No. 55, pp. 40-45, 2006(秋)

Socioeconomic, Policy, and Planning Aspect of the 2004 Niigata Ken Chuetsu Earthquake.

Robert B. Olshansky, Itsuki NAKABAYASHI and Kazuyoshi Ohnishi

EARTHQUAKE SPECTRA, The professional Journal of the Earthquake Engineering Research Institute, Special Issue I, Vol.22. EERI, pp.163-175, Oct.2006

Development of Urban Disaster Prevention Systems in Japan - from the Mid-1980s

Itsuki NAKABAYASHI

Journal of Disaster Research, Vol.No.1, pp.46-71. Aug.2006

2. 口頭発表

首都直下地震に対する事前復興対策

中林一樹

日本地理学会(2007春季大会)公開シンポジウム「災害からの復興—地域復興の意義と備え—」梗概集, 2007.3

事前復興対策としての都市復興図上訓練の現状と考察

— 8回目を迎えた東京区市行政職員向け都市復興図上訓練から—

市古太郎, 饗庭伸, 佐藤隆雄, 中林一樹

都市計画論文集(都市計画学会) No. 41, pp. 701-706, 2006.11

被災後 1 年間の新潟県中部地震からの建物再建等に関する実態調査

—新潟県川口町川口地区を事例として—

吉田祐輔, 市古太郎, 中林一樹

地域安全学会梗概集 No. 19, pp. 69-72, 2006. 11

首都圏における都市の地震災害軽減対策と復旧・復興対策

中林一樹

日本建築学会大会災害部門パネルディスカッション『首都圏を襲う可能性のある地震に備えて』

pp. 21-28, 2006 年 9 月

3. 専門書

『災害復興ガイド—日本と世界の経験に学ぶ—』（共著）（「トルコ北西部地震」 pp. 76-79）クリエイツ
かもがわ、全 180 頁、2007. 1

『路地からのまちづくり』（共著）（「路地からの防災まちづくり—現状を打破するための提案—」
pp. 229-244）, 全 269 頁、学芸出版社、2006. 12

『論—被災からの再生—』（共著）（「中山間地域の復興の方向」 pp. 193-209）関西大学出版会、全 232
頁、2006. 12

“Cities, Autonomy, and Decentralization in Japan” edited by C. Hein and P. Pelletier.,
Itsuki NAKABAYASHI, (Chapter 3 : Concentration and de-concentration in the context of the Tokyo
Capital Region Plan and recent cross-border networking concepts, pp. 55-80). Routledge, London,
199pages, 2006.

4. 研究報告

首都大震災後の住宅喪失世帯の応急住宅選択モデルの構築

佐藤慶一, 中林一樹, 翠川三郎

「首都圏大震災軽減のための実践的都市地震工学研究の展開」 平成 18 年度成果報告シンポジウム予
稿集, pp. 131-138, 東京工業大学都市地震工学センター

被災市街地復興計画の立案・策定システムの開発

中林一樹, 市古太郎, 饗庭 伸、他

「大都市大震災軽減化特別プロジェクト IV 耐震研究の地震防災対策への反映、成果報告書」科学
技術振興費 新世紀重点研究創世プラン～リサーチ・リポリューション・2002～, pp. 741-779, 文部
科学省研究開発局・独立行政法人防災科学技術研究所, 2006 年 5 月

震災復興まちづくり訓練の手引き（改訂版）

首都大学東京大都市大震災軽減化特別プロジェクト研究グループ（代表：中林一樹, 市古太郎, 饗庭
伸, 吉川 仁（防災&都市づくり研究室）, 佐藤隆雄（（財）日本システム開発研究所）

全 14 頁, 2006

5. 解説・評論

スーパー都市災害“首都直下地震”の被害軽減・復興戦略に関する考察」

中林一樹

都市科学研究第1号、pp. 7-19、2007. 3

「スーパー都市災害」としての首都直下地震

中林一樹

減災、Vol. 2、pp. 29-37、2007. 3

阪神・淡路大震災：都市と地震防災

中林一樹

建築雑誌増刊第122集・第1556号『日本建築学会120年略史』、pp. 106-197、2007. 1

シェルターとしての「家」に住んでいますか

中林一樹

臨床看護 Vol. 32, No. 13, pp. 1958-1963, 2006. 11

首都直下地震を正しく恐れ、先手を打つ—企業のBCP、家庭のLCP、まちのCCP—

中林一樹

自主防災、No. 193、pp. 2-5、2006. 9

首都直下地震の被害を想定する

中林一樹

「地震で、人を殺すな!」、pp. 60-81、講談社（全238頁）、2006. 8

防災まちづくり大賞の10年・阪神・淡路大震災からの10年 —新たな防災力の騒動と普及・継続に力としての大賞—

中林一樹

消防科学と情報、No. 85、pp. 19-24、2006（夏季）

東京直下地震と復興計画の基本課題

中林一樹

『都市計画とまちづくり』高見沢邦郎先生退任記念論文集、pp. 113-122、2006. 7

【玉川英則】

1. 審査論文

2. 口頭発表

空間情報システム —成長の過去と成熟の未来

玉川英則

空間情報シンポジウム2006、2006年7月

Regional Environment -especially as for “sustainable cities”

Hidenori TAMAGAWA

Tokyo-Soeul Joint Seminar 2006、2006. 9

Urban Renovations in Tokyo - the traditional solutions and another one

International Seminar on Innovation Cases of Mega City

Hidenori TAMAGAWA, 2006.12

ひったくり事件の発生に影響する都道府県の特徴

粕谷巧、福本純一、玉川英則

日本法科学技術学会誌第12回学術集会講演要旨集, p.158, 2006年9月

3. 専門書

Sustainable Cities: Japanese Perspectives on Physical and Social Structures

Edited by Hidenori TAMAGAWA

United Nations University Press, 2006.7

4. 研究報告

5. 解説・評論

追悼—ジェーン・ジェイコブズ

玉川英則

都市計画 261号, p.78, 2006年6月

素顔のJ. ジェイコブズ 素顔の現代日本

玉川英則

地域開発 503号, pp.10-13, 2006年8月

6. 作品等

【秋山哲男】

1. 審査論文

移動困難属性に着目した移送サービスの需要構造に関する研究

金 載炅・坂本 恭兵・秋山哲男

第26回交通工学研究発表会論文報告集, pp.273-276, 2006.年11月

人口高密度地域におけるDRTシステムとその適用可能性

吉田 樹・秋山 哲男・金 載炅

土木計画学研究・論文集, Vol.23, 2006

Universal design in sightseeing map—Comparison between municipalities of barrier-free map and sightseeing map—

Haruna Miura, Tetsuo Akiyama, Daisuke Sugimachi,

The 2nd International Conference for Universal Design in Kyoto 2006, CDR

2. 口頭発表

世田谷区を対象とした移送サービスの需要構造に関する研究

坂本恭兵・金 載炅・秋山哲男・中川真理・寺島 薫

日本福祉のまちづくり学会, 第9回全国大会概要集, pp.273-276, 2006年8月

移動制約者の冬季の北海道旅行に対する意識調査—北海道内の居住者を対象として—

三浦 春菜・鶴東 俊哉・原文宏・秋山 哲男,

日本福祉のまちづくり学会第9回全国大会, pp.419-422, 2006.8

道路インフラ用歩行者音声案内システムのサービス性調査

坂口陸男・田井文夫・秋山哲男・磯部友彦・北川博巳・横山哲・中山政義・岡田倫政・船場ひさお
日本福祉のまちづくり学会第9回全国大会概要集, pp. ●●2006年8月

神奈川県における欧米水準のSTS整備への考察

藤井直人, 秋山哲男

日本福祉のまちづくり学会第9回全国大会概要集, pp. ●●2006.8

観光計画と人材育成

秋山哲男, 三浦春菜, 寺島薫, 大久保あかね

土木計画学研究・講演集, Vol. 33 CD-ROM, 2006年

観光地における世代別来街者の行動に関する考察:

三浦春菜, 秋山哲男, 米原亮三, 杉町大輔

土木計画学研究・講演集, Vol. 33 : 2006

地域モビリティの計測と生活交通サービスの評価

吉田 樹・秋山 哲男・竹内 伝史

土木計画学研究・講演集, Vol. 33 CD-ROM, 2006年.

過疎地域におけるモビリティ確保と過疎地有償運送の果たす役割

吉田 樹・秋山 哲男

土木計画学研究・講演集, Vol. 33 CD-ROM, 2006年.

地域条件に応じたDRTシステムの設定に関する基礎的検討

福本雅之・吉田 樹・加藤博和・秋山哲男

土木計画学研究・講演集 Vol. 33 CD-ROM, 2006年

過疎地におけるモビリティ確保と生活交通—青森県佐井村における過疎地有償運送の取り組み—

吉田 樹・秋山 哲男

日本福祉のまちづくり学会全国大会講演集第9回, 2006年8月

市民の生活行動力を考慮した地域公共交通サービスの評価手法に関する基礎的検討

吉田 樹・秋山 哲男

土木計画学 gVol. 34 CD-ROM, 2006年

DRTの運行特性と適用範囲の考え方について

竹内 龍介・吉田 樹

土木計画学研究・講演集, Vol. 34 CD-ROM, 2006年

観光まちづくりの人材育成に関する研究—首都大学東京の講義を事例として—

三浦春菜, 秋山哲男, 米原亮三

日本観光研究学会全国大会学術論文集, pp. 193-196, 2006年11月

3. 専門書

コミュニティバスの導入ノウハウ、
中村文彦監修, 秋山哲男共著, pp. 61-70,
現代文化研究所, 2006年8月

障害者福祉論

大曾根寛・小澤温

放送大学, pp. 206-281, 2007年2月

4. 研究報告書

鉄道セクターにおけるユニバーサルデザインのコンセプト導入に関する業務委託調査
—バングラデシュ：ダッカーチッタゴン鉄道網整備事業における対策を事例として—
秋山哲男、山田稔

国際協力銀行委嘱調査 (茨城大学) 2006年9月

エコモビリティ実現に向けて—実務者のための手引書—

太田勝敏委員長、秋山哲男委員

交通エコロジーモビリティ財団、pp. 91-108

生活交通ハンドブック～使える生活交通システムの導入にむけて～」

秋山哲男 (委員長)

青森県, 2007. 2,

国際観光都市・東京講座の講座内容調査委託研究

首都大学東京都市環境学部 秋山哲男 (東京都観光部の委託)

2006年2月

練馬区福祉のまちづくり総合計画

秋山哲男 (委員長)

練馬区, 2006年3月

駐車場のユニバーサルデザインガイドライン

秋山哲男 (委員長)

東京都道路整備保全公社, 2007年2月

都市および過疎的地域のモビリティ保障に関する研究—香港障害者・高齢者交通に関する調査—

代表 秋山哲男 (代表者)

文部省科学研究費,

都市型災害発生後の災害弱者の避難・生活支援等安全化システムに関する

研究星旦二 (代表者) 秋山哲男ほか

2006年3月研究

生活者の視点に立ったトイレ整備の指針 —東京都トイレ、その方向性—

東京都福祉のまちづくり推進協議会,
平成 18 年 7 月、委員

調布市交通バリアフリー基本構想 (委員長)
秋山哲男
調布市, 平成 19 年 2 月

NPO 等が行うボランティア輸送における運行管理責任者に対する人材育成のための教育体制の整備報告書
秋山哲男 (委員長)
18 年 3 月, 国土交通省自動車交通局旅客課

5. 解説・評論

交通計画のユニバーサルデザイン,
秋山哲男,
公共建築, Vol. 48, No. 187, 2006
鉄道駅のユニバーサルデザイン,
秋山哲男
地域開発, pp. ●2006

公共交通におけるユニバーサルデザイン(座談会)
池田尊彦, 川内美彦, 小早川唯因, 山田一信, 秋山哲男
運輸と経済, 第 6 6 巻第 9 号, pp. 10-16, 2006

鉄道のユニバーサルデザイン:
秋山哲男
みんな, No. 19, 2006

【市古太郎】

1. 審査論文

事前復興対策としての都市復興図上訓練の現状と考察— 8 回目を迎えた東京区市行政職員向け都市復興図上訓練から—
市古太郎, 饗庭伸, 佐藤隆雄, 中林一樹
日本都市計画学会学術研究論文集 41, pp. 701-706, 2006 年 11 月

2. 口頭発表

参加のまちづくり技術を用いた震災復興まちづくり模擬訓練の報告— その 3—八王子市における導入型模擬訓練の開発—
饗庭伸, 市古太郎, 皆川晃夫, 覚知昇一, 中林一樹, 吉川仁, 高見沢邦郎
地域安全学会梗概集, No. 18, pp. 39-42, 2006 年 5 月

4. 研究報告

1968 年用途地域制システムの 38 年を考える
市古太郎

『都市計画とまちづくり』高見澤邦郎先生退任記念論文集, pp. 41-50, 2006年7月

事前復興計画論に基づく地区防災まちづくりの新たな可能性

市古太郎

オペレーションズ・リサーチ, vol. 51 no. 10, p22-27, 2006年10月

<都市社会システム>

【星旦二】

1. 審査論文

家族が行う認知症判断の確かさ.

山本千紗子、佐藤直美、星旦二

日認知症学会, 4(3):496-506. 2006. , 11(1):15-24. 2006.

中国の都市高齢者における主観的健康感の構造に関する研究.

艾 斌、星旦二

民族衛生, 72(1):3-14. 2006.

在宅高齢者の知的能動性低下に関する家族の受け止め方—地方10町村調査と都市部T市調査による比較—

山本千紗子、星旦二

Health Sciences, 21(3) :303-315. 2006.

都道府県別平均寿命の較差に関する研究.

渡部月子、星旦二他

運動とスポーツの科学 11(1):61-68. 2006.

都市在宅高齢者の外出実態とその規定要因間の関連性.

高橋俊彦、三徳和子、星旦二

日本健康教育学会 14(1):2-15. 2006.

A study on the empowerment process and interactions of volunteer members and community in community.

Sachiko Ooki Tanji Hoshi

The Journal of the Japan NPO Research Association. Vol. 6, Nos1&2, 25-35. 2006

2. 口頭発表

Effectiveness of Health Promotion in Northern Part of Western Pacific Region” submitted to the IUHPE 2007 Conference2006

3. 専門書

星旦二：公衆衛生概論. 公衆衛生. 調理師養成教育全書:2-15. 2006.

星旦二：代替・統合医療と新しい健康. 森林医学. 朝倉書店. 東京:239-252. 2006.

4. 研究報告

巴山玉蓮、星旦二：C型慢性肝炎患者におけるインターフェロン療法の中絶に関連する要因と継続支援. 山梨県立看護大学短期大学部紀要

星旦二：高齢者の健康づくりにおける主観的健康感のすすめ. 生きがい研究, 財団法人長寿社会開発センター12:46-72. 2006.

星旦二：都市の健康生活. 都市問題研究 58(10):65-83. 2006.

5. 解説・評論

星旦二：新しい健康づくり—他分野との連携が不可欠その一.
日本歯科医師会雑誌 59(3):62-63. 2006.

星旦二：新しい健康づくり—他分野との連携が不可欠その二.
日本歯科医師会雑誌 59(4):52-53. 2006.

【羽貝正美】

「対話と戦略—大都市の自治と都市政策—」、『新潟自治』、
羽貝正美
(社)新潟県自治研究センター、vol. 29、pp.10-17 (2006年10月)

Reexamination of local governance in Japan

羽貝正美”

local government reform and restructuring of residents' participation in community”, pp.231-234.
Jeju International Workshop, Regional Innovation and Urban Governance :Comparative Perspective,
2006. 6

【伊藤史子】

1. 審査論文

'Cost-effectiveness Analysis of Reducing the Emission of Nitrogen Oxides in Asia'
Yamashita, K., Ito, F., Kameda, K., Holloway, T. and Johnston, M.
"Water, Air, & Soil Pollution: Focus", Springer, 2007.1.

2. 口頭発表

「女性のライフスタイルと居住地選択の関連性に関する基礎分析」
伊藤史子

『建築学会大会梗概集』F-1分冊, PP1079-1082, 2006.

3. 専門書

「空間分析フリーソフトウェアをウェブで探す「FreeSat」」
岡部篤行・増山篤・伊藤史子
岡部篤行・村山祐司編『GISで空間分析—ソフトウェア活用術』, 第2章, 古今書院, 2006.

5. 解説・評論

「不動産情報におけるネガティブ要因の扱い—特集：不動産と情報
（情報整備・公開の必要性とそのシステムや情報活用のあり方）—」、
伊藤史子

『日本不動産学会誌』、vol.19,No4, PP40-45, 2006.4.

「住生活基本法と不動産情報」、
伊藤史子

『季刊不動産研究』、49 卷 1 号, PP13-18, 2007.1.

特定学術研究（平成18年度）

	研究者	企業名
産学共同研究		
	吉川徹	株式会社 ソフマック
受託研究		
	永田明寛	財団法人 建材試験センター
特定研究寄附金		
	須永修通	(株)千代田設計、安藤建設(株)
	山崎真司	(社)日本鉄鋼連盟
	上野淳	安藤建設(株)
	橘高義典	A L C 協会
	芳村學	小田急建設(株)、大成建設(株)
	深尾精一	積水ハウス(株)
産学共同研究		
	中林一樹	練馬区
提案公募型研究		
	中林一樹	独立行政法人 防災科学技術研究所
	秋山哲男	(財)東京都道路整備保全公社
寄附講座		
	秋山哲男	東京都産業労働局
東京都との連携事業		
	中林一樹	東京都都市整備局
特定研究寄附金		
	秋山哲男	(社団法人)北海道開発技術センター

研究種目	研究代表者	課題名
基盤B(一般)	橋高 義典	生物科学的機能を有する新機能コンクリートに関する基礎的検討
基盤B(一般)	上野 淳	日本におけるニュータウン計画の系譜総括
基盤B(一般)	芳村 学	脆性的挙動を示す既存鉄筋コンクリート建物の耐震性評価の精密化に関する研究
基盤C(一般)	見波 進	鋼構造多層骨組の進行性崩壊の解明
基盤C(一般)	北山 和宏	連層鉄骨プレースで補強したRC建物の三方向地震力下での耐震性能評価
基盤C(一般)	山崎 真司	巨大地震時に予測される長周期地震動を受ける鋼構造超高層骨組の限界耐力の解明
基盤C(一般)	須永 修通	学校建築の設計基準改定に向けたエコスクール認定校の実態把握・性能評価
基盤C(一般)	角田 誠	公立小学校余裕教室の持続的活用を目指したコンバージョンシステムの開発研究
基盤C(一般)	吉川 徹	公共建築物群の時空間マネジメントによる自律恒常的な地域公共空間提供システムの構築
基盤C(一般)	小林 克弘	ルイス・サリヴァンの建築思想・造形手法に関する分析と作品の保存更新活用実態調査
若手研究(B)	森田 真司	せん断ひび割れが発生した鉄筋コンクリート造柱梁接合部の補修・補強法の提案
若手研究(B)	鳥海 基樹	フランス2000年都市連帯・再生法による基礎自治体主導の保全的刷新型都市計画
若手研究(B)	門脇 耕三	集合住宅における「アダプタブルなビルディングシステム」の再構築
若手研究(B)	三田村 哲哉	パリにおける近代建築の改修事例に関する意匠考察と作品データベースの構築
若手研究(B)	藤田 香織	接合部性能を考慮した垂壁付き独立柱の復元力モデルの提案
若手研究(B)	饗庭 伸	大都市圏を対象とした都市をたたむ計画技術に関する研究
若手研究(B)	倉斗 綾子	諸室機能と利用者のニーズからみた公共施設の体系化に関する研究
若手研究(B)	木下 央	風景概念生成期の研究ー東インド会社の交易都市スラトの英国人墓地の調査ー
特別研究員奨励費	佐藤 栄治	利用者行動と立体都市空間構成を反映した都市再構築のためのアクセシビリティモデル

学位論文リスト

[博士論文]

建築学専攻

学位取得者氏名	論 文 名
齊藤 潔	公立小中学校と地域公共施設との複合化に関する建築計画的研究
鄭 ソイ	自立高齢者を支える地域支援環境のあり方に関する研究 Study on the Social Support System and Community Environment for the Independent Elderly People

都市科学専攻

学位取得者氏名	論 文 名
高橋 俊彦	高齢者のQOLと社会参加に関する研究 －健康規定要因の構造分析とQOL尺度開発－
艾 斌	都市高齢者における主観的健康観の構造及び生命予後への影響に関する日中比較研究
李 珊	中国大都市における社会－空間構造の再編と都市住民の生活様式の変容に関する都市社会学的研究 －大連市を事例として－
大木 幸子	地域保健活動におけるエンパワメント過程及び公共性の再構築に関する研究
吉田 樹	市民の生活行動力を考慮した地域公共交通の評価に関する研究

[修士論文]

建築学専攻

平成18年度 首都大学東京工学研究科建築学専攻 修士論文梗概集

柳沼 大樹	繰返し载荷を受ける鋼梁のエネルギー吸収能力
傳野 悟史	擬似動的実験によるせん断破壊型鉄筋コンクリート柱の崩壊実験
高橋 壮太郎	透過性を保持した既存木造住宅の簡易開口部補強手法に関する研究
金山 裕哉	ベトナム伝統木造民家の構造性能に関する研究—架構モデルの静的加力試験と材料試験—
蛭田 暁	土壁塗り仕上材料の色彩調合設計方法に関する研究
横田 歩	戸建住宅の断熱改修による環境負荷削減効果に関する研究
岡本 沙織	冷房を用いない小学校教室の温熱環境改善に関する研究
田沼 孝啓	除湿を考慮したルーバー型天井冷房に関する実験研究
鈴木 宏紀	情報メディアが構築する街のイメージに関する研究—店舗情報の空間分布に着目して—
豊田 正道	個々人の利用頻度を考慮した最適施設配置による空間形成シミュレーション
近藤 怜	住宅ストックと世帯構成に着目した都市シミュレーション
細谷 基之	地形に着目した街路網生成シミュレーション—東京山の手を対象として—
篠田 紀行	東京都心下町地域における在宅高齢者の外出行動に関する研究—千代田区神田地域のケーススタディー—
井村 理恵	通所を基本とする小規模高齢者介護施設の建築計画に関する研究
金子 公亮	小中一貫校の建築計画に関する研究
坂本 充	鉄道駅プラットフォームにおける乗車待ちの滞在様態に関する研究
谷口 僚一	多摩ニュータウン団地居住高齢者の外出行動に関する研究—諏訪・永山地区のケーススタディー—
今井 茜	超高層集合住宅における戸別改修容易性の評価手法に関する研究
草野 祥子	戸建住宅地における住宅の改修行為と社会的耐用年数に関する研究
許 光範	構法の階層性に着目した建築物の仮設性の分析
加藤 直樹	外壁の美観維持への意識と清掃実態に関する調査研究
稲川 明子	官民協働事業による行政所有施設のコンバージョンに関する研究
坂本 深大	未利用容積の実態からみた既存公共施設の活用可能性に関する研究
岡村 卓麻	解体工事実態からみたプレハブ住宅の資源循環性に関する研究
辻村 一義	規制要素に着目した都市空間特性に関する研究
稲村 輝	視覚領域に着目した建築・都市空間の記述手法
小塚 真太郎	街路に面した緩衝領域におけるアクティビティと環境特性に関する研究
大慈弥 麻里亜	神田の建築・都市空間の分析—文学作品からの読み取り—
遠藤 広基	フィリップ・ジョンソンの設計手法の考察—住宅作品の分析を中心として—
中西 康崇	アルド・ファン・アイクの空間構成手法に関する分析
村山 太一	近現代建築における装飾に関する言説
西村 伸太郎	中国七都市における清真寺（モスク）とムスリム・コミュニティに関する調査研究
田辺 裕美	ものの集積に着目した建築の構成手法についての研究及び設計提案—図書館を事例として—
塩谷 智樹	建築における奥行き感を導き出す曲面要素に関する研究及び設計提案

都市科学専攻

町田和彦	長期的な人口変動-特に人口減少-と市街地の拡大縮小傾向に関する実証研究
齋藤未生	酒田市大火30年の復興過程にみる復興市街地評価と被災者の生活復興に関する考察
劉玉琦	北京市における水問題と市民の節水意識に関する研究
椎谷太郎	参画型条例制定にみる市民・行政間の関係性再構築に関する研究-神奈川県大和市における条例制定過程をてがかりに-
皆川晃夫	東京における事前復興まちづくり施策の整備実態とその意義に関する研究 -都内基礎自治体における各種施策及び震災復興模擬訓練での議論分析を通じて-
石澤三香子	急性期医療施設における患者と家族のための療養環境に関する研究-T病院の面会記録と病棟利用実態調査をもとにして-
平沼賢治	中央区の建築物の変化と近年の建築規制に関する研究-特に市街地の表・裏に焦点を当て-
嶋村良太	大都市圏における路線バスの利用実態と供給方策の改良に関する研究
杉町大輔	時間・空間と目的を考慮した観光行動の調査と実態把握に関する研究
福島陽子	指定管理者制度導入のあり方に関する研究-公立図書館における指定管理者制度導入事例を手がかりに-
高尾昌和	高齢期の医療・介護ニーズに応じた支援環境に関する研究
今中祐介	空間的要因を考慮した放置自転車の発生構造に関する研究

2006 Staff

Architectural Planning/ City Planning

Jun UENO

Professor / Dr.Eng.

Architectural Planning, Behavior, Environmental Psychology, Community Facilities Planning

Rm.27-869

+81-426-77-2814

Tohru YOSHIKAWA

Associate Prof. / Dr.Eng.

City Planning, Spatial Analysis, Geographical Information System

Rm.27-868, +81 426 77 2813

Kenji TAKEMIYA

Associate Prof. / Dr. Eng.

Architectural Planning, Environmental Behavior

Rm.27-877, +81-426-77-1111 Ext.4785

Motoki TORIUMI

Assistant Prof. / Dr. in France (Urban Studies)

Urbanism in Paris (from the Renaissance to today)

Rm.09-867, +81 42 677 2812

Shin AIBA

Research Associate/ Dr.Eng.

City Planning, Citizen Participation, Master Plan

Rm.27-875 +81 426 77 1111 Ext.4786

Naoki KUROKAWA

Research Associate / M. Eng.

History of Western Architecture, History of Landscape Architecture,

Preservation of Architectural Heritage

Rm.27-828, +81 426 77 1111 Ext. 4764

Masumi MATSUMOTO

Research Associate

Housing Studies

Rm.9-877, +81 42 677 1111 Ext.4788

Architectural Design and History

Katsuhiro KOBAYASHI

Prof./Dr. Eng.

Theory of Architectural Design, Architectural Design, Western Architectural History

Rm.27-871 +81-426-77-2816

Yukimasa YAMADA

Associate Prof./Dr. Eng.

Architectural History, Japanese Architecture, Islamic Architecture, Conservation

Rm.27-870, +81-426-77-1111 Ext.4781, +81-426-77-2815

Masao KOIZUMI

Associate Prof. / M. Eng.

Design Practice, Architectural Design, Design Methodology

Rm. 27-872, +81 426 77 2817

Akira KINOSHITA

Research Associate/M. Eng.

Theory of Architectural Design, Architectural History, Architectural Design

Rm.27-827 +81 426 77 1111 Ext. 4763

Osamu NISHIDA

Research Associate / B.Eng.

Design Practice, Architectural Design, Design Methodology

Rm.27-734

+81-426-77-1111 Ext.4787

Construction Management and Building Materials

Seiichi FUKAO

Prof. / Dr. Eng.

Building Construction, Building System Design

Rm. 27-873, +81 426 77 2818

Yoshinori KITSUTAKA

Prof. / Dr. Eng.

Building Materials, Finishing Materials, Concrete Engineering

Rm. 27-775, +81-426-77-2797

Makoto TSUNODA

Associate Prof. / Dr.Eng.

Management and Organization of the Building Process, Durable Building System,

Circulating System for Building Components

Rm.27-767, +81 42 677 2807

Kozo KADOWAKI
Research Associate / M. Eng
Building Construction, Building System Design
Rm. 27-826, +81 426 77 1111 Ext. 4762

Masaki TAMURA
Research associate / Dr.Eng.
Building Materials, Concrete Engineering, Environmental Materials
Rm.27-730, +81-426-77-1111 Ext.4726

Structural Engineering

Manabu YOSHIMURA
Prof. / Dr. Eng.
Reinforced Concrete, Earthquake Engineering, Seismic Design
Rm.27-773, +81 426 77 2800

Shinji YAMAZAKI
Professor / Dr.Eng.
Structural Engineering, Steel Structure, Structural Design
Rm.9-774, +81 42 677 2798

Kaori FUJITA
Associate Professor/ Dr.Eng.
Timber Structure, Traditional Structure, History of Disaster
Rm. 27-772, +81 426 77 1111 Ext.4742

Kazuhiro KITAYAMA
Associate Prof. / Dr. Eng.
Reinforced Concrete, Seismic Design, Earthquake Engineering
Rm.27-771, +81 42 677 2802

Kazushige YAMAMURA
Research Associate / M.Eng.
Structural Engineering, Load and External Force
Rm.27-731, +81 42 677 2794

Susumu MINAMI
Research Associate / Dr.Eng.
Structural Engineering, Steel Structure, Fracture Mechanics
Rm.9-727, +81 42 677 1111 Ext. 4723

Takaya NAKAMURA
Research Associate / Dr. Eng.
Reinforced Concrete
Rm.27-728, +81 426 77 1111 Ext. 4724

Environmental Engineering

Hisaya ISHINO
Prof. /Dr. Eng.
Architectural Environmental Engineering, Building Service Engineering,
Building Energy System Simulation
Rm. 9-766, +81 42 677 2806

Noriyoshi ICHIKAWA
Prof. /Dr. Eng.
Building Environment, Water Supply and Drainage System in Buildings
Rm. Akisima campus 306, +81 42 543 3111 Ext. 306

Nobuyuki SUNAGA
Associate Professor/ Ph.D.(Dr.Eng.)
Architectural Environment, Passive and Low Energy Architecture, Thermal Comfort
Rm.9-768, +81 42 677 2805

Akihiro NAGATA
Associate Prof. /Dr. Eng.
Building Environmental Engineering, Hygrothermal Environment
Rm.27-769, +81-426-77-2804

Satoshi NAKAYAMA
Research Associate / Dr. Eng
Architectural Environmental Engineering, Weather Data, Urban Climate
Rm. 9-734, +81 42 677 1111 Ext. 4732

Urban space, system and planning

Itsuki NAKABAYASHI
Professor/Dr. Eng.
Urban Planning, Disaster Mitigation Planning, Urban Reconstruction Planning,
Community-based Improvement (MACHIZUKURI)
Rm.2-111, +81 42 677 2354

Hidenori TAMAGAWA

Professor / Dr. Eng.

Urban and Regional Analysis, Urban and Regional Planning

Rm. 2-207, +81 42 677 1111 Ext. 1924

Tetsuo AKIYAMA

Professor

Doctor of Engineering

Urban Transportation Planning, Accessibility Planning, Town Planning for Tourism,

Transportation Universal Design

Rm. 2-206, +81 42 677 1111 Ext. 1943

Taro ICHIKO

Research Assistant/ Doctor of Urban Science

Disaster-proof urban planning, Space Information Science,

Community development for Disaster prevention

Rm.2-152,+81-42-677 1111 Ext. 1925

Urban society, residents and institution

Tanji HOSHI

Professor /Dr. Med.

Public health , Urban Health Policy

Rm. 2-102, +81 42 677 2355

Masami HAGAI

Professor /M. Law

Administration, Urban administration

Rm. 2-102, +81 42 677 1111 Ext.1944

Fumiko ITO

Associate Professor, Dr. Eng.

Urban planning, Analysis of Residential Environment, Cost-Benefit analysis of public projects

Rm. 2-209, +81 42 677 1111 Ext.1921

Overview of Research Activities in 2006

Architectural Planning/ City Planning

【Jun UENO・Masumi MATSUMOTO】

Studies for the Development of Sustainable Community and Living Environment for the Elderly

Jun UENO, Masumi MATSUMOTO

For the forthcoming progressive aging society, an improvement in quality of sustainable living environment for the elderly is most important theme for our Japan. Among the series of studies and investigation works based on these points of views, following subjects were accomplished this year.

- 1) Actual Situation of Residents' Daily Living Activities at Unit-Care Nursing Home
- 2) Study for Architectural Planning of Day-Service Center for the Elderly from the Viewpoint of the Activities Program and the Sphere of the Users
- 3) Study on the Changes of the Elderly's ADL and the Utilization of Rooms in Nursing Home

Series of Studies for Regeneration and Revitalization of Tama New Town

Jun UENO, Masumi MATSUMOTO

Tama New Town is the largest New Town in Japan and it progressed 30 year from the first step development. This series of studies aims to research and develop the methods for regeneration and revitalization of living environment of Tama New Town.

- 1) Environmental Behavior Study for the Children's Outdoor Activities at Tama-New Town
- 2) Actual Situation of Life Style of Elderly Who Live at the Housing Estates of Tama New Town
- 3) Development of Full-Remodeling Design Methods of School Buildings to Community Facilities

Studies on the Architectural Planning and Design for the Educational Facilities

Jun UENO

Concurrent with the change in modern educational philosophy and methodology, the space formation and composition of primary and secondary school should also be reorganized in every aspect. This series of studies aims to develop new concept and conditions for architectural planning of school facilities. Among the series of studies and investigation works based on these points of views, following subjects were accomplished this year.

- 1) Study for the Architectural Planning of Secondary School Based on Curriculum, Timetable and Management of Secondary School
- 2) Study for the Architectural Design and Planning for the School Complex with the Community Facilities
- 3) About the Architectural Planning on Integrated Facility of Kindergarten and Nursery School

Environmental Behavior Studies on the Community Facilities and Urban Open Space

Jun UENO, Masumi MATSUMOTO

Targeting on the people who stay at the urban open space and who use the community facilities, we are trying the series of Environmental Behavior Studies. From the actual investigation and observation works, we try to extract the order or characteristic tendency in human behavior. Among the series of studies and investigation works based on these points of views, following subjects were accomplished this year.

- 1) Environmental Behaviors Study for People's Activities at Urban Square
- 2) About the Architectural Planning for Community Center
- 3) Analysis for the Motions and Tracks of Pedestrians at Linearly Shaped Urban Open Space

【Tohru YOSHIKAWA】**Development of Methods for Construction of Community Facilities Network Utilizing Existing Public Buildings**

Tohru YOSHIKAWA

This study aims at developing methods for Construction of community facilities network suitable for the information, aged and mature society of Japan. To this end, a method to construct community facilities network utilizing existing public buildings is developed. The method was applied to Tama City, which includes the earliest development of Tama New Town, in Tokyo Metropolis. Especially, the distribution of demand for regional facilities and optimal closing order of regional facilities are analyzed theoretically.

Development of Platform for Sharing Regional Information utilizing ASP for Map Delivery

Tohru YOSHIKAWA and Hidenori TAMAGAWA

The purpose of this study is to support to build social infrastructure for sharing regional information by the Internet in the matured information society for which Japan is heading. To this end, an information platform, which is low-cost, flexible and open, is developed based on ASP for map delivery on the Internet. The practicality of the platform is tested using a collaborative experimental web site with municipalities and residents. Especially, applicability to civic action for preventing disaster is tested.

【Kenji TAKEMIYA】**Study on support system and care environment for the patients with mental disease**
TAKEMIYA Kenji

This study aims at re-arrangement of the mental hospital and support facilities in Japan from users point of view. This year two surveys were conducted

- 1) Analysis of the characteristics of utilization, inpatient treatment and discharge in a mental hospital
- 2) Analysis of the characteristics of utilization of support facility where discharged patients live several months

Architectural planning of community facilities for infants (0-3 years old) and their parents

TAKEMIYA Kenji

This study aims at making clear the characteristics of community facilities for infants (0-3 years old) and their parents. This year we had two research projects.

- 1) To show the current conditions and issues of the community facilities in Japan, field survey and correcting data of community facilities were carried out in a local district.
- 2) To show the current conditions and issues of community facilities for infants (0-3 years old) and their parents, inside observation and correcting questionnaire were carried out.

Residential Care system and milieu for elderly people

TAKEMIYA Kenji

For the progressive aging society, it is important to improve the quality of living environment for the elderly in Japan. This year, some remarkable results were got as follows:

- 1) The current situation and characteristics of small sized Day Center which supports the elderly in their community and offers short stay program and group home care in the same facility.
- 2) The utilization and meaning of the small sized Day Center for the elderly and their families.

【Motoki TORIUMI】

Research on the contextual renovation of townscape in France

Motoki TORIUMI

For large and smooth development of the Landscape Law of 2004, this research aims to make clear the methods for contextual renovation of townscape in France, specially in Paris.

Research on the city centre revitalization in France

Motoki TORIUMI

To contribute to the reform of Town planning act and City centre revitalization act in 2006, this research aims to analyze the building code, the commercial urbanism and the housing policy in France.

Research on the contextual renovation

Motoki TORIUMI

To contribute to the recover program of Expo 2005 in Aichi, this research deals with the architectural and urbanistic reutilization projects after the Expos in Lisbon and in Hanover,

【Shin AIBA】

Development and practice of the community training method for community based urban reconstruction planning

Shin AIBA

Learning a lesson from Great Hanshin Awaji earthquake, the metropolitan government of Tokyo has started serious of community training program for community based urban reconstruction planning. In 2006, I developed two programs which practiced in Asahigaoka district (Hachioji city) and Sakuradai district (Nerima city). The results are published as an article.

The study about decentralization of City Planning Law

Shin AIBA

After 2000 when the decentralization of City Planning Law was decided, the decentralization is still on the move. I research two aspects of the decentralization; 1) research and case-study of national suggestion system for deregulation and decentralization on city planning and 2) research of decentralization from "prefecture" to "basic municipality" using "system of exceptional division of duties" . The results are published as serious articles.

The activation and renewal of urban building stocks accumulated area of Tokyo

Shin AIBA

The research and case-study of the method for activation and renewal of urban building stocks- various ages, various structures- accumulated area.1) Analyze the possibility of activation for each building types, 2)Evaluate the building safety for earthquake, 3)The state of land use.

International comparative study of " history of community development" in east Asian countries.

Shin AIBA

The comparative study of practice and history of community development in three countries - "Shaku-Eizo" in Taiwan, "Maeul mandurugi" in Korea and "Machizukuri" in Japan. In 2006, I organized the workshop of each countries and correct basic materials.

【Naoki KUROKAWA】

Historical Studies on the American Architecture and Landscape Design

Naoki KUROKAWA

The result of on-site surveys on adaptive reuse of historic assets in both of North and South America, particularly conversion of Modern commercial buildings, was reported.

Architectural Design and History**【Katsuhiko KOBAYASHI, Akira KINOSHITA】****Analyses on Composition of Modern and Contemporary Architecture**

Katsuhiko KOBAYASHI and Akira KINOSHITA

One of the main purposes of architectural design research is to clarify morphological principles that give birth to architectural beauty. For this purpose, it is important and effective to abstract compositional principles and compositional method from existing architectural works and to examine the design principles. In the academic year of 2005, geometrical compositions seen in architectural works of Louis Sullivan, Aldo van Eyck, and Philip Johnson were analyzed. These studies were published in Summaries of Technical Papers of Annual Meeting and Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering of Architectural Institute of Japan.

Development of Architectural Design Method

Katsuhiko KOBAYASHI and Akira KINOSHITA

In architectural design research, it is also important to apply design principles and compositional methods abstracted by analyses to actual architectural design work. Thereby theory and practice, in other words, basic research and high-level application would be synthesized. In the academic year of 2006, our laboratory made efforts to develop design methods by entering international design competition in Hong Kong and working on actual project of conversion from an office building to housing.

Research on Conversion and Renovation of Existing Building Stocks

Katsuhiko KOBAYASHI, Akira KINOSHITA, and Tetsuya MITAMURA

It is becoming one of the most important and social subject in architectural field of Japan to find out and create various methods to revitalize the existing building stocks. In the academic year of 2006, from the viewpoint of architectural design, we surveyed conversion buildings located in U.S.A., France, Germany and Finland, succeeding our publication such as “Design Possibilities of the Architectural Conversion –Recent Works in Italy” in SPACE DESIGN 2005, the outcome of our field survey of Italian examples of conversion and renovation.

Intercourse between Architectural culture in the Indian merchant cities and English Baroque, in the late 17th century

Akira KINOSHITA

In the late 17th century, it was time for England to absorb non-occidental architectural culture, especially Indian and Middle Eastern, as well as to import classicism from Europe, when East India Company had been expanding its commercial activity in India. In this research focusing on the style of English cemetery and mausoleums built in western Indian merchant cities, we examine how its non-occidental style influenced contemporary English architecture, especially through the work of an architect, Sir John Vanbrugh who visited India in 1682.

【Yukimasa YAMADA】**Surveys and Studies on the Preservation and the Architectural Features of Traditional Timber Structures and Villages in Asia**

Yukimasa YAMADA, Kaori FUJITA

Since a number of the traditional architecture and villages with historical and cultural values have been disappearing rapidly in the Asian countries, their preservation is an urgent issue. Making surveys and studies from this point of view, we have reported the architectural features of communal institutes, called “Dinh”, and the traditional rural festivals in the typical villages of the northern Vietnam, based on the results from the field survey so far.

Project for Rehabilitation of Modern Collective Housing in Hanoi, Vietnam

Yukimasa YAMADA, So FUJIE, Osamu NISHIDA

Since the 1950s, the government of Vietnam has constructed various types of collective housing estates in Hanoi, some of which were supported by the technical aids from the former Soviet Union and North Korea such as constructing with precast concrete panels. In the subtropical climate, these buildings have been deteriorating functionally, structurally and aesthetically. Every kind of transformation occurs in many apartments influenced by rapid economic and social changes. We made an agreement with a research group of Hanoi Architectural University, who will collaborate with us on the project for rehabilitation of collective housing in Trung Tu District, Hanoi.

Studies on Historic Architecture and Urbanism in the Islamic World

Yukimasa YAMADA

Although numbers of the historic architecture in the Islamic world have their own peculiar features in the architectural techniques and designs, their nature has not yet been understood adequately in Japan, nor has their urbanism as their agglomeration. In a series of our successive studies on the architectural history and urbanism in Islam, we have tried to analyze the urban transformation of the historical district in Saida, Lebanon, and the architectural tendency between the Ottomans and the Modern era in Turkey.

【Masao KOIZUMI, Osamu NISHIDA】

Research on Accessibility of Urban and Architectural Space

Masao KOIZUMI

The First Stage of the Research is to analyze the Relationship between Housing and the City. This Research will be generalized into an Analysis of Relation between Architecture and Urban City.

These Researches will cover Areas such as; Type of Connection and Distance between Housing and the City, an Arrangement of Territories, Strength of the Boundary between Different Territories, etc. These Basic analyses will be developed into Research and Practice of a Design Method concerning Accessibility in an Urban Scale.

Research on Housing Transformation Reflecting the Change of Family

Masao KOIZUMI

Today a Family Style has transformed because of an Increase of Divorce and the rapid Progress of the Aging Society. But still most of the Houses are planned for so called “Nuclear Family”.

The Goal of this Research is to develop a Planning Method for Housings and propose a new Typology, through the Analysis of Contemporary Japanese Family and their Life Style. Collective Housing will be a main Target for this Theme.

Construction Management and Building Materials

【Seiichi FUKAO・Kozo KADOWAKI】

Development of an Activation Technology for Aged Public Residential Buildings Built in the High-growth Period

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Makoto TSUNODA, Kozo KADOWAKI and Susumu MINAMI

In Japan, various government authorities and public housing corporations built a huge number of dwellings in the high-growth period, and they accumulated more than two millions before 1980. In those buildings more than 20 years old, some problems have been arising in recent years: their interior finishings and functional systems are deteriorating, and they only have stairway access even though they are four or five story high. In this year, we continued a development of an activation technology for those aged public residential buildings.

To put it concretely, we developed a new technology to make access to dwellings more convenient by adding elevator tower (s) to the aged public residential building. In the last year, we developed the elevator addition system and test-constructed an elevator shaft in this system subsidized by the “Construction Technology Research and Development Subsidy Program” of the Ministry of Land, Infrastructure and Transport of Japan. In this year, we developed a connecting system of the elevator shaft to the existing residential building without compelling residents to move. Moreover, we developed an entrance porch addition system from the point of the view of adding more value to the building, and test-constructed those systems to verify the feasibility.

The results of this development were presented in the Annual Meeting of AIJ, the International Conference of CIB, and in some journals and newspapers.

Research on the Construction of S/I Housing

Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

S/I housing, of which building system is designed dividing into two parts: skeleton (or support, structural elements) and infill (interior components), is widely noticed as a promising building system of multi-unit residential building.

In this year, we made a hearing investigation to the contractors to reveal the present situation, feasibilities or trends of development concerning S/I housing.

Moreover, the concept of S/I housing is effective when the super-high-rise residential buildings renovated by reason of that they have to be renovated at the one-unit-at-a-time because of the massive units in one building. In this year, we evaluated ease of dwelling unit renovation using the drawings of a lot of super-high-rise residential buildings.

Research on Renovation in Detached Houses

Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

It is being recognized as important to renovate the deteriorating detached houses to make them withstandable to use more.

In this year, we conducted a research, which aimed to analyze the refurbishment cycles of exterior walls of detached houses and to grasp the actual situations of the refurbishments of exterior walls in four built-up areas in Tokyo. The results of this research were presented in the Annual Meeting of AIJ.

Moreover, we conducted a research on the overall of renovations in detached house to reveal the

actual situation in three built-up areas in Tokyo. We prepared the renovation records, obtained from a questionnaire survey, between renovated houses and non-renovated houses, and analyzed the effects of renovation on the life of detached house.

【Yoshinori KITSUTAKA】

Color Characteristic of Soil-Wall-Finishing Materials

Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA

As a study on color characteristic of soil-wall-finishing materials, fundamental characteristics of some kinds of soil materials were evaluated experimentally at first, considering the background of the conventional mix method of soil-finishing materials by workman, the theoretical design method on color-mix design of soil-finishing materials which was introduced the acquired experimental database was developed finally.

Effect of Color Combination of External Wall on Visual Evaluation of Super High-rise Housing

Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA

As a study on the effect of color combination of external wall on visual evaluation of super high-rise housing, it was cleared that the colors of external materials would give effects to visual evaluation such as the human psychological factors of harmony, comfort, refinement and so on.

Evaluation of Fire Resistance of Some External Wall Panel

Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA

Fire resistance and mechanical properties of some external wall panel which were composed of autoclaved lightweight aerated concrete (ALC), ceramic-type siding, steel-type siding and cementitious-type pushing-out siding were evaluated experimentally by fire resistance test of ISO 834, bending panel test and rehabilitation test.

Study on Aggregate-Recovery-Type Completely Recyclable Concrete

Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA

Aggregate-recovery-type completely recyclable concrete is designed to reduce the adhesion between aggregate and the matrix to an extent that does not adversely affect the mechanical properties of concrete by modifying the aggregate surfaces beforehand, thereby facilitating recovery of original aggregate. The fundamental properties of long-term curing concrete were adequately sufficient against the general specifications and the surface modifying effectiveness was fully maintained.

【Makoto TSUNODA】

Studies on Activation Technique of Public Building Stock

Makoto TSUNODA

In Japan, demolition and new construction based on declining in the durability and increased availability of buildings continues to be practiced. This practice is unfavorable from the viewpoint of utilization of the existing building stock. Activation technique is necessary for leading preservation and improvement of the public property. In this study, we grasped the actual condition of unused floor area ratio in the center of Tokyo which carried out the high-density land

use. And effective uses of unused floor area ratio caused by density transfer were found out. Furthermore, we clarified the management system for activation of public building stock by collaborates with public and private sector.

Studies on Building Transformation Techniques

Makoto TSUNODA

Conversion which is the one of building transformation techniques were restricted by the design of existing building. So when we convert to new function building, we need to add design requirement of building stock. In this study, we found out the influence of building stock upon the conversion design from viewpoint of floor and section planning about industrial buildings and idle classrooms in school buildings. In industrial buildings, there had diversity of spatial conversion design because of large space volume, but extension of building, for example; entrance for new function. In school buildings, structural frame, ceiling, opening and floor level restricted conversion design.

Studies on Demolition for Decreasing of Construction Waste

Makoto TSUNODA

Volume and variety of construction waste according to demolition were affected by both construction and demolition method. In the present circumstance, demolition processes were not considered building construction method at all. In this study, we grasped the influence of rationalization in construction method, which is prefabricated detached house, on demolition process. As a result, demolition of composite materials made in factory were required a great deal of time for separation. The necessity of mutual relationship contents of disposal and labor of separation were found out.

【Masaki TAMURA】

Study on the Influence of the Surface Finishing and Color Properties on Visual Evaluation of the External Facing Stone, Part4. Influence of lighting irradiation angle and observation distance on the impression of sandstone

TSUCHIYA Jun, KITSUTAKA Yoshinori and TAMURA Masaki

Transactions of AIJ, No.603, pp25-29, 2006.5

Color Impression Evaluation of Apartment of Housing Complex by Repairing Facades by Luster Gloss Aluminum Panel(in Japanese)

Myumi Sato, Yoshinori KITSUTAKA, Masaki TAMURA and Jun TSUCHIYA

AIJ J. Technol. No.24, pp.39-42, 2006.12

Surface Characteristics of Concrete with environment-conscious Synthetic Resin Type Formwork Part 1

Masaki Tamura et al.

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006.11

Study on the Low Quality Recycled Coarse Aggregate to Concrete Structure by Surface Modification Treatment

Masato Tsujino, Masaki Tamura et al.

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006.11

Surface Characteristics of Concrete with environment-conscious Synthetic Resin Type Formwork Part 2

Shimoyashiki Tomoaki, Masaki Tamura et al.

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006.11

Surface Characteristics of Concrete with environment-conscious Synthetic Resin Type Formwork Part 3

Teruo Kondo, Masaki Tamura et al.

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006.11

Visual Effects of Building Stone Finishing, Proceedings of International Symposium on Sustainable Habitat Systems

Jun Tsuchiya, Yoshinori Kitsutaka and Masaki Tamura

Kyushu University, pp.67-76, 2006.12

Structural Engineering**【Manabu YOSHIMURA・Takaya NAKAMURA】****Reassessment of Ductility Index for "Shear Column" in Standard for Seismic Evaluation of Existing R/C Buildings**

Manabu YOSHIMURA and Takaya NAKAMURA

The ductility index for "Shear Column" is prescribed by the Standard for Seismic Evaluation for Existing R/C Buildings as a value ranging from 1.00 to 1.27, being in narrow width. It is due to the fact that test data regarding post-peak behavior for this type of columns were insufficient in the past. It was intended in this research to reassess the ductility index of □gShear Column□h using the load-deflection relation including the post-peak region determined based on recent test results, and dynamic analysis. Values of the ductility index so reassessed range from about 0.8 to 1.6, being in width much broader than those prescribed by the current standard. This result is expected to increase the accuracy of evaluating the seismic performance of existing R/C buildings.

【Shinji YAMAZAKI・Susumu MINAMI】**A Study on Seismic Performance of Steel High-Rise Building Frames Subjected to Long Period Earthquake Ground Motions**

Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

In cases where a huge offshore earthquake occurs, it is estimated that seismic ground motions with long period components could continue for several minutes. The behavior of existing super high-rise buildings subjected to such long period ground motions was studied. The difference in the response characteristics between the case of the building being subjected to ground motions which have been commonly applied in structural designs and the case of it being subjected to long period ground motions has been clarified mainly from the viewpoint of the relationship between the cyclic behavior in plastic zone and the energy absorption of the building.

Progressive Collapse in Multistory Frames under Gravity Load

Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

There are two cases of behavior of multistory frames after the vertical collapse of one story which occurs due to an event such as an explosion or an earthquake. One is where the collapse proceeds to a certain extent and then ceases and the other is where the collapse continuously progresses until all stories have completely collapsed. The collapse in the latter case is called progressive collapse which is an unstable phenomenon resulting from the gravity load of frames. This study clarified the frame conditions which enable stories to resist progressive collapse through comparing the gravity potential energy released by the story collapse with the energy which columns absorb before they completely collapse due to the compressive load.

Energy Absorption Capacity of Steel Beams under Cyclic Loading

Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

In order to estimate the seismic performance of frames with weak beams, it is necessary to make clear the energy absorption capacity of beams. The energy absorption of beams occurs in the inelastic region at their ends. The energy absorption capacity is closely related to the maximum strength ratio due to the fact that the length of the inelastic region is determined by this ratio. In this study, the effects of cyclic loading upon the maximum strength ratio were made clear by

carrying out experiments. Furthermore, a method for quantitatively estimating the energy absorption capacity of steel beams subjected to cyclic bending moment was derived.

【Kaori FUJITA】

【Kazuhiro KITAYAMA】

Earthquake Resistant Performance of Prestressed Reinforced Concrete Three-Dimensional Beam-Column Subassemblies

Kazuhiro KITAYAMA

A prestressed reinforced concrete three-dimensional beam-column subassemblage specimen, called as JD-3, was tested under bi-directional load reversals in horizontal plane. Axial compression load to a column was kept constant during the test. Loading path at the top of a column was decided so as to depict clover-wise shape. Steel longitudinal bars of 4-D25 and prestressed deformed tendon of 1-D22 were arranged at the top and bottom of a beam section respectively. Ultimate prestress ratio to concrete compressive strength in the beam section was 0.26.

Peak story shear force was attained at a story drift angle of 3 % due to shear failure in a beam-column joint region, whereas concrete severe damage by compression at the ends of beams and columns occurred and strain in beam PC tendons exceeded its elastic limitation. Strain of beam longitudinal reinforcement in compression area of a critical beam section resulted in tension after a story drift angle of 1 %. This indicates bond deterioration along beam bars in a beam-column joint region.

Tri-lateral Loading Test of Reinforced Concrete Plane Frame Strengthened by Multi-story Steel Brace

Kazuhiro KITAYAMA

For seismic retrofit of existing reinforced concrete (R/C) buildings, steel braces with perimeter steel rims are often installed into moment resisting open frames in Japan. Steel braces are usually placed through the same bay of several stories of a building in order to carry shear force in each story well to a foundation. Two plane specimens with a quarter scale to actual buildings were tested under uni-directional reversed cyclic loading in 2002 by Kitayama and Kato. These specimens had three bays with each 1000 mm span length and two stories with the height of 800 mm, placing multi-story steel brace at the center bay. Influence of two failure patterns of the braced frame, i.e., base uplift failure of the braced frame and flexural failure at the bottom of the braced frame caused by tensile yielding of all longitudinal bars in a R/C edge column beside the steel brace, had been studied.

Earthquake attacks, however, come from two directions in a horizontal plane. Especially this seems to affect seismic behavior of flexural failure at the bottom of a braced frame. Therefore, keeping out-plane deflection of a plane frame specimen with the same shape as that in 2002 as constant, static test was carried out by applying in-plane horizontal load and constant axial load to the specimen to investigate behavior of flexural failure at the bottom of a braced frame under tri-lateral loading.

Out-plane deflection was given by three oil jacks set at the top of the braced frame and two

isolated columns in transverse direction. In-plane lateral force was applied alone at the top of the braced frame by two oil jacks in longitudinal direction, keeping axial compressive force to the braced frame constant. Axial load was not applied to two isolated R/C columns because of the accident mentioned below. Four footings of the specimen were rigidly connected to RC reaction floor by PC tendons.

Cross section of a steel brace was H-shaped with 60 mm width and 60 mm depth, which was built by welding flat plates with 6 mm thickness. Concrete was cast in the horizontal position using metal casting form. Concrete compressive strength was 37 MPa by cylinder tests.

Prior to the test, two isolated R/C columns buckled toward out-plane at a second story by a matter of vertical jack control. It is judged that this accident has little influence on seismic performance of the specimen under in-plane loading.

Conclusion drawn by the test is mentioned as follows.

- a. All longitudinal bars in RC edge column of a brace yielded in tension at a top drift angle of 0.4 %. Lateral force resistance reached peak capacity, forming plastic hinges at all boundary beam ends at a top drift angle of 1 %. Hereafter lateral resistance degraded gradually by concrete compressive failure and successive fracture of column longitudinal bars at the bottom of both edge columns after a top drift angle of 2 %.
- b. Lateral resistance obtained by the test was by 6 percent smaller than lateral strength predicted by considering both resisting moment of boundary beams and tensile resistance of anchorage bars connecting lateral steel rim and R/C foundation beam. The ratio of lateral resistance to predicted strength in this test subjected to out-plane loading was by 10 percent smaller than that obtained by previous test without out-plane loading executed in 2002. Therefore, lateral capacity which is dominated by flexural failure at the bottom of a braced frame was degraded by bi-directional horizontal loading. This was caused by the acceleration of concrete compressive damage at the bottom of R/C edge columns under bi-directional loading.
- c. Ultimate limit deformation obtained by the test was 1.4 times that predicted by Standard for Evaluation of Seismic Capacity of Existing R/C Buildings revised in 2001 by Japan Building Disaster Prevention Association. The prediction of ultimate limit deformation in a strengthened R/C frame failing in flexure at the bottom of a braced frame is conservative even under tri-lateral earthquake excitations.

Seismic Capacity Evaluation and Seismic Rehabilitation Design of Existing Reinforced Concrete School Building

Kazuhiro KITAYAMA

Project on extensive rehabilitation design of a three-story school building with thin plan configuration, which was built in 1955 and 1959, in Sakura-dai Elementary School in Yokohama City is carried out as one of COE studies selected by Ministry of Education of Japan. Concrete compressive strength is fairly inferior, i.e., 14.9 MPa at the first story, 13.7 MPa at the second story and 12.3 MPa at the third story. The second level procedure of seismic capacity evaluation was executed to a longitudinal direction of a unit frame consisting from three R/C columns according to Standard for Evaluation of Seismic Capacity of Existing R/C Buildings revised in 2001 by Japan Building Disaster Prevention Association.

From the evaluation, a brittle column, a shear column and a flexural column mingle at the

first story whereas all columns above the second story are dominated by flexure. The value of the seismic index I_s is 0.29 at the first story, 0.34 at the second story and 0.46 at the third story. The value of C_{tuSd} index which represents lateral force capacity of a building is 0.40 at the first story, 0.37 at the second story and 0.50 at the third story. The first and second stories are deficient in both lateral force capacity and ductility. The north side column at the first story of the building reduces earthquake resistant performance of the story because the column is judged as a brittle column with very poor ductility due to hanging wall and spandrel wall.

To carry out structural rehabilitation of this school building by strength enhancement, the addition of steel braces, side walls and shear walls with opening is effective in the north R/C open frame. Retrofit by using steel grid or concrete grid brick, which can have appropriate opening for ventilation or passage, is also available to the center frame between a class room and a corridor. Seismic rehabilitation to transverse direction should be also done since the amount of R/C shear walls at the second and third stories in transverse direction is less than that in typical school buildings.

【Kazushige YAMAMURA】

Ambient Vibration Test for Kenchiku Kaikan

YAMAMURA Kazushige

Strong motion observation has been conducted in Kenchiku Kaikan since 1982. According to recent analyses, seismic intensity is one unit smaller than in Otemachi and predominant frequency is 2 Hz. These characteristics is thought to be affected by Kenchiku Kaikan itself. Then ambient vibration tests were conducted for Kenchiku Kaikan and its characteristics of vibration were examined.

As results the followings are obtained. The soft surface ground is not so thick at Kenchiku Kaikan and are removed by the basement floor of Kenchiku Kaikan. Therefore the vibration characteristics at three spots in the basement floor are almost same but those at the spot where the strong motion recorder is settled are affected by the upper structure. And as the vibration characteristics of the upper structure, the natural period and damping factor is 2.8Hz and 2% for the longer direction and is 3.4Hz and 4% for the shorter direction. And according to its shape the vibration characteristics is very complex.

Estimation of Effects of Seismic Reinforcing of a Wooden Building by Microtremor

YAMAMURA Kazushige

Preparing the forthcoming great earthquake, seismic diagnosis and seismic reinforcement have been conducted. And these amount are increasing by supports and financing by local governments. By reinforcement the seismic performance is surely improved but the vibration characteristics is no obvious. Then in this study microtremor measurements for a wooden building are conducted before and after reinforcement and its vibration characteristics are estimated.

As results the followings are obtained.

- i) The natural frequency before reinforcement is 5.4Hz and one after reinforcement is 6.3Hz.
- ii) Before reinforcement the mode shape for x-direction shows large displacement in the first floor and after that the mode shape becomes adequate.
- iii) Before reinforcement the vibration of each direction affected each other but after that

independency in vibration is higher.

iv) Before reinforcement damping factors of x- and y-direction are 3.4% and 6.0% respectively and after that are 4.6% and 4.2%.

v) According to the estimation of story stiffness, the upward tendency of story stiffness by reinforcement shows good agreement with that of upper structure estimation score.

Environmental Engineering

【Hisaya ISHINO ・ Satoshi NAKAYAMA】

A Study about a Hybrid Air-conditioning System with a Combination of Natural Ventilation and Ceiling Fans

Hisaya ISHINO

This study describes whether its air conditioning system functions properly and achieves the energy saving and reduction of loads on environment. The air conditioning system is featured by the system composed of under-floor air conditioning and natural ventilation in combination and equipped with ceiling fans. The natural ventilation rate and cooling rate due to natural ventilation were estimated through the analysis of the field measurements results.

Evaluation of Rooftop Greening as a Method of Heat-island Reduction

Hisaya ISHINO

Heat-island phenomenon has become obvious in urban area of recent years. Rooftop greening become a specific and effective measures of alleviating this problem. Maintenance easily vegetations such as sedum are applied to rooftop greening products initially, but recently there are many products using turf because it is important to evaporate from vegetation for reduction sensible heat flux of rooftop.

Many previous studies mainly dealt with vegetation on the ground, but it(s conceivable that rooftop greening products possess different characteristics from natural ones because of specific soil, watering system and so on. This study presents heat and water budget characteristics of rooftop greening products based on long term actual measurement, reduction effect of heat-island by provisional estimation.

Characteristic Study on Meteorological Elements effect on Separation of Global Irradiance –Influences of Irregularity of the Sky Radiance Distribution and Cloud Status–

Satoshi NAKAYAMA and Hisaya ISHINO

It is important to understand properties of the essences of the specific meteorological elements, to improve the precision of the separation of global to direct and diffuse solar irradiance. In this study, we picked two meteorological elements up, one is the irregularity of the sky radiance distribution and the other is the cloud status, and examined the characteristics of each factor. For the irregularity of the sky radiance distribution, we proposed the expressive index of this factor, and showed the relationship with the irradiance separation. Fort the cloud status, we showed the

characteristics of appearance of the cloud combination each altitude of the sky. When the correction model based on the cloud status was applied to the irradiance separation, the precision of prediction was slightly improved.

【Noriyoshi ICHIKAWA】

Development of Optimal Water Supply System in Buildings

Noriyoshi ICHIKAWA, Yoshiharu ASANO (Shinshu Univ.), Fumitoshi KIYA (Kanagawa Univ.)

Water supply system in buildings can be classified into two types of system, the direct supply system (Direct system, Direct Booster Water Supply[DBWS] system) and the receiving tank system (Elevated Storage Tank system, Pressure Tank system, Booster Pump system). The DBWS system was introduced for middle scale buildings in Japan about 10 years ago. The DVWS system has many advantages, but has a lot of problems that we must examine in future.

This year, we examined about the construction of the model of the design quantity of water consumption by the estimated maximum value and so on.

Study on usage of water in consideration of utilization of resources and energy

Noriyoshi ICHIKAWA, Shizuo IWAMOTO (Kanagawa Univ.), Takesshi KONDO (Kanagawa Univ.), KAMATA (Univ. of Tokyo), Masayuki OTSUKA (Knto Gakuin Univ.)

Since the amount of rainfall in a dry year has been on a downward trend, to ensure the stable use of water supplies, it is necessary to take positive measures to develop public awareness of the need for water conservation, to promote the multistage use and reuse of water and the use of rainwater according to the plan and to develop a method of recovering water that can be used as a new water resource.

This year, we examined performance evaluation about a saving water device and an ISO environment mark standard.

Study on Countermeasure to Legionella in the Public Bath Facilities

Noriyoshi ICHIKAWA, Ysushi KONDO (Musashi Institute of Technology), Yasuhito NAGASAWA (Kagoshima Univ.)

In Japan, Legionellosis infectious disease has been a serious problem in big bathtubs with water circulation system installed in hotels, spa, public bath, training facilities etc.. Legionella occurs in the bathtub by various causes. It can be supposed that a bathtub has such infectious risk when water is stagnant in it.

This year, we analyzed stagnation area in water tank by Computational Fluid Dynamics (CFD).

【Nobuyuki SUNAGA】

Research on Comfortable Bioclimatic Architecture

Nobuyuki SUNAGA

For the benefit of preserving global environment, the effective use of energy consumed in architecture and the utilization of natural energy are indispensable factors for architectural design. Furthermore to popularize Passive and Low-Energy Architectures which are buildings designed by considering energy conservation and natural energy utilization, it is necessary to clarify the actual performance of them and to establish evaluation methods for them which are simple and widely acceptable for the public. Our laboratory has been engaged in the research of

these themes.

In this academic year, we carried out following studies.

1) Environmentally Friendly School (Eco-School): **a)** We carried out the literature investigation on the Eco-School in Japan, and also did the questionnaire survey on the passive and low energy methods, the energy consumption and so on. **b)** We measured the actual exposure thermal environment of schoolchild both in their school and in their home. It was shown that the thermal condition of classroom in summer is intolerable and the locking out the openings stops the temperature falling of the classrooms after the time the school is over, and so on. **c)** The effects of the passive methods, such as thermal insulation, eaves, night-purge and so on, were clarified both by the measurement survey and by the simulation studies.

2) Improvement of RC Residences by Outside Thermal Insulation: **a)** We carried out the field measurements and the simulation studies about the effect of the improvement with outside thermal insulation, and validated the energy-saving effect and the upgrading residence comfort by the improvement. **b)** The thermal environmental problems resulting from the super heat insulation and its' improvement methods in the typical Japanese climate were illustrated in the Report on 'Building Stock Activation of Apartment Houses in Tama New Town by Super Thermal Insulation'.

3) Evaluation Method for the Bioclimatic Houses: A paper concerning the evaluation method, that can evaluate the thermal performance of resident with no air-conditioning system considering the behavior of residences, was decided to be printed on the journal of AIJ. Also we are analyzing the data of experiments using actual house and subjects in last academic year.

4) Exposed Ceiling Pipe Cooling System: The cooling performance of the ceiling pipe cooling system in 2006 summer was experimentally monitored and examined. The water/vapor transfer coefficient on the surface of the pipe was clarified.

5) Proposal for Indoor Environment Improvement on a Conversion Project: We proposed an activation design considering the thermal and sound performance on the conversion project from office building to apartment house.

6) Change of Thermal Comfort Limits by Acclimatization: Using subjects' data in Sapporo, Tokyo, Kumamoto and Naha, the summer acclimatization was examined.

7) IEA Sustainable Solar Housing Project: The proofreading of the book titled 'BIOCLIMATIC HOUSING -INNOVATIVE DESIGNS FOR WARM CLIMATES-', which we wrote in the project, was done.

【Akihiro NAGATA】

Identification of Hygrothermal Characteristics of a Residential Building

Akihiro NAGATA

Today, the method to predict the hygrothermal environment of a residential building is advancing remarkably. On the other hand, the evaluation of the hygrothermal performance when completed is disregarded. For example, the coefficient of heat loss and the coefficient of solar heat gain are adopted as the fundamental indices of the thermal performance according to the Japanese criteria of the energy conservation, but the criteria refer only to the calculation methods when the thermal performance of building elements is known. The in-situ measurement of thermal transmittance of each element is also importance. We proposed the method to measure the thermal transmittance by using heat flux sensors and a sheet heater in 2004. This year, the

accuracy of the method was investigated by in-situ experiments.

Simple Method to Predict Thermal Loads

Akihiro NAGATA

Building components are exposed to temperature change at all times from the start of the construction until the end of the destruction. Thermal load, which is defined as the temperature that causes the effect on buildings, should be considered for certain building structures at the design stage. The temperatures of building components are vary according to the climatic conditions such as outdoor air temperature and solar radiation, indoor air temperature and the construction of the components, therefore, these can not be uniformly determined. In this study, we are investigating the development of the weather data and the application for walls, beams and columns.

Urban space and environment

【Itsuki NAKABAYASHI】

Development of Planning Methodology on Urban Reconstruction Plan after Earthquake and Promotion of Community-based Recovery

Itsuki NAKABAYASHI, Taro ICHIKO, Shin Aiba and others

It is necessary to prepare recovery and reconstruction measures before a disaster learning from Kobe Earthquake. We are developing a methodology on urban reconstruction planning and promotion of community-based recovery in damaged districts, in a model study of Tokyo.

Comparative Studies on reconstruction processes after Earthquake among Marmara Earthquake in Turkey, Chi-chi Earthquake in Taiwan and Hanshin-Awaji Earthquake in Japan

Itsuki NAKABAYASHI, Taro ICHIKO, Shin Aiba and others

There are characteristic processes of urban reconstruction after earthquake in Taiwan and in Turkey. We studies comparatively these reconstruction processes in Turkey, Taiwan and Japan, in order to build more effective reconstruction measures after earthquake.

Development of strategic countermeasures against the next Tokyo's Earthquake and Promotion of Community-based Mitigation Projects.

Itsuki NAKABAYASHI

I am clarifying the characteristics of Tokyo Earthquake as “super Urban Earthquake Disaster” in order to promote developments of various strategic countermeasures and community-based mitigation projects, especially in crowdedly built-up districts of wooden houses in Tokyo.

Study on legislation and administration of community improvement & vitalization (Machizukuri) ordinance in local authority

Itsuki NAKABAYASHI

I supported to legislate on ordinance of community improvement ordinance (Machizukuri jorei, in Japanese) in Tama city, located suburban areas of Tokyo Metropolis, and offered new administration of this ordinance for community improvement/vitalization planning and the city

planning with collaboration between local authority and residents

【Hidenori TAMAGAWA】

Research on sustainable cities

Hidenori TAMAGAWA

Considering various aspects of urban sustainability, the book *Sustainable Cities: Japanese Perspectives on Physical and Social Structures* was published by UNUP in this fiscal year.

Study on safety of urban area

Hidenori TAMAGAWA and Takumi KASUYA

The safety of urban area is an important factor for the attractiveness of cities. The famous theory by Jane Jacobs was reconsidered comparing with the Japanese cases. The data analysis of snatches was also conducted.

【Tetsuo AKIYAMA】

The Following are three research subjects.

The first is the accessibility of road design, railway stations, vehicles and airport terminal design for the elderly and disabled.

Basically, this is the organization of the concept of transportation universal design; and is based on the examination of the structure plan in Shinjuku Ward and Taito Ward on planning and promotion. Airport terminal has started to make Universal Design Guideline for airport buildings. The second subject is the developed transport system, such as special transport service, demand responsive transport and buses. This is comparison between Japanese and Europe policy of transportation, and describes the bus transportation planning and special transport planning. In addition to the consideration of mobility and public transport in depopulated regions, future perspective of demand responsive transport was examined as a case study.

The third is tourism research. The goal of this study is to bring up tourism planner and promoter. After this research, we make the course of new tourism program. Furthermore, we research of tourism universal design from the view point of users.

【Taro ICHIKO】

Development of planning technology for disaster-proof community activities

Taro ICHIKO

The building loss of the Tokyo capital earthquake directly above the focus was estimated five times bigger than the Hanshin-Awaji earthquake according to cabinet office government of Japan. It is inevitable to make and do mitigation strategy for not only directly loss like death and injured but also indirectly loss like housing damage. In this study, I supposed to make planning technology for disaster-proof community development.

In fiscal year 2006, I engaged in 8th municipal staff training by TMG. Recovery urban planning guideline was verified and training program was inquired.

Development of the neighborhood community-training program for post-disaster recovery

Taro ICHIKO, Itsuki NAKABAYASHI, Shin AIBA

The objective of this study is developing inhabitants, administration, training technique to make the indirect damage reduction from a viewpoint of "pre-disaster planning" ahead of a serious damage assumption by a capital earthquake directly above the focus.

In this year, we developed some training methods in Sakuradai, Nerima ward. In addition, we discussed earthquake disaster recovery manual for a municipality.

Urban community and society

【Tanji HOSHI】

Health status in urban area of Tokyo and making clear the factors which contribute the healthy life for the aged people in urban city.

The purpose of this study is to make clear the yearly trend of the health status in urban city and determine which have the validity for the survival rate of the dwelling elderly for several years followed up in urban city..

【Masami HAGAI】

Study on Administrative Decentralization and Local Governance in Japan

The objective of this study is to clarify the meanings of changing local government system and to consider inevitable conditions of local governance from the point of view of local autonomy and subsidiarity.

Study on municipalities (communes) and inter-governmental relations in France

The objective of this study is to consider the inter-governmental relations and to research on the possibilities of regional development based on partnership of small municipalities, prefecture, region and Central Government.

This year, I carried out researches on the relevant basic documents about inter-governmental relations in France.

【Fumiko ITO】

Real estate related information

Information of real estate includes some negative factors which deduce the value of the lots. Though most suppliers don't announce the information of these negative factors, information should be open to the customers. In respect to housing environment information, safety factors which belong to negative factors are less opened by suppliers in comparison to positive factors. The strategy of enhancing of real estate related information was considered.

Cost-benefit analysis of public projects

Several public project was analyzed by cost-benefit analysis.

- 1) Analysis of Art triennale (Festival of modern arts in Niigata Tsumari area) by CVM.
- 2) Conjoint analysis of public spa in Yamagata.
- 3) Hednic price analysis of Shinano river improvement works.
- 4) Cost benefit analysis of the location of wards and ward offices in Niigata city.

List of Research Activities in 2006

Architectural Planning/ City Planning

【Jun UENO】

1. Refereed Papers

REPETITIVENES OF CHILDREN'S STAYING PLACES AT A DAY NURSEY

Asuka Yamada and Jun Ueno

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transactions of AIJ) : No.602, 2006.04. : pp35-42.

A STUDY ON THE STUDENT'S REMEMBRANCE OF IMAGE SCENERY AND SELECTION OF PLACE IN JUNIOR HIGH SCHOOL

Yumi Tsunekage, Ryoko Kurakazu, Kayo Nitta and Jun Ueno

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transactions of AIJ) : No.604, 2006.06. : pp31-37.

A STUDY ON THE ARCHITECTURAL PLANNING OF JUNIOR HIGH SCHOOL FROM THE VIEW POINT OF ACTUAL SITUATIONS OF LEARNING ACTIVITIES

Kayo Nitta, Ryoko kurakazu and Jun Ueno

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transactions of AIJ) : No.605, 2006.07. : pp39-45.

INFLUENCE OF THE CEILING HIGHT OF CLASSROOMS ON ITS ACOUSTIC AND LIGHTING ENVIRONMENT AND STUDENTS'EVALUATION

Jun Munakata, Tetsuya Sakuma, Kotaroh Hirate, Ryoko Kurakazu, Kuniko Hashimoto and Jun Ueno

Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ) : No.605, 2006.07. : pp127-132.

AN EXPERIMENTAL STUDY ON STUDENTS'PSYCHOLOGICAL IMPRESSION AND DIMENSIONAL PERCEPTION OF CEILING HIGHT IN CLASSROOMS OF THE JUNIOR HIGH SCHOOL

Kuniko Hashimoto, Ryoko Kurakazu and Jun Ueno

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transactions of AIJ) : No.606, 2006.08. : pp41-47.

A STUDY ON STUDENTS'EVALUATION OF THE CLASSROOM –Influence of age and adaptation on the students'response toward the ceiling height of classroom Part 1

Jun Munakata, Ryoko Kurakazu, Masayuki Sato, Kuniko Hashimoto, Hiroyuki Tanzawa, Seiichiro Yamamoto and Jun Ueno

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transactions of AIJ) : No.607, 2006.09. : pp65-70.

A STUDY ON THE SOCIAL FACILITY FOR THE INDEPENDENT ELDERLY PEOPLE

Asuka Yamada, Ayako Hinuma and Jun Ueno

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transactions of AIJ) :
No.608,2006.10. : pp35-42.

A REPORT OF CURRENT STATE OF INTEGRATED FACILITIES WITHIN FUNCTIONS OF
NURSERY SCHOOL AND DAY NURSERY

Asuka Yamada, Ayako Hinuma and Jun Ueno

AIJ Journal of Technology and Design : No.24, 2006.12. : pp307-312.

A STUDY ON THE MANAGEMENT CONDITION AND AWARENESS OF THE
ADMINISTRATORS ON THE SCHOOL-COMMUNITY FACILITIES COMPLEX IN TOKYO

Kiyoshi Saito, Noriaki Kaneko and Jun Ueno

AIJ Journal of Technology and Design : No.24, 2006.12. : pp317-322.

2. Presented Papers

A CONSIDERATION ON THE SOCIAL SUPPORT FACILITY FOR THE
INDEPENDENT ELDERLY PEOPLE IN TAMA NEW TOWN

Soyi CHEONG, Asuka YAMADA, Masumi MATSUMOTO and Jun UENO

Proceeding of the 7th International Symposium on Environment -behavior Research, Dalian,
China : p p . 577-585, 2006.10

The actual condition and the evaluation of Japanese school classrooms from the teachers'
viewpoint on Appropriate Class Size in a Japanese school

Ryoko KURAKAZU, Kuniko HASHIMOTO, Jun MUNAKATA, Jun UENO

EBRA2006 PROCEEDINGS OF THE 7th INTERNATIONAL SYMPOSIUM FOR
ENVIRONMENT-BEHAVIOR STUDIES "HARMONY IN TRANSITION" ;pp67-75

A Report of Current State of Integrated Facilities within Functions of Nursery School and Day
Nursery

Hinuma Ayako, Yamada Asuka and Jun Ueno

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.101- : 2006.09.

Investigation on the Programs and Activities at Children center (1)

Kaneko Noriaki, Tsunekage Yumi, Yamada Asuka, Kurakazu Ryoko and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.125- : 2006.09.

Investigation on the Programs and Activities at Children center (2)

Kaneko Noriaki, Tsunekage Yumi, Yamada Asuka, Kurakazu Ryoko and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.127- : 2006.09.

The Programs and Activities of Ikigai Day Service Centers –A Study on the Social Facility for the Independent Elderly People (1)

Matumoto Masumi, Cheong Soyi, Yamada Asuka and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.187- : 2006.09.

The Types and Characteristics of the Elderly at Ikigai Day Service Centers -A Study on the Social Facility for the Independent Elderly People (2)

Cheong Soyi, Yamada Asuka, Matumoto Masumi and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.189- : 2006.09.

Residents' Living Type according to their Staying Place -Analysis on the Residents' Daily Activities at Nursing Homes with Unit-Care

Ashizawa Yuki, Hama Hiroko, Yamada Asuka and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.201- : 2006.09.

Residents' Displacement and Communication -Analysis on the Residents' Daily Activities at Nursing Homes with Unit-Care

Hama Hiroko, Yamada Asuka, Ashizawa Yuki and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.203- : 2006.09.

A Study on the Management Condition on the Public Elementary and Junior High Schools with Lifelong Learning Facilities –A Study on the Actual Conditions of School-community Facilities Complex in Tokyo (4)

Saito Kiyoshi, Kaneko Noriaki and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.323- : 2006.9.

A Report on the People's Behaviors at Community Parks from the View Point of Local Situations

Fujisawa Yusuke, Yamada Asuka and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.445- : 2006.09.

Psychological Impression and Environmental Evaluation for Classrooms –The questionnaire for primary school children, junior high school students and senior high school students in the Metropolitan Area

Hashimoto Kuniko, Kurakazu Ryoko, Munakata Jun, Tanzawa Hiroyuki and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.1121- : 2006.09.

The Evaluation of Classrooms in Public Schools from the View Point of Teachers

Kurakazu Ryoko, et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.1123- : 2006.09.

Influence of Age and Adaptation on the Students Response toward the Ceiling Height of Classroom –Consideration Concerning the Child Students Behavior in the Classroom

Sato Masayuki, et al

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.1125- : 2006.09.

Children's Outdoor Activities in Tama Newtown according to Questionnaire Survey
–Environmental Study on Children's Outdoor Activities in Tama Newtown (1)

Kondo Juri, Matsumoto Masumi, Kurakazu Ryoko and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.551- : 2006.09.

Relationship between Composition of Open-Space in the Neighborhood and Children's Outdoor Activities –Environment Study on Children's Outdoor Activities in Tama Newtown (2)

Kondo Juri, Ueno Jun, Matsumoto Masumi, Kurakazu Ryoko and Yamada Asuk

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.553- : 2006.06.

【Tohru YOSHIKAWA】

1. Refereed Papers

A Model For Locating Spatial Function in Human Space Based on Patterns of Individual Use of Spatial Function

Kohei TANIGUCHI and Tohru YOSHIKAWA

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transaction of Architectural Institute of Japan), No.612, pp.123-129 (Feb.2007) (in Japanese)

Investigation of Converted Walking Distance Considering Resistance of Topographical Features and Changes in Physical Strength By Age

Eiji SATOH, Tohru YOSHIKAWA and Asuka YAMADA

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transaction of Architectural Institute of Japan), No.610, pp.133-139 (Dec.2006) (in Japanese)

Assessment of Living Environment in Tama New Town Based on Factors in Real Estate Prices
Aya NAKABAYASHI, Eiji SATOH and Tohru YOSHIKAWA

Journal of the City Planning Institute of Japan, No.41-3, pp.677-682 (Oct.2006) (in Japanese)

Demand Structure of Regional Facilities from the Viewpoint of Selection Process by Users

Kazuki YANAGISAWA and Tohru YOSHIKAWA

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transaction of Architectural Institute of Japan), No.607, pp.111-118 (Sep.2006) (in Japanese)

A Method to Quantify Accessibility in Urban Space Reflecting Space Function and kind of Users -
Focusing on Newly Developed Urban Space in Large Cities of Japan -

Eiji SATOH and Tohru YOSHIKAWA

Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2006, pp.26-270 (Aug.2006)

2. Proceedings of Oral Presentations

Optimum Closing Location and Sequence of Public Facilities from the Viewpoint of Depopulation
kazuki Yanagisawa and Tohru Yoshikawa

Proceedings of the 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, Vol. 1,
pp.647-650 (Oct.2006)

Estimation of Accessibility to Cultural Facilities in Aging Society -Case Study of Fine Art
Museums in Tokyo Metropolitan Area-

Yosuke YAMAGUCHI and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1,
pp.1087-1090 (Sep.2006) (in Japanese)

Research on Station Square as Activity Space of Visitor

Taku KENMOTSU and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1,
pp.833-834 (Sep.2006) (in Japanese)

A Computer Simulation on the Distances of Visitors to Regional Facilities on a Tours Part2

Tohru YOSHIKAWA and Kazuki YANAGISAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1,
pp.785-786 (Sep.2006) (in Japanese)

A Computer Simulation on the Distances of Visitors to Regional Facilities on a Tours Part1

Kazuki YANAGISAWA and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1,
pp.783-784 (Sep.2006) (in Japanese)

Response to Three-dimensional Shape of Routes of Converted Walking Distance Considering
Topographical Features and Age -Comparison of Two Definitions-

Eiji SATOH and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1,
pp.773-774 (Sep.2006) (in Japanese)

Quantitative Analysis on Spatial Composition of Attractive Slopes -Case Study on Noted Slopes
around Central Tokyo-

Mariko UEMURA and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1,
pp.165-166 (Sep.2006) (in Japanese)

Scenic Structure of Urban Pedestrian Space based on Looking-down Lines of sight -Case Study on a Pedestrian Deck-

Hidetaka UCHIHARA and Tohru YOSHIKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, F-1, pp.163-164 (Sep.2006) (in Japanese)

4. Research Reports

Town Image Constructed by the Media -Focusing on Spatial Distribution of Store Information

Hironori SUZUKI and Tohru YOSHIKAWA

Reports of the City Planning Institute of Japan, No.5-4, pp.121-126 (Mar.2007) (in Japanese)

Urban Simulation in Terms of House Stock and Household Composition -Tokyo Metropolitan Case

Satoru KONDO and Tohru YOSHIKAWA

Reports of the City Planning Institute of Japan, No.5-4, pp.127-131 (Mar.2007) (in Japanese)

Comparing Ease of Pedestrian Movement in an Avenue before and after Introducing a Transit Mall -A Case Study in Kokusai Street, Naha, Okinawa

Hiroyuki SHIMABUKURO and Tohru YOSHIKAWA

Reports of the City Planning Institute of Japan, No.5-2, pp63-68 (Oct.2006) (in Japanese)

【Kenji TAKEMIYA】

1. Refereed Papers

Comparative study on formulation and enforcement of universal design architectural guidelines among local governments

Miyata Naoaki, Takemiya Kenji

Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.612, pp.7-14, Feb., 2007

Investigation about Spatial Representation of Room Functions for Reorganization of Public Facilities.

HSIEH Ping-Chuan, Makoto TSUNODA, Kenji TAKEMIYA, Tohru YOSHIKAWA and Ryoko KURAKAZU

AIJ Journal of Technology and Design, No.23, pp.305-308, (Jun. 2006) (in Japanese)

2. Proceedings of Oral Presentations

Perinatal care system and Actual operation condition in Perinatal Care Facilities in Japan

Study on re-arrangement of the Perinatal Care Facilities (Part2)

Ishizawa Mikakako, Kobayashi Michi, Takemiya Kenji

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ

p.89-90, Sep.2006, (in Japanese)

Actual conditions and problems in Perinatal Care System in Japan

Study on re-arrangement of the Perinatal Care Facilities (Part3)

Kobayashi Michi, Takemiya Kenji

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ

p.91-92, Sep.2006, (in Japanese)

Basic researches of the multi-generation exchange and space composition in Diverse Elderly Care Facility

Minowa Yuka, Takemiya Kenji

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ

p.147-148, Sep.2006, (in Japanese)

Process of enforcement and item of preparation within universal design architectural guidelines
Comparative study on formulation and enforcement of universal design architectural guidelines among local government (1)

Joen Yong IL, Miyata Naoaki, Takemiya Kenji

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ

p.793-794, Sep.2006, (in Japanese)

Type of users and process of construction within universal design architectural guidelines
Comparative study on formulation and enforcement of universal design architectural guidelines among local government (2)

Miyata Naoaki, Takemiya Kenji

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting E-1, AIJ

p.795-796, Sep.2006, (in Japanese)

Study on sheltered care settings for neonates and their family in neonatal intensive care unit

Kenji Takemiya, Aki Miura

Proceeding of the 76th Architectural research meetings

2005, Kanto Chapter, AIJ, March. 2006, (in Japanese)

【Motoki TORIUMI】

No research paper in English

【Shin Aiba】

2. Monographs / Technical books

The Vision of Urban Architecture

Architectural Institute of Japan(Shin AIBA ed.)

Architectural Institute of Japan (2007.2) (in Japanese)

Age of Machizukuri of Urban Reconstruction

Shigeru SATOH, Yosuke MANO, Shin AIBA

Kenchiku Shiryo Kenkyusya (2006.10) (in Japanese)

Bring Up the Urban Image and social capital for Pre disaster Machizukuri

Shin AIBA

New Wave of Community Autonomy, pp425-440, Gyosei (2006.7) (in Japanese)

1. Refereed Papers

The Principal of Urban Design in Shrinking Age

Shin AIBA

Chiiki Kaihatsu no.501,pp37-46, Japan Center for Area Development Research (2006年6月)

2. Proceedings of Oral Presentations

The Community Training Method for Community Based Urban Reconstruction Planning Part3:
"Simple Style" Case in Hachioji city

Shin AIBA, Itsuki NAKABAYASHI, Taro ICHIKO et al

Proceeding of Institute of Social Safety Science, pp.56-59, Institute of Social Safety Science
(2006.5) (in Japanese)

Problems of Community Fund for Citizen's Non-profit Activities

Shin AIBA

Proceeding of Japan NPO Research Association, no. 8, Japan NPO Research Association (2006.6)
(in Japanese)

4. Research reports

Series: National Suggestion System for Deregulation and Decentralization and City Planning

Shin AIBA, Chie NOZAWA, Mari UCHIUMI et al

Shin Toshi no.60-9 - 12, no,61-1 -3, Toshi keikaku kyokai (2006.9-2007.3) (in Japanese)

【Masumi MATSUMOTO】

2. Proceedings of Oral Presentations

A CONSIDERATION ON THE SOCIAL SUPPORT FACILITY FOR THE
INDEPENDENT ELDERLY PEOPLE IN TAMA NEW TOWN

Soyi CHEONG, Asuka YAMADA, Masumi MATSUMOTO and Jun UENO

Proceeding of the 7th International Symposium on Environment -behavior Research, Dalian,
China : p p . 577-585, 2006.10

The Programs and Activities of Ikigai Day Service Centers –A Study on the Social Facility for the
Independent Elderly People (1)

Matsumoto Masumi, Cheong Soyi, Yamada Asuka and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.187- : 2006.09.

The Types and Characteristics of the Elderly at Ikigai Day Service Centers -A Study on the Social
Facility for the Independent Elderly People (2)

Cheong Soyi, Yamada Asuka, Matsumoto Masumi and Ueno Jun

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.189- : 2006.09.

Children's Outdoor Activities in Tama Newtown according to Questionnaire Survey
–Environmental Study on Children's Outdoor Activities in Tama Newtown (1)

Kondo Juri, Matsumoto Masumi, Kurakazu Ryoko and Ueno Jun
Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.551- : 2006.09.

Relationship between Composition of Open-Space in the Neighborhood and Children's Outdoor
Activities –Environment Study on Children's Outdoor Activities in Tama Newtown (2)

Kondo Juri, Ueno Jun, Matsumoto Masumi, Kurakazu Ryoko and Yamada Asuk
Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan E-1 :
pp.553- : 2006.06.

【Naoki KUROKAWA】

Adaptive Reuse of Modern Architecture in Santiago, Chile, and Current Trend of Conversion (in
Japanese)

Naoki KUROKAWA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., F-2, pp. 173-174 (Sept. 2006)

Architectural Design and History

【Katsuhiko KOBAYASHI, Akira KINOSHITA】

A Study on Louis Sullivan's Architectural Thought Focusing on the Idea of "Mobile Equilibrium"

Takeshi SHIIBASHI, Katsuhiko, KOBAYASHI

Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transaction of Architectural
Institute of Japan), No.612, pp.169-175 (Feb. 2005) (in Japanese)

A Case Study on Renovated Offices for Self-Employers in Japan

Tetsuya MITAMURA, Katsuhiko, KOBAYASHI, Akira KINOSHITA

The 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, A+T, Neo Value in Asian
Architecture, Korea: Architectural Institute of Korea, Oct.2006, pp.169-172

The Design of Architectural Conversions: A Study on the Works Rehabilitated from Modern
architecture in Paris

Tetsuya MITAMURA, Katsuhiko KOBAYASHI, Akira KINOSHITA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 729-730 (Sept. 2005) (in
Japanese)

Influence of the Oriental Culture on the Creation of "Picturesque Ideas"- Sir John Vanbrough's
Architectural Design and Mausoleum in Suret

Akira KINOSHITA, Katsuhiko KOBAYASHI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 735-736 (Sept. 2005) (in
Japanese)

A Study on Louis Sullivan's Idea of "Mobile Equilibrium"

Takeshi SHIIBASHI, Katsuhiko, KOBAYASHI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 737-738 (Sept. 2005) (in Japanese)

Development of a New Elevator Addition System for Aged Residential Building

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko, KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI

Adaptable 2006, TU/e, International Conference on Adaptable Building Structures, Proceedings of the Joint CIB Tensinet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction, Volume 1, PP.149-154, July 2006

Changing Architectural Design Education 15 New Challenges without Forgetting the Basic Principles

Katsuhiko, KOBAYASHI

Journal of Architecture and Building Science Vol.122, No.1560, p.44, March 2007 (in Japanese)

【Yukimasa YAMADA】

1. Refereed Papers

A Typological Study on the Timber Frame Structures of Traditional Farmhouses in Vietnam—Based on the Results of a Nationwide Survey between 1997 and 2002

Yukimasa YAMADA, TRAN Thi Que Ha

Proceeding of the 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA 2006), vol.I, pp.487-492, Oct. 2006

Static Loading Test of Traditional Timber Frame Structure in North VietNam

Kaori FUJITA, Ayumi YAMAGUCHI, TRAN Thi Que Ha, Yukimasa YAMADA

Proceeding of the 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA 2006), vol.II, pp.1085-1089, Oct. 2006

Study on the Dynamic Characteristics of Traditional Timber Farmhouses in Mountainous Districts of Japan—Microtremor Measurements in the Hida Region—

Hitomi SATO, Kaori FUJITA, Yukimasa YAMADA, Masahisa YAMADA

Proceeding of the 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA 2006), vol.II, pp.1096-1099, Oct. 2006

2. Proceedings of Oral Presentations

Architectural Features of Dinh-s —Studies on the Common Institutions of Traditional Villages in the Delta of the Northern Vietnam (1)

Kazuto NOGI, Yukimasa YAMADA, TRAN Thi Que Ha

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., F-2, pp.287-288 (Sep.2006) (in Japanese)

The Ritual of Traditional Festivals Observed in Dinh-s as a Nucleus of the Rural Community—Studies on the Common Institutions of Traditional Villages in the Delta of the Northern Vietnam (2)

Yukimasa YAMADA, TRAN Thi Que Ha, Kazuto NOGI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., F-2, pp.289-290 (Sep.2006) (in Japanese)

A Study of the Traffic Situation in Trung Tu District —Studies on the Rehabilitating Method of Collective Housing Estates in Hanoi, Vietnam (4)

So FUJIE, Yukimasa YAMADA, Histomi SASAKI, TRAN Thi Que Ha, Osamu NISHIDA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., E-2, pp.181-182 (Sep.2006) (in Japanese)

Actual Condition Utilizing the Outdoor Spaces Viewed from Commercial Activities in Trung Tu District —Studies on the Rehabilitating Method of Collective Housing Estates in Hanoi, Vietnam (5)

Histomi SASAKI, Yukimasa YAMADA, So FUJIE, TRAN Thi Que Ha, Osamu NISHIDA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., E-2, pp.183-184 (Sep.2006) (in Japanese)

A Study on the Early Development Process of Urban Form and Function in the Eastern Sector of Old Saida (1875-1935)

Abdul Latif ZOYA, Yukimasa YAMADA

Proceeding of the Architectural Research Meeting 2006, Kanto Chapter, A.I.J., vol.2, pp.365-368 (Mar.2007)

【Masao KOIZUMI】

1. Refereed Papers

2. Proceedings of Oral Presentations

A study on the reinforcement of opening in existing wood house with consideration of permeability

Soutaro TAKAHASHI, Kaori FUJITA, Masao KOIZUMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting Architectural Institute of Japan 2005, structures 3, pp. 351-352, Oct.2006 (in Japanese)

Environmental Design Approach in “Open Ended House”

Masao KOIZUMI, Tamaki FUKAZAWA

36th Symposium, “Future of Bioclimatic Design Learning from warm and humid Climate District -Architectural Technology, Design and Life style in sustainable Society-“, AIJ, pp.101-104, Nov. 2006(in Japanese)

3. Monographs / Technical books

4. Research Reports

A Boundary of Japanese House

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier

SUMAIRON, Vol.80, HOUSING RESEARCH FOUNDATION, pp.6-27(Oct. 2006) (in Japanese)

5. Manuals / Review

Masao KOIZUMI×Tile

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier

Kenchikuchisiki, Vol. 605, X-Knowledge, pp. 210-213 (Apr. 2006) (in Japanese)

Orleans.Habiter au japon

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier

magazine AIR FRANCE, AIR FRANCE, pp.184-pp.184(Oct. 2006) (in Japanese)

To know new things, learn by studying the old ~imagination and creation~

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

YOKOHAMA BUNKA JOHO, Vol.101, YOKOHAMA ARTS FOUNDATION, pp.2-3(Mar. 2007) (in Japanese)

6. Works / Products, etc.

ARCHILAB JAPAN 2006

Masao KOIZUMI

HYX Publisher, pp. 136-143 (2006)

Kounosu City Cultural Center(CLEA Kounosu)

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier C + A

Architecture Now, Vol.1, The Japan Institute of Architects, pp. 278-279 (May.2006) (in Japanese)

Project Ashihara elementary school

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier C + A

Kenchiku sekkei shiryō, Vol.105, Kenchiku shiryō kenkyū-sha, pp. 90-97(Jun.2006) (in Japanese)

interactive

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier

DETAIL, Vol. 169, Shokoku-sha press, pp. 59-59 (Jul.2006) (in Japanese)

Switch! the design project

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier

DENKAJOZU, Vol.34, Tokyo Electric Power Company, pp. 2-2 (Aug.2006) (in Japanese)

Project Ashihara elementary school

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier C + A

YUKA monthly, Vol.49-No.10, Interior Times, pp.61-67(Oct. 2006)(in Japanese)

Project Ashihara elementary school

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier C + A

RIEF, Vol.24, Research Institute of Educational Facilities, pp.129-131(Oct. 2006) (in Japanese)

Possible all electrification "DENKANOIE"

Masao KOIZUMI /KOIZUMI atelier

Amenity & Electrification, Vol.209, Japan Industrial Publishing, pp.85-90(Nov. 2006) (in Japanese)

Possible all electrification house change the future of house

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

TITLE, Vol.7-No.11, Bungeishunju, pp.108-109(Nov. 2006) (in Japanese)

Complex building for citizens

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

Yuruyakani tsunagaru shakai, The Nikkan Kensetsu Tsushin Shimbun-sha, pp.168-173(Nov. 2006) (in Japanese)

Light surround 「Zo no Hana」

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

Yomiuri shinbun, Yomiuri shinbun-sha, pp.5-5(Nov. 2006) (in Japanese)

Masao KOIZUMI

Masao KOIZUMI

File of 55 architects, Hachette Fujingaho, pp.76-77(Dec. 2006) (in Japanese)

2007 「House & Life style」 catalog

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

LiVES, Vol.31, Daiichi Progress, pp.46-47(Feb. 2007) (in Japanese)

Zo no Hana (Yokohama)

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

Nikkei Architecture, Vol.843, Nikkei Business Publications, pp.58-59(Mar. 2007) (in Japanese)

The house of architect

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier+ mejiro studio

MODERN LIVING, Vol.171, Hachette Fujingaho, pp.90-91(Mar. 2007) (in Japanese)

The partition of space

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

DETAIL, Vol. 172, Shokoku-sha press, pp. 60-61 (Apr. 2007) (in Japanese)

IGATA

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

JT, Vol. 252, Shin-Kenchiku-sha, pp. 102-106 (Apr. 2007) (in Japanese)

The unique kitchen after this

Masao KOIZUMI/ KOIZUMI atelier

Meuble, Vol. 8, MdN Corporation, pp. 102-103 (Apr. 2007) (in Japanese)

【Akira KINOSHITA】

Influence of the Oriental Culture on the Creation of “Picturesque Ideas”- Sir John Vanbrough’
Architectural Design and Mausoleum in Suret

Akira KINOSHITA、Katsuhiko KOBAYASHI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 735-736 (Sept. 2005) (in Japanese)

A Case Study on Renovated Offices for Self-Employers in Japan

Tetsuya MITAMURA, Katsuhiko KOBAYASHI, Akira KINOSHITA

The 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, A+T, Neo Value in Asian
Architecture, Korea: Architectural Institute of Korea, Oct.2006, pp.169-172

The Design of Architectural Conversions: A Study on the Works Rehabilitated from Modern
architecture in Paris

Tetsuya MITAMURA, Katsuhiko KOBAYASHI, Akira KINOSHITA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-2, pp. 729-730 (Sept. 2005) (in Japanese)

Construction Management and Building Materials

【Seiichi FUKAO · Kozo KADOWAKI】

1. Refereed Papers

A Study on the Concept of Re'sidentialisation in the Field of Rehabilitation of Social Housing Estates in France

Junko ABE, Seiichi FUKAO

Journal of Architecture and Planning, AIJ, No. 611, pp.175-181, Jan. 2007

2. Proceedings of Oral Presentations

Function of Grids in Adaptable Buildings

Seiichi FUKAO

Proceedings of the Joint CIB, TensiNet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction "adaptables'06", Vol. 1, pp. 123-127, Jul. 2006

Development of a New Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the Joint CIB, TensiNet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction "adaptables'06", Vol. 1, pp. 149-154, Jul. 2006

An Analysis of Present Methods of Elevator Addition to the Public Residential Building and Proposal of an Alternative: Development of a New Elevator Addition System to the Aged Residential Buildings, Part I

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA and Hiroyuki SUZUKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 653-654, Sep. 2006 (in Japanese)

Characteristics of Regeneration Design: A Research on the Public Housing Regeneration with Access Ways Change, Part I

Ryosuke Ono, Kozo KADOWAKI, Seiichi FUKAO and Tomoya Onogi

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 647-648, Sep. 2006 (in Japanese)

Problems in Design and Construction Process: A Research on the Public Housing Regeneration with Access Ways Change, Part II

Kozo KADOWAKI, Ryosuke Ono, Seiichi FUKAO and Tomoya Onogi

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 649-650, Sep. 2006 (in Japanese)

A Study on the Elevator Addition Works to the Public Residential Buildings: Construction Systems of the Elevator Tower Addition Systems to the Existing Staircases

Hiroyuki SUZUKI, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 651-652, Sep. 2006 (in Japanese)

An Analysis of Experimental Construction of a New Elevator Addition System and Verification of the Effect: Development of a New Elevator Addition System to the Aged Residential Buildings,

Part II

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI and Ken'ichi TAHARA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 655-656, Sep. 2006 (in Japanese)

A Study on the Generating Factors of Unexpected Accompanying Works in Building Refurbishment: An Analysis Focusing to the Combination of Execution Works in the Refurbishment of Public Facilities

Kenichi NISHIKAWA, Satoru TAKAHASHI, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, E-1, pp. 657-658, Sep. 2006 (in Japanese)

A Study on Development Trends of Sash for House: Coordinated Relations between the Prefabrication House Manufacturer and the Sash Manufacturer

Erika SUZUKI, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp. 731-732, Sep. 2006 (in Japanese)

Study on the Distribution Situation of the External Walls and Dwellers' Awareness of the Refurbishment Act: The Actual Conditions of Detached House's External Wall, Part I

Sachiko KUSANO, Shigeki SAITO, Seiichi FUKAO and Kozo KADOWAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-2, pp. 243-244, Sep. 2006 (in Japanese)

Study on the Refurbishment Records of Detached House's External Wall: The Actual Conditions of Detached House's External Wall, Part II

Shigeki SAITO, Seiichi FUKAO, Kozo KADOWAKI and Sachiko KUSANO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-2, pp. 245-246, Sep. 2006 (in Japanese)

5. Manuals / Review

Regeneration of "Danchi", the life of Danchi

Seiichi FUKAO

Japan Housing Association, The "JUTAKU" a monthly of the housing, No. 644, pp. 9-12, May 2006 (in Japanese)

The Desire for the Industry of Building Components for Houses

Seiichi FUKAO

Association of Living Amenity, ALIA NEWS, Vol. 96, pp. 2-4, Nov. 2006 (in Japanese)

To continue to use the huge building stock, 21st century COE program

Seiichi FUKAO

Tosei Shimpo, 12 Sep. 2006 (in Japanese)

Regeneration of Public Residential Buildings

Kozo KADOWAKI

Kenchiku to Machizukuri, No.344, pp.34-35, Apr. 2006 (in Japanese)

Revive Deteriorating Housing: Development of an Elevator Addition Method for Aged Residential Building

Kozo KADOWKI

Tosei Shimpo, 15 Sep. 2006 (in Japanese)

Thinking about Building Stock Activation thorough an Experience in Regenerating an Old Residential Building

Kozo KADOWKI

Kenchiku Gijutsu, No.686, p.184, Feb.2007 (in Japanese)

6. Works / Products, etc.

Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA, Ken'ichi TAHARA, Hiroyuki SUZUKI, Aya UMEDA, Ryosuke Ono, Hiroki YAGINUMA and Kazuki HANEDA

Daily Kensetsu News, 14 Dec. 2006 (in Japanese)

Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA, Ken'ichi TAHARA, Hiroyuki SUZUKI, Aya UMEDA, Ryosuke Ono, Hiroki YAGINUMA and Kazuki HANEDA

Nikkei Architecture, No. 839, pp. 96-97, Jun. 2007 (in Japanese)

Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA, Ken'ichi TAHARA, Hiroyuki SUZUKI, Aya UMEDA, Ryosuke Ono, Hiroki YAGINUMA and Kazuki HANEDA

Tokyo Newspaper, 26 Jun. 2007 (in Japanese)

【Yoshinori KITSUTAKA】

Properties of Porous Mortar Containing High Water Absorbent Resin for the Use of Environmental Concrete Interlocking Blocks,

Kitsutaka Yoshinori and Kikuta Mayo

Proceedings of 8th International Conference on Concrete Block Paving, pp.243-251, November 6-8, 2006.

Application of Hollow Prestressed Concrete Panel for Planting Wall Panel,

Yoshinori Kitsutaka and Yumiko Teratou,

2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, RPP-18-26, 2006.11

A Method of Numerical Analysis for Vibrant Behavior of High-Strength Fiber Reinforced Concrete During SSI,

Shintaro Fukuoka, Yoshinori Kitstutaka and Carlos Cuadra :
Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM,
HSP-59-68, 2006.11

Visual Effects of Building Stone Finishing, Proceedings of International Symposium on
Sustainable Habitat Systems,
Jun Tsuchiya, Yoshinori Kitsutaka and Masaki Tamura,
Kyushu University, pp.67-76, 2006.12

【Makoto TSUNODA】

1. Refereed Papers

A Study on Transformation of Spatial Reorganization for Regeneration of Public Facilities - A
Case Study in Tama-City -
HSIEH Ping-Chuan, Makoto TSUNODA
The 6th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia Vol.2, pp.1397-1402, Oct.
2006

A Study on Design Process for Partial Conversion of Public School Buildings
Makoto TSUNODA, Takuma OKAMURA
AIJ Journal of Technology and Design, No.23, pp.321-324, (Jun. 2006) (in Japanese)

Investigation about Spatial Representation of Room Functions for Reorganization of Public
Facilities.
HSIEH Ping-Chuan, Makoto TSUNODA, Kenji TAKEMIYA, Tohru YOSHIKAWA and Ryoko
KURAKAZU
AIJ Journal of Technology and Design, No.23, pp.305-308, (Jun. 2006) (in Japanese)

2. Proceedings of Oral Presentations

A Study on Production - Supply System in Wooden Houses to Use Regional Lumber
Aki TANAKA, Makoto TSUNODA
Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.701-702, (Sep. 2006) (in
Japanese)

Study on Demolition in EU
Part1.Demolition work for Recycling of Building Materials EU
Yuu SAKAMOTO, Tsuyoshi SEIKE, Kanako SUZUKI and Makoto TSUNODA
Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.671-672, (Sep. 2006) (in
Japanese)

Study on Demolition in EU
Part 2. Demolition System for Recycling and Disposing of Building Materials EU
Kanako SUZUKI, Tsuyoshi SEIKE, Yuu SAKAMOTO and Makoto TSUNODA
Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.673-674, (Sep. 2006) (in
Japanese)

Investigation on Specifications of Open Spaces for Spatial Representation

-A Study on Effective Stock Management of Public Facilities in Tama-city- Part 1

Ping chuan HSIEH, Makoto TSUNODA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.659-660, (Sep. 2006) (in Japanese)

The Simulation on the Existing Open Space Diversion based on Utilization Rate of Residents

-A Study on Effective Stock Management of Public Facilities in Tama-city- Part 2

Makoto TSUNODA, Ping chuan HSIEH

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.661-662, (Sep. 2006) (in Japanese)

A Study on the Utilization of Existing City Hall caused by the Municipal Mergers

Narumi OKAMOTO, Makoto TSUNODA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.5-8, (Sep. 2006) (in Japanese)

3. Monographs / Technical books

Earth-friendly Dwellings and Lifestyle

Makoto TSUNODA

Association for Research and Development of House Technology Creating Life Value, 55p, (Oct. 2006) (in Japanese)

5. Manuals / Review

Resource Circulation for Building Technology

Makoto TSUNODA, Tsuyoshi SEIKE

General Transactions, AIJ, No.5, pp.60-61, (Feb. 2007) (in Japanese)

Recycling of Materials and Components in Pre-fabricated Detached House

Makoto TSUNODA

Journal of Architecture and Building Science, AIJ, vol.122, No.1560, p39, (Mar. 2007) (in Japanese)

【Masaki TAMURA】

Masaki Tamura at el., Surface Characteristics of Concrete with environment-conscious Synthetic Resin Type Formwork Part 1,

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006.11

Masato Tsujino, Masaki Tamura at el., Study on the Low Quality Recycled Coarse Aggregate to Concrete Structure by Surface Modification Treatment,

Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006.11

Shimoyashiki Tomoaki, Masaki Tamura at el., Surface Characteristics of Concrete with environment-conscious Synthetic Resin Type Formwork Part 2,
Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006.11

Teruo Kondo, Masaki Tamura at el., Surface Characteristics of Concrete with environment-conscious Synthetic Resin Type Formwork Part 3,
Proceedings of 2nd ACF Recent Development of Concrete Technology and Structure, CD-ROM, 2006.11

Structural Engineering

【Manabu YOSHIMURA・Takaya NAKAMURA】

1. Refereed Papers

Reassessment of Ductility Index for "Shear Column" in Standard for Seismic Evaluation of Existing R/C Buildings

Yumiko UENO(Kozo Keikaku Engineering Inc.) and Manabu YOSHIMURA

Journal of Structural and Construction Engineering, AIJ, No. 609, pp. 155-163 (Nov. 2006) (in Japanese)

Evaluation of Seismic Performance of Old Medium-Rise R/C Residential Building -Study based on Test Results-

Yoshikazu TAKAINE and Manabu YOSHIMURA

Journal of Structural and Construction Engineering, AIJ, No. 610, pp. 145-152 (Dec. 2006) (in Japanese)

2. Proceedings of Oral Presentations

Evaluation of Damage for Reinforced Concrete Columns with Shear Mode

Yoshikazu TAKAINE and Manabu YOSHIMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 387-388 (Sep. 2006) (in Japanese)

Shear Strength of RC Columns with Side Wall and Transverse Wall

Hongri JIN and Manabu YOSHIMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 415-416 (Sep. 2006) (in Japanese)

Reassessment of Ductility Index for "Shear Column" in Standard for Seismic Evaluation of Existing R/C Buildings (Part 1 Method of Reassessment)

Manabu YOSHIMURA and Yumiko UENO(Kozo Keikaku Engineering Inc.)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 433-434 (Sep. 2006) (in Japanese)

Reassessment of Ductility Index for "Shear Column" in Standard for Seismic Evaluation of Existing R/C Buildings

Yumiko UENO(Kozo Keikaku Engineering Inc.) and Manabu YOSHIMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 435-436 (Sep. 2006) (in Japanese)

Evaluation of Seismic Performance of Old Mid-Rise Apartment House Building by Nonlinear Frame Analysis Considering Column Strength Deterioration

Kazuaki HOKI and Manabu YOSHIMURA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp. 437-438 (Sep. 2006) (in Japanese)

【Shinji YAMAZAKI】

1. Refereed Papers

Ultimate Performance of Steel Rod Hysteresis Damper Subjected to Cyclic Flexural Loading

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Hiroki YSGINUMA

Journal of Constructional Steel, Japanese Society of Steel Construction, Vol.14, pp.335-342 (2006.11) (in Japanese)

A Study on Seismic Performance of Steel High-Rise Building Frames Subjected to Long Period earthquake Ground Motions

Susumu MINAMI, Shinji YAMAZAKI and Kogo MATSUNO

Journal of Constructional Steel, Japanese Society of Steel Construction, Vol.14, pp.379-386 (2006.11) (in Japanese)

Energy Response of Steel Moment Frames Subjected to Strong Seismic Motions

Kogo MATSUNO, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Journal of Constructional Steel, Japanese Society of Steel Construction, Vol.14, pp.387-392 (2006.11) (in Japanese)

Experimental Study on Torsional Response of Coupled Vibration Control Structures with Steel Dampers

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the Fifth International Conference on Behaviour of Steel Structures in Seismic Areas (STESSA 2006), pp.785-791 (2006.8)

Ultimate Performance of Hysteresis Steel Rod Damper

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Hiroki YAGINUMA

Proceedings of Eighth Pacific Structural Steel Conference (PSSC 2007), Vol.1, pp.51-56 (2007.3)

Analysis of Progressive Collapse in Multi-storey Frames based on Post-buckling Behaviour of Steel Columns

Susumu MINAMI and Shinji YAMAZAKI

Proceedings of Eighth Pacific Structural Steel Conference (PSSC 2007), Vol.2, pp.321-326 (2007.3)

2. Proceedings of Oral Presentations

Study on Coupled Vibration Control Structures - Part 6, Characteristics in vicinity of optimum conditions

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, B-2, pp.751-752 (2006.9) (in Japanese)

Ultimate Performance of Hysteresis Steel Rod Damper

Hiroki YAGINUMA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Kenichi TAHARA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, B-2, pp.789-790 (2006.9) (in Japanese)

Study on Progressive Collapse in Multi-Story Steel Frames

Kazuki HANEDA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.661-662 (2006.9) (in Japanese)

Seismic Performance of Weak-Beam Type Frames Subjected to Long-Period Ground Motion

Kogo MATSUNO, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.677-678 (2006.9) (in Japanese)

Analysis of Post Buckling Behavior of Centrally Loaded Steel Columns

Shinji YAMAZAKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.821-822 (2006.9) (in Japanese)

Inelastic Lateral Torsional Buckling Behavior of H-Shaped Steel Beam-Columns

Keisuke TOYAMA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.831-832 (2006.9) (in Japanese)

Experimental Study on Inelastic Behavior of H-Shaped Steel Beam-Columns Subjected to Lateral Force in Arbitrary Direction - Part 3. Comparison between Experiment and Analysis in Case of Monotonic Loading and Discussions

Susumu MINAMI, Shinji YAMAZAKI, Keisuke TOYAMA and Ryota TAKAHAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.833-834 (2006.9) (in Japanese)

Experimental Study on Inelastic Behavior of H-Shaped Steel Beam-Columns Subjected to Lateral Force in Arbitrary Direction - Part 4. Comparison between Experiment and Analysis in Case of Cyclic Loading and Discussions

Ryota TAKAHAMA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Keisuke TOYAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.835-836 (2006.9) (in Japanese)

An Analysis of Present Methods of Elevator Addition to The Public Residential Building and Proposal of An Alternative -Development of A New Elevator Addition System to The Aged Residential Buildings, Part 1-

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA and Hiroyuki SUZUKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.653-654 (2006.9) (in Japanese)

An Analysis of Experimental Construction of A New Elevator Addition System and Verification of The Effect -Development of A New Elevator Addition System to The Aged Residential Buildings, Part 2-

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI and Kenichi TAHARA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.655-656 (2006.9) (in Japanese)

Improvement of Seismic Performance of Existing Structures using Response Control Method -- Ultimate Performance of Hysteresis Rod Damper for Response Control Structures --

Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI, Kenichi TAHARA and Hiroki YAGINUMA

Proceedings of the 2005 meeting of the 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University "Development of Technologies for Activation and Renewal of Building Stocks in Megalopolis", pp.30-31 (2006.5) (in Japanese)

Development of a New Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the joint CIB, Tensinet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction (Adaptables2006), volume1, pp.149-154 (2006.7)

Nonlinear Frame Analysis of Damaged R/C Structure Considering Deterioration of Column Strength

Yoshimura Manabu, Dohi Urara, Hoki Kazuaki and Kitayama Kazuhiro

Journal of Structural and Construction Engineering, No.597, pp.109-117(2005, Nov.)

6. Works / Products, etc.

Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA, Kenichi TAHARA, Hiroyuki SUZUKI, Aya UMEDA, Ryosuke ONO, Hiroki YAMAGUCHI and Kazuki HANEDA

Daily kensetsu News, 14 Dec. 2006 (in Japanese)

Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA, Kenichi TAHARA, Hiroyuki SUZUKI, Aya UMEDA, Ryosuke ONO, Hiroki YAMAGUCHI and Kazuki HANEDA

Nikkei Architecture, No. 839, pp. 96-97, Jun. 2007 (in Japanese)

Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA, Kenichi TAHARA, Hiroyuki SUZUKI, Aya UMEDA, Ryosuke ONO, Hiroki YAMAGUCHI and Kazuki HANEDA

Tokyo Newspaper, 26 Jun. 2007 (in Japanese)

【Kaori Fujita】

【Kazuhiro KITAYAMA】

1. Refereed Papers

Earthquake Resistant Performance of Precast Prestressed Concrete Beam-Column Joints Assembled by Post-Tensioning Steel under Bi-Lateral Load Reversals

Kitayama, K., Masuda, T., Tajima, Y. and Kishida, S.

Proceedings of Fib 2006 Naples Congress, CD-ROM, ID 8-13, pp.1-12(2006, June,)

Shear Crack Behavior of PCaPC Beam-Column Joints to Damage Process

KITAYAMA Kazuhiro, Kishida Shinji(Shibaura Institute of Tech.) and Nagai Satoru(Kajima)
Proceedings of the Japan Concrete Institute, Vol.28, No.2,pp.301-306(July, 2006)(in Japanese)

Earthquake Resistant Performance of Prestressed Reinforced Concrete Beam-Column Joints

Kitayama Kazuhiro, Tajima Yuji, Kishida Shinji(Shibaura Institute of Tech.) and Kito Akiyoshi
Proceedings of the Japan Concrete Institute, Vol.28, No.2,pp.343-348(July, 2006)(in Japanese)

2. Proceedings of Oral Presentations

Tri-directional Earthquake Response Analyses for Steel-Braced Reinforced Concrete Building
-Study on foundation uplift failure or column tension failure of steel-braced frame -

Nagasaki Tomoya, Kitayama Kazuhiro and Li Kang-Ning(Canny Consultant)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, C-2,
Structures IV, pp.649-650(Sept., 2006)(in Japanese)

Restoring Force Characteristics of Prestressed Reinforced Concrete Interior Beam-Column
Subassemblages Focusing on Bond Performance along Beam Bars (Part 1 and Part 2)

Kitayama Kazuhiro, Tajima Yuji, Kishida Shinji(Shibaura Institute of Tech.) and Miyazaki
Hironosuke

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, C-2,
Structures IV, pp.1-4(Sept., 2006)(in Japanese)

3. Monographs / Technical books

Reinforced Concrete Structures for Architectural Engineers

Hayashi Shizuo (Tokyo Institute of Tech.), Kitayama Kazuhiro, Kinugasa Hideyuki (Tokyo Univ.
of Science) and Sakata Hiroyasu (Tokyo Institute of Tech.)

Ichigaya Shuppansha(January, 2007)(in Japanese)

【Kazushige YAMAMURA】

Estimation of Effects of Seismic Reinforcing of a Wooden Building by Microtermor

YAMAMURA Kazushige

CD-ROM of the 12th Japan Earthquake Engineering Symposium, Paper No.0171, pp.790-793
(Nov. 2006) in Japanese

A Study on System Identification of Low- and Medium-Rise Buildings of Soft Ground

FUJII Hirofumi, NISHIKAWA Takao and YAMAMURA Kazushige

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, B-2,
pp.425-426 (Sep. 2006) (in Japanese)

Ambient Vibration Test for Kenchiku Kaikan, Part 1 Outline of the Test and Characteristics of
Ground Vibration

KATAOKA Shunichi(Hirosaki Univ.), YAMAMURA Kazushige, YOSHIMURA Chiaki(Taisei
Corp.), SAKAI Shigeki(Hazama Corp.) and WATAKABE Morimasa(Toda Corp.)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, B-2,

pp.487-488 (Sep. 2006) (in Japanese)

Ambient Vibration Test for Kenchiku Kaikan, Part 2 Vibration Characteristics of the Upper Structure

YAMAMURA Kazushige, KATAOKA Shunichi(Hirosaki Univ.), YOSHIMURA Chiaki(Taisei Corp.), SAKAI Shigeki(Hazama Corp.) and WATAKABE Morimasa(Toda Corp.)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, B-2, pp.489-490 (Sep. 2006) (in Japanese)

【Susumu MINAMI】

1. Refereed Papers

Ultimate Performance of Steel Rod Hysteresis Damper Subjected to Cyclic Flexural Loading

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Hiroki YSGINUMA

Journal of Constructional Steel, Japanese Society of Steel Construction, Vol.14, pp.335-342 (2006.11) (in Japanese)

A Study on Seismic Performance of Steel High-Rise Building Frames Subjected to Long Period earthquake Ground Motions

Susumu MINAMI, Shinji YAMAZAKI and Kogo MATSUNO

Journal of Constructional Steel, Japanese Society of Steel Construction, Vol.14, pp.379-386 (2006.11) (in Japanese)

Energy Response of Steel Moment Frames Subjected to Strong Seismic Motions

Kogo MATSUNO, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Journal of Constructional Steel, Japanese Society of Steel Construction, Vol.14, pp.387-392 (2006.11) (in Japanese)

Experimental Study on Torsional Response of Coupled Vibration Control Structures with Steel Dampers

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the Fifth International Conference on Behaviour of Steel Structures in Seismic Areas (STESSA 2006), pp.785-791 (2006.8)

Ultimate Performance of Hysteresis Steel Rod Damper

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Hiroki YAGINUMA

Proceedings of Eighth Pacific Structural Steel Conference (PSSC 2007), Vol.1, pp.51-56 (2007.3)

Analysis of Progressive Collapse in Multi-storey Frames based on Post-buckling Behaviour of Steel Columns

Susumu MINAMI and Shinji YAMAZAKI

Proceedings of Eighth Pacific Structural Steel Conference (PSSC 2007), Vol.2, pp.321-326 (2007.3)

2. Proceedings of Oral Presentations

Study on Coupled Vibration Control Structures - Part 6, Characteristics in vicinity of optimum

conditions

Kenichi TAHARA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, B-2, pp.751-752 (2006.9) (in Japanese)

Ultimate Performance of Hysteresis Steel Rod Damper

Hiroki YAGINUMA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Kenichi TAHARA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, B-2, pp.789-790 (2006.9) (in Japanese)

Study on Evaluation Method for Fracture of Welded Joint of Beam End in Beam-to-Column Connection -Part 2 Material Test and Local Approach Evaluation

Susumu MINAMI, Tadao NAKAGOMI, Tomohisa YAMADA and Masanori ISHIDA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.661-662 (2006.9) (in Japanese)

Study on Progressive Collapse in Multi-Story Steel Frames

Kazuki HANEDA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.589-590 (2006.9) (in Japanese)

Seismic Performance of Weak-Beam Type Frames Subjected to Long-Period Ground Motion

Kogo MATSUNO, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.677-678 (2006.9) (in Japanese)

Inelastic Lateral Torsional Buckling Behavior of H-Shaped Steel Beam-Columns

Keisuke TOYAMA, Shinji YAMAZAKI and Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.831-832 (2006.9) (in Japanese)

Experimental Study on Inelastic Behavior of H-Shaped Steel Beam-Columns Subjected to Lateral Force in Arbitrary Direction - Part 3. Comparison between Experiment and Analysis in Case of Monotonic Loading and Discussions

Susumu MINAMI, Shinji YAMAZAKI, Keisuke TOYAMA and Ryota TAKAHAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.833-834 (2006.9) (in Japanese)

Experimental Study on Inelastic Behavior of H-Shaped Steel Beam-Columns Subjected to Lateral Force in Arbitrary Direction - Part 4. Comparison between Experiment and Analysis in Case of Cyclic Loading and Discussions

Ryota TAKAHAMA, Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI and Keisuke TOYAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-1, pp.835-836 (2006.9) (in Japanese)

Substructure Pseudo-dynamic Test of RC Columns with Shear Mode -Part 1: Outline of Tests

Takaya NAKAMURA, Manabu YASHIMURA, Satoshi DENNO and Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp.359-360 (2006.9) (in Japanese)

Substructure Pseudo-dynamic Test of RC Columns with Shear Mode -Part 2: Test Results

Satoshi DENNO, Takaya NAKAMURA, Manabu YASHIMURA and Susumu MINAMI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, C-2, pp.361-362 (2006.9) (in Japanese)

An Analysis of Present Methods of Elevator Addition to The Public Residential Building and Proposal of An Alternative -Development of A New Elevator Addition System to The Aged Residential Buildings, Part 1-

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA and Hiroyuki SUZUKI

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.653-654 (2006.9) (in Japanese)

An Analysis of Experimental Construction of A New Elevator Addition System and Verification of The Effect -Development of A New Elevator Addition System to The Aged Residential Buildings, Part 2-

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI and Kenichi TAHARA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, E-1, pp.655-656 (2006.9) (in Japanese)

Documentation and Outreach of Seismic Hazard Risk of Downtown Tokyo Building Stock

Susumu MINAMI, Shin AIBA, Kazushige YAMAMURA, Kaori FUJITA and Kunio TAKAMIZAWA

Proceedings of the 2005 meeting of the 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University "Development of Technologies for Activation and Renewal of Building Stocks in Megalopolis", pp.24-25 (2006.5) (in Japanese)

Improvement of Seismic Performance of Existing Structures using Response Control Method -- Ultimate Performance of Hysteresis Rod Damper for Response Control Structures --

Shinji YAMAZAKI, Susumu MINAMI, Kenichi TAHARA and Hiroki YAGINUMA

Proceedings of the 2005 meeting of the 21st Century COE Program of Tokyo Metropolitan University "Development of Technologies for Activation and Renewal of Building Stocks in Megalopolis", pp.30-31 (2006.5) (in Japanese)

Development of a New Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Hitoshi OGAWA, Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Katsuhiko KOBAYASHI, Kozo KADOWAKI and Susumu MINAMI

Proceedings of the joint CIB, Tensinet, IASS International Conference on Adaptability in Design and Construction (Adaptables2006), volume1, pp.149-154 (2006.7)

6. Works / Products, etc.

Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA, Kenichi TAHARA, Hiroyuki SUZUKI, Aya UMEDA, Ryosuke ONO, Hiroki YAMAGUCHI and Kazuki HANEDA

Daily kensetsu News, 14 Dec. 2006 (in Japanese)

Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Kozo KADOWAKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA,

Kenichi TAHARA, Hiroyuki SUZUKI, Aya UMEDA, Ryosuke ONO, Hiroki YAMAGUCHI and Kazuki HANEDA

Nikkei Architecture, No. 839, pp. 96-97, Jun. 2007 (in Japanese)

Elevator Addition System for Aged Residential Buildings

Seiichi FUKAO, Shinji YAMAZAKI, Kozo KADOWKI, Susumu MINAMI, Hitoshi OGAWA, Kenichi TAHARA, Hiroyuki SUZUKI, Aya UMEDA, Ryosuke ONO, Hiroki YAMAGUCHI and Kazuki HANEDA

Tokyo Newspaper, 26 Jun. 2007 (in Japanese)

Environmental Engineering

【Hisaya ISHINO ・ Satoshi NAKAYAMA】

1. Refereed Papers

A study on performance evaluation and control method design about a hybrid air-conditioning system with a combination of natural ventilation and ceiling fans

Kitarou MIZUIDE, Hisaya ISHINO, Kimiko KOHRI, Akihiro NAGATA, Tatsuo NAGAI, Kazuhiro OTAKA and Kazuyuki OOHARA

Journal of environmental engineering (Transaction of AIJ), No.604, pp.69-76, Jun. 2006

Evaluation of rooftop greening as a method of heat-island reduction based on actual measurement

Masayuki ICHINOSE, Hisaya ISHINO, Kimiko KOHRI and Akihiro NAGATA

Journal of environmental engineering (Transaction of AIJ), No.605, pp.47-54, Jul., 2006

Influences of irregularity of the sky radiance distribution and cloud status, Characteristic study on meteorological elements effect on separation of global irradiance (Part 2)

Satoshi NAKAYAMA and Hisaya ISHINO

Journal of environmental engineering (Transaction of AIJ), No.611, pp.21-27, Jan., 2007

2. Proceedings of Oral Presentations

Study on performance evaluation and thermal comfort with airflow of ceiling fans

Kitarou MIZUIDE(Nikken Sekkei Ltd.), Hisaya ISHINO, Kimiko KOHRI, Akihiro NAGATA and Tatsuo NAGAI

Technical Papers of Annual Meeting of IBPSA-Japan, (Peer-reviewed), Jan. 2007

The meteorological observation System by short time interval and effects of integrating times for solar irradiance

Satoshi NAKAYAMA and Hisaya ISHINO

Technical Papers of Annual Meeting of IBPSA-Japan, (Peer-reviewed), Jan. 2007

Thermal insulating value of clothing and thermal comfort for energy conservation

Ryoko OKUMA and Hisaya ISHINO

Technical Papers of Annual Meeting of IBPSA-Japan, (Peer-reviewed), Jan. 2007

Measurement survey for distribution of outdoor air temperature in Tokyo metropolitan area
Mie OHYAMA, Hisaya ISHINO, Kimiko KOHRI, Takashi INOUE, Satoshi NAKAYAMA and
Masayuki ICHINOSE

Technical Papers of Annual Meeting of IBPSA-Japan, (Peer-reviewed), Jan. 2007

Thermal environment of 20 degree heating in winter in office clothes condition

Ryoko OKUMA, Hisaya ISHINO and Satoshi NAKAYAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1035-1036, Sep. 2006 (in
Japanese)

A study on the method of design and performance verification about ceiling fans equipped in a
hybrid air-conditioned office

Kitarou MIZUIDE(Nikken Sekkei Ltd), Hisaya ISHINO et al.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Organized Session, AIJ, D-II, pp.1037-1040,
Sep. 2006 (in Japanese)

Numerical analysis on basic characteristics of air-conditioning combined with floor cooling, Part 1
A simulation method and analysis in case of typical cooling systems

Aiko KOBAYASHI, Kimiko KOHRI, and Hisaya ISHINO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Organized Session, AIJ, D-II, pp.1049-1052,
Sep. 2006 (in Japanese)

Numerical analysis on basic characteristics of air-conditioning combined with floor cooling, Part 2
Effect analysis of dominant factors on space thermal environment and cooling energy

Takashi SUZUKI, Aiko KOBAYASHI, Kimiko KOHRI, and Hisaya ISHINO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Organized Session, AIJ, D-II, pp.1053-1056,
Sep. 2006 (in Japanese)

Research on thermal characteristics of planting and its effect on thermal environment

Yumiko KODA, Hisaya ISHINO and Satoshi NAKAYAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Organized Session, AIJ, D-II, pp.1061-1064,
Sep. 2006 (in Japanese)

An investigation of heat characteristics of green roof

Shizuka NISHIDA, Hisaya ISHINO and Satoshi NAKAYAMA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1089-1090, Sep. 2006 (in
Japanese)

Survey on the actual condition of climate in the Yamanote-line by moving measurement, Sep. 2006
(in Japanese)

Mie OHYAMA, Hisaya ISHINO, Satoshi Nakayama and Masayuki ICHINOSE

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1093-1094, Sep. 2006 (in
Japanese)

Characteristics of the cloud status in Tokyo district and availability of the accuracy improvement of direct-to-global irradiance

Satoshi NAKAYAMA and Hisaya ISHINO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1095-1096, Sep. 2006 (in Japanese)

Basic Analysis of Solar performance of Double Skin Systems Dependent on Incident Angles

Takuji OGATA, Kimiko KOHRI and Hisaya ISHINO

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1211-1212, Sep. 2006 (in Japanese)

A study on energy saving system of office building using FACES program, Effect of primary energy consumption and economic effects

Yasuhiro TABATA, Hisaya ISHINO and Tatsuo INOOKA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-II, pp.1341-1342, Sep. 2006 (in Japanese)

Research on estimation the costs of air-conditioning using office buildings

Yasuhiro TABATA, Hisaya ISHINO, Tatsuo INOOKA and Satoshi NAKAYAMA

Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp.1105-1108, Sep. 2006 (in Japanese)

A study on characteristics of thermal peak load obtained by using expanded AMEDAS weather data for heating and air-conditioning

Takashi SUZUKI, Kimiko KOHRI, Hisaya ISHINO and Atsushi MOROOKA

Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp.1853-1856, Sep. 2006 (in Japanese)

Research on the trend of atrium spaces through literature investigation

Yutaka SATO, Kimiko KOHRI, Hisaya ISHINO

Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp.439-443, Sep. 2006 (in Japanese)

Thermal comfort of 20 degree heating in winter, Influences by clothing condition and difference of sitting posture and psychological human responses on floor heating

Ryoko OKUMA, Hisaya ISHINO and Satoshi NAKAYAMA

Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp.1993-1996, Sep. 2006 (in Japanese)

Measurement survey for the distribution of outdoor air temperature at winter season in Tokyo urban area

Satoshi NAKAYAMA, Hisaya ISHINO, Kimiko KOHRI, Takashi INOUE and Masayuki ICHINOSE

Technical Papers of Annual Meeting, SASEJ, pp.1441-1444, Sep. 2006 (in Japanese)

【Noriyoshi ICHIKAWA】

CFD Simulation on Stagnant Area in Bath-tubs at Spa Facility

Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Proceedings of the CIB Commission W62 Seminar held at the National, pp.G4:1-12, Sept. 2006

The Construction of the Model of the Design Quantity of Water Consumption by the Estimated Maximum Value : The Investigation of the Direct Water Service System Raised the Pressure by Pumps at the Multiple Dwelling Houses, Part 2

Tamio NAKANO, Yoshiharu ASANO, Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Journal of environmental engineering (Transaction of AIJ), No.603, pp.71-76, May 2006

Effect of Thermostatic Mixing Faucet and Shower Head with Stop Valve : Study on Performance Test of Water Saving Fixture

Takeshi KONDO, Shizuo IWAMOTO, Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Journal of environmental engineering (Transaction of AIJ), No. 607, pp.87-92, Sept. 2006

An Approach to Water Saving Equipment for the ISO Environmental Label in Japan

Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Technical Papers of Annual Meeting, The Society of Heating, Air-Conditioning and Sanitary Engineers of Japan, International session, I- IS-5, pp.23-26, Sept. 2006

Study on Evaluation of Water Saving Performance Considering a Sense : Water Supply Performance of Water Saving Equipment Part 1

Takatoshi MIZUTANI, Noriyoshi ICHIKAWA, et al.

Technical Papers of Annual Meeting, The Society of Heating, Air-Conditioning and Sanitary Engineers of Japan, I- pp.31-34, Sept. 2006

Study on Renewal Plan and Renewal Technology of Water Supply System in Apartment House - Part1 Case study of existing apartment house -

Takatoshi MIZUTANI, Noriyoshi ICHIKAWA, et al

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, D-1, pp.467-468 (Sep. 2005)

【Nobuyuki SUNAGA】

1. Refereed Papers

A Study on Thermal Comfort Range Considering Adjustment Actions by Residents,

Tamaki Fukazawa, Nobuyuki Sunaga, and et al., Proceedings of PLEA2005 - The 23rd Conference on Passive and Low Energy Architecture, Vol.2, pp.479-484 (2006) ,

2. Proceedings of Oral Presentations

Grasp of Climate Characteristics and Comparison among Regions,

Nobuyuki SUNAGA and Tamaki FUKAZAWA, Proceedings of AIJ the 36th HEAT SYMPOSIUM, pp.3-9 (2006) (in Japanese)

Field Survey on Thermal Environment in the Densely Crowded Wooden-Housing Area in Summer, Satoko MATSUMOTO, Nobuyuki SUNAGA and Tamaki FUKAZAWA, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-1, pp.683-684 (2006) (in Japanese)

Simulation study on improvement of thermal performance of housing stocks by insulation - Effect of inside-insulation on thermal performance of a RC residential building -

,Ayumu YOKOTA, Nobuyuki SUNAGA and Tamaki FUKAZAWA, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.103-104 (2006) (in Japanese)

Thermal Performance Evaluation Method Considering the Resident's Adjustment Behavior for the Environment Part 3. Outline of the Experiments with Subjects and Subjects' Exposed Environment,

Yosuke CHIBA, Tamaki FUKAZAWA, Nobuyuki SUNAGA et al., Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.503-504 (2006) (in Japanese)

Thermal Performance Evaluation Method Considering the Resident's Adjustment Behavior for the Environment Part 4. Relations among Thermal Sensation Votes, Comfort Sensations and Subjects' Exposed Environments,

Mitsuo OZAKI, Tamaki FUKAZAWA, Nobuyuki SUNAGA et al., Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.505-506 (2006) (in Japanese)

Thermal Performance Evaluation Method Considering the Resident's Adjustment Behavior for the Environment Part 5. Permissible Ranges of Air Temperature based on the Thermal Sensation Votes and the Comfort Sensation Votes,

Tamaki FUKAZAWA, Nobuyuki SUNAGA et al., Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.507-508 (2006) (in Japanese)

Effect of the roof planting and vertical planting on the indoor climate of classroom,

Saori OKAMOTO and Nobuyuki SUNAGA, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.575-576 (2006) (in Japanese)

Investigation Research on Energy Consumption of Eco-Schools granted by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology -Comparison of Eco-Schools and General Schools in Tokyo -,

Tomoko IKEZAWA and Nobuyuki SUNAGA, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.577-578, (2006) (in Japanese)

Effect of "Solar Heating System with Water Floor" on the Indoor Climate Control in Summer ~Influence of outdoor temperature~,

Masanori AKITA, Nobuyuki SUNAGA and Zhejun XIAN, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.601-602 (2006) (in Japanese)

Experimental Study on a Ceiling Cooling System with Naked pipes,

Takahiro TANUMA, Nobuyuki SUNAGA and So Fujie, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, A.I.J., D-2, pp.1147-1148 (2006) (in Japanese)

Field Survey on Summer Thermal Environment within the Crowded Wooden-Housing Area in

Tokyo,

Satoko MATSUMOTO, Nobuyuki SUNAGA and Tamaki FUKAZAWA, Proceedings of the First National Conference of Heat Island Institute International, pp.24-25 (2006) (in Japanese)

Effect of outside-insulation repairing to the RC detached house in Toyama,
Ayumu YOKOTA, Nobuyuki SUNAGA and et al., Proceedings of JSES/JWEA Joint Conference 2006, pp.389-392 (2006) (in Japanese)

3. Monographs / Technical books

Solar Energy Utilization Book: Chapter 5 Built Environment,
Nobuyuki SUNAGA, Ohmusha Ltd., pp.103-109 and 114-122 (2006) (in Japanese)

Handbook of Environmental Design: Building and Environment: Passive Heating and Cooling,
Nobuyuki SUNAGA, Maruzen Co., pp.76-81 (2007) (in Japanese)

4. Research Reports

The Thermal Environmental Problems Resulting from the Super Heat Insulation in Typical Japanese Climate and its Improvement Methods,
Nobuyuki SUNAGA, Report on 'Building Stock Activation of Apartment Houses in Tama New Town by Super Thermal Insulation', pp.40-46 and pp.92-100 (2007) (in Japanese)

6. Works / Products, etc.

(Consultation for Environmentally Friendly Design)

Urban Renaissance Agency Hibari-ga-oka Apartment Houses (No.8-2, No.8-3, No.8-4),
Designed by Chiyoda-Sekkei CO. (2007)

【Akihiro NAGATA】

1. Refereed Papers

A Study on Performance Evaluation and Control Method Design about a Hybrid Airconditioning System with a Combination of Natural Ventilation and Ceiling Fans

Kitarou MIZUIDE(Nikken Sekkei Ltd.), Hisaya ISHINO, Kimiko KOHRI(Utsunomiya Univ.), Akihiro NAGATA, Tatsuo NAGAI(Tokyo Univ. of Science), Kazuhiro OTAKA(Nikken Sekkei Ltd.) and Kazuyuki OOHARA(Nikken Sekkei Ltd.)

J. Environ. Eng., AIJ, No.604, pp.69-76, Jun., 2006 (in Japanese)

Evaluation of Rooftop Greening as a Method of Heat-island Reduction Based on Actual Measurement

Masayuki ICHINOSE(Tokyo Univ. of Science), Hisaya ISHINO, Kimiko KOHRI(Utsunomiya Univ.) and Akihiro NAGATA

J. Environ. Eng., AIJ, No. 605, pp.47-54, Jul., 2006 (in Japanese)

2. Proceedings of Oral Presentations

Simple Method to Predict Temperature Climatic Actions (Part 4) A Study on Temperature of RC Roof Slab according to 100-year Return Value

Hiroo ITOH(ITOH Struct. and Environ. Eng.), Akihiro NAGATA and Takashige ISHIKAWA(Japan Women's Univ.)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, B-1, pp.93-94, Sep., 2006 (in Japanese)

In-Situ Measurements of Wall Thermal Performance (Part 1) Hot Plate Method with Heat Flow Meter

Tatsuo NAGAI(Tokyo Univ. of Science), Akihiro NAGATA, Katsuichi KUROKI(JTCCM) and Shinsuke KATO(Univ. of Tokyo)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-2, pp.119-120, Sep., 2006 (in Japanese)

In-Situ Measurements of Wall Thermal Performance (Part 2) Method of Infra-Red Photograph [Constitution and Calibration of Surface Coefficient of Heat Transfer Sensor]

Shinji HAGIHARA(JTCCM), Katsuichi KUROKI(JTCCM), Akihiro NAGATA, Shinsuke KATO(Univ. of Tokyo) and Yousuke NAKAMURA(JTCCM)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-2, pp.121-122, Sep., 2006 (in Japanese)

In-Situ Measurements of Wall Thermal Performance (Part 3) Method of Infra-Red Photograph [Experiment of Wall Model on Laboratory]

Yousuke NAKAMURA(JTCCM), Katsuichi KUROKI(JTCCM), Shinji HAGIHARA(JTCCM), Akihiro NAGATA and Shinsuke KATO(Univ. of Tokyo)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-2, pp.123-124, Sep., 2006 (in Japanese)

Gap Lengths and Wall-to-window Ratios of Recent Residential Buildings

Kensuke TAKAHATA and Akihiro NAGATA

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-2, pp.319-320, Sep., 2006 (in Japanese)

A Study on the Method of Design and Performance verification about Ceiling Fans equipped in a Hybrid Airconditioned Office

Kitarou MIZUIDE(Nikken Sekkei Ltd.), Hisaya ISHINO, Kimiko KOHRI(Utsunomiya Univ.), Akihiro NAGATA, Tatsuo NAGAI(Tokyo Univ. of Science), Kazuyuki OOHARA(Nikken Sekkei Ltd.), Hirobumi UEDA(Osaka Gas Co. Ltd.), Yoichi KOBAYASHI(Yasui Architects and Engineers Inc.) and Jeong-Soo KIM(Yasui Architects and Engineers Inc.)

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, D-2, pp.1037-1040, Sep., 2006 (in Japanese)

Summary of Simple Method to Predict Temperature Climatic Actions

Akihiro NAGATA

Proc. of the Panel Discussion on "Structural Design considering Temperature Effects", AIJ, pp.3-8, Sep., 2006 (in Japanese)

Study on the Contingent Valuation Method relating to the wind environment

Keina SATO and Akihiro Nagata

Technical Papers of Annual Meeting, SHASEJ, pp.2293-2296, Sep., 2006 (in Japanese)

5. Manuals / Review

Indoor Air Quality and Thermal Environment in Classroom - With a Central Focus on Ventilation

-

Facility of education, science, sports, culture, and technology, Vo.22, pp.43-46, Apr., 2006 (in Japanese)

Urban space and environment

【Itsuki NAKABAYASHI】

1. Refereed Papers

A study on an Administrative Staff Training for Post-disaster Urban Recovery : A Report of 8th municipal staff training in Tokyo.

Taro ICHIKO, Shin AIBA, Tarkao SATO and Itsuki NAKABAYASHI.

Journal of the city planning institute of Japan, No.41. pp.701-706, Nov. 2006.

(in Japanese with English abstract.)

A Study on Multiple Factors for Housing Reconstruction Activities of Suffered Families : A Case Study in Degirmendere after Marmara Earthquake in Turkey.

Tadahiro YOSHIKAWA and Itsuki NAKABAYASHI

Urban Housing Sciences. No.55, pp.40-45, Autumn 2006.

(in Japanese with English abstract.)

Socioeconomic, Policy, and Planning Aspect of the 2004 Niigata Ken Chuetsu Earthquake.

Robert B. Olshansky, Itsuki NAKABAYASHI and Kazuyoshi Ohnishi

EARTHQUAKE SPECTRA, The professional Journal of the Earthquake Engineering Research Institute, Special Issue I, Vol.22. EERI, pp.163-175, Oct. 2006.

Development of Urban Disaster Prevention Systems in Japan – from the Mid-1980s

Itsuki NAKABAYASHI

Journal of Disaster Research, Vol.No.1, pp.46-71. Aug. 2006

2. Proceedings of Oral Presentations

Preparedness for Urban Restoration from the Next Tokyo Earthquake

Itsuki NAKABAYASHI

Proceedings of the Spring Meeting of the Association of Japanese Geographers: Open Symposium I, March 2007.

(in Japanese with English abstract.)

Study on Reconstruction of Houses and Facilities during One Year after Mid-Niigata Earthquake : In Case of Kawaguchi Town in Niigata Prefecture.

Yusuke.YOSHIDA, Taro ICHIKO and Itsuki NAKABAYASHI.

Proceedings of the Annual Conference of the Institute of Social Safety Science, No.19, pp.69-72. Nov. 2006.

(in Japanese with English abstract.)

Damage Reduction and Recovery/Reconstruction Strategy against Urban Disaster of Earthquake in Tokyo Metropolitan Region.,

Itsuki NAKABAYASHI

Proceedings of Panel-discussion on Disaster "Preparedness for Earthquakes which is probable to attack Tokyo in near Future", Architectural Institute of Japan, pp.21-28., Sept. 2006.

(in Japanese with English abstract.)

3. Monographs / Technical books

Disaster Restoration Guide: Learned from Experiences of the world and Japan.

(Saigai Fukko Guide : Nippon to sekai no keiken ni manabu. Edited by Yoshimitu SHIOZAKI et al. In Japanese.)

Itsuki NAKABAYASHI (co-author : Case of Marmara Earthquake in Turkey., pp.76-79), Creates Kamogawa, Kyoto, 180pages. Jan. 2007.

Community Improvement from Viewpoint of Alley.

(Roji kara no Machizukuri. Edited by Yukio NISHIMURA. In Japanese.)

Itsuki NAKABAYASHI (co-author : Anti-disaster Community Improvement from Viewpoint of alley., pp.229-244)

Gakugei syuppan sya, Kyoto, 269pages., Dec. 2006.

Argument : Re-birth from Disaster.

(Ron: Hisai kara no Saisei. Edited by Institute of Disaster Area Reconstruction, Kansei University. In Japanese.)

(Itsuki NAKABAYASHI(co-author : Dirction of Reconstruction from Disaster in Rural and Mountain Regions., pp.193-209)

Kansei Daigaku Syuppan kai, Hyogo, 232pages, Dec.2006.

"Cities, Autonomy, and Decentralization in Japan" edited by C. Hein and P. Pelletier.,

Itsuki NAKABAYASHI(co-author : Chapter 3:Concentration and de-concentration in the context of the Tokyo Capital Region Plan and recent cross-border networking concepts, pp.55-80)

Routledge, London, 199pages, 2006.

3. Research Reports

Discrete Choice Analysis of Temporary Housing Choice after Urban Earthquake Disaster.

Kei-ichi SATO, Itsuki NAKABAYASHI and Saburo MIDORIKAWA

Proceedings of Symposium: the Report on "Development of Urban Earthquake Engineering for Damage Reduction of Tokyo Earthquake in 2006." Center for Urban Earthquake Engineering, TIT., pp.131-138, March 2006

5. Manuals / Review

Basic Issues on Damage Reduction and Recovery Strategy against "Super Urban Disaster" of Earthquake occurred in Tokyo Metropolitan Region.

Itsuki NAKABAYASHI

Journal of Urban Science, No.1, pp.7-19, Department of Urban Science, Tokyo Metropolitan University., March 2007.

(In Japanese with English Abstract)

Tokyo Earthquake as a "Super Urban Disaster"

Itsuki NAKABAYASHI

Gensai(Disaster Reduction Management), Vol.2, pp.29-37, Sankaido, Ko

【Hidenori TAMAGAWA】

2. Proceedings of Oral Presentations

Spatial Information Systems –growth in the past and maturity in the future

Hidenori TAMAGAWA

Symposium on Spatial Information 2006, 2006.7 (in Japanese)

Regional Environment –especially as for “sustainable cities”

Hidenori TAMAGAWA

Tokyo-Soeul Joint Seminar 2006, 2006.9

Urban Renovations in Tokyo - the traditional solutions and another one

Hidenori TAMAGAWA

International Seminar on Innovation Cases of Mega City, 2006.12

3. Monographs / Technical books

Sustainable Cities: Japanese Perspectives on Physical and Social Structures

Edited by Hidenori TAMAGAWA

United Nations University Press, 2006.7

5. Manuals / Review

Mourning Jane Jacobs

Hidenori TAMAGAWA

City Planning Review, No.261, p.78, 2006.6 (in Japanese)

Jane Jacobs and Japan in real face

Area Development, No.503, pp.10-13, 2006.6 (in Japanese)

【Tetsuo AKIYAMA】

1. Refereed Papers

Research of traffic Demand of Special Transport Service for Transportation poor Group

Kin zeyon, Kyouhei Sakamoto, Tetsuo Akiyama

Journal of Traffic engineering, pp.273-276, 2006.11

Applicability for Demand Responsive Transport Systems in Urban Areas

Itsuki Yoshida, Tetsuo Akiyama, Jaekyung Kim

Infrastructure Planning Review Vol.23, 2006.

Universal design in sightseeing map – Comparison between municipalities of barrier-free map and sightseeing map –

Haruna Miura, Tetsuo Akiyama, Daisuke Sugimachi,

The 2nd International Conference for Universal Design in Kyoto 2006, CDR

2. Proceedings of Oral Presentations

Research of Demand Structure of Special Transport Service in Setagaya Ward

Kyouhei Sakamoto, Kin Zeyon, Akiyama Tetsuo, Tetrajima Kaoru

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.9, pp.273-276,2006

The Attitude Survey for Limited Mobility Group in Hokkaido Winter Tourism

Haruna Miura, Tetsuo Akiyama, Daisuke Sugimachi,

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.9, pp.419-422, 2006.8

Characteristics of Pedestrian Sound Information System for Road Infrastructure

Rikuo Sakaguchi, Fumio Tai, Tetsuo Akiyama, Tomohiko, Isobe, Hiroshi Kitagawa, Masayoshi Nakayama, Norimasa Okada, Hisao Funaba

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.9, CD-ROM, 2006.8

Program of Level of EU Standard Special Transport Service in Kanagawa Prefecture

Naoto Fujii, Tetsuo Akiyama

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.9, pp.○, 2006.8

Planning of Tourism Human Resources and Training

Tetsuo Akiyama, Haruna Miura, Kaoru Terajima, Akane Okubo

Proceeding of Japanese Association for an Inclusive Society, Vol.9, pp.○, 2006.8

Research on Behavior of Visiting Tourism Attraction Areas

Haruna Miura, Tetsuo Akiyama, Ryouzo Yonehara, Daisuke Yonehara

Proceedings of Infrastructure Planning Vol.33 CD-ROM, 2006.

A Study on Development of Evaluation Methods for Regional Public Transport Services,

Itsuki YOSHIDA, Tetsuo AKIYAMA, Denshi TAKEUCHI

Proceedings of Infrastructure Planning Vol.33 CD-ROM, 2006.

A study for Fare-paying Services with Private Cars in Depopulated Areas

Itsuki YOSHIDA, Tetsuo AKIYAMA

Proceedings of Infrastructure Planning Vol.33 CD-ROM, 2006.

A Basic Study on Provision of Appropriate Demand Responsive Transport System,

Masayuki FUKUMOTO, Itsuki YOSHIDA, Hirokazu KATO, Tetsuo AKIYAMA

Proceedings of Infrastructure Planning Vol.33 CD-ROM, 2006.

A study for Ensuring Citizen's Mobility in low density areas

Itsuki YOSHIDA, Tetsuo AKIYAMA

Proceedings of Japanese Association for an Inclusive Society No.9, 2006.

Development of Evaluation Methods for Regional Public Transport Focusing on Citizen's Mobility

Itsuki YOSHIDA, Tetsuo AKIYAMA

Proceedings of Infrastructure Planning Vol.34 CD-ROM, 2006.

A study on Operational characteristics and Feasibility on Demand Responsive Transport Systems

Ryusuke TAKEUCHI · Itsuki YOSHIDA

Proceedings of Infrastructure Planning Vol.34 CD-ROM, 2006.

Research of Tourism Human Resources and Training for Tourism Urban Planning-Case Study of Tokyo Metropolitan University-
Haruna Miura, Tetsuo Akiyama, Ryouzo Yonehara
Japanese Institute of Tourism Research, pp.193-196, 2006,11

3. Monographs / Technical books

How to Introduce the Community Bus
Fumihiko Nakamura Supervision,
2006.8 Modern Cultural Research Center

Theory of Disabled Person Welfare
Hiroshi Osone, Ozawa Atsushi edited
Open University pp.206-281, 2007.2

4. Research Reports

Study for Introducing Concepts of Universal Design Into Railway Sector for JBIC-Financed Project; A Case Study for 'Dakaha-Chittagong Railway Development Project'
Tetsuo Akiyama, Minoru Yamada
Japan Bank for International Cooperation (JBIC), 2006.9

Realization of Ecology and Mobility-Guidebook for Planners
Katsutoshi Ota, Tetsuo Akiyama
Transportation Ecology Mobility Foundation pp.91-108

Transportation Handbook for daily activities-Adopted for Useful Transportation System-
Tetsuo Akiyama (Chairman)
Aomori Prefectural Office 2007.2

International Tourism City, Research of Tokyo Course
Tetsuo Akiyama (Trust from Tokyo Metropolitan Office)
Tokyo Metropolitan University,2006.2

Welfare Comprehensive Planning in Nerima Ward
Tetsuo Akiyama (Chairman)
Nerima Ward 2006.3

Universal Design Guideline of Parking
Tetsuo Akiyama (Chairman)
Tokyo Road Construction and Preservation, 2007.3

Research on Security of Mobility in Urban and Rural Area-Elderly and Disabled Transportation in Hong Kong-
Tetsuo Akiyama
Ministry of Education and Science, 2007.3

Safety System for Disaster Poor People when Occurred of Urban Disaster

Tanji Hoshi, Tetsuo Akiyama
Ministry of Education and Science, 2007.3

Guideline of Toilet Maintain from the view point of citizen-Tokyo Toile and the Orientation
Tetsuo Akiyama(Committee Member)
Committee of Tokyo Welfare Urban Planning

Basic Plan by Transportation Accessibility Improvement Law in Cyofu
Akiyama Tetsuo (Chairman)
Cyofu City Office 2007.2

Human Recourses for Volunteer Transportation Manager by NPO Operation
Tetsuo Akiyama(Chaiman)
Ministry of Transportation Land and Infrastructure 2006.3

5. Manuals / Review

Universal Design for Transportation Planning
Tetsuo Akiyama,
Public Architect, Vol.48, No.187 , 2006

Universal Design for Railway
Tetsuo Akiyama
Regional Development 2006

Universal Design for Public Transportation ((Round-Table)
Yoshihiko Ikeda, Yshihiko Kwauchi, Tadaomo, Kobayakawa, Tetsuo Akiyama
Transportation and Economics, pp.2006

Universal Design of Transportation
Tetsuo Akiyama
Mintetsu No.19,1006

【Taro ICHIKO】

1. Refereed Papers

A Study on an administrative staff training for post-disaster urban recovery - A report of 8th municipal staff training in Tokyo-

Taro ICHIKO, Shin AIBA, Takao SATO and Itsuki NAKABAYASHI
Journal of the City Planning Institute of Japan, No.41-3, pp.701-706,2006

Urban community and society

【Tanji Hoshi】

1. Refereed Papers

A study on the empowerment process and interactions of volunteer members and community in community.

Sachiko Ooki Tanji Hoshi.

The Journal of the Japan NPO Research Association. Vol.6, Nos1&2, 25-35. 2006

2. Proceedings of Oral Presentations

Effectiveness of Health Promotion in Northern Part of Western Pacific Region" submitted to the IUHPE 2007 Conference 2006

【Masami HAGAI】

Autonomy of a Designated City and Urban Policy in a Transition Period in Japan,

Masami HAGAI, Dialogue and Urban Strategy

Niigata Jichi (Niigata Jichi Research Center), vol. 29, pp.10-17. (Oct. 2006) (in Japanese)

"Reexamination of local governance in Japan

Masami HAGAI,

local government reform and restructuring of residents' participation in community", pp.231-234.

Jeju International Workshop, Regional Innovation and Urban Governance :Comparative Perspective, 2006.6

"Reexamination of local governance in Japan :

local government reform and restructuring of residents' participation in community", pp.231-234.

Jeju International Workshop, Regional Innovation and Urban Governance :Comparative Perspective, 2006.6

【Fumiko ITO】

Cost-effectiveness Analysis of Reducing the Emission of Nitrogen Oxides in Asia

Yamashita, K., Ito, F., Kameda, K., Holloway, T. and Johnston, M.

Water, Air, & Soil Pollution: Focus, Springer, 2007.1.

A study of relationship between women's life style and their choice of residential area'

Ito, F.

Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, AIJ, F-1, PP1079-1082, 2006. (in Japanese)

FreeSAT: Portal site for finding free software packages of spatial analysis from web site'

Okabe, A., Masuyama, A. and Ito, F.

"Spatial Analysis by GIS", Kokon-shoin, 2006. (in Japanese)

Negative information of real estate

Ito, F.

"The Japanese Journal of Real Estate Sciences", 19:4, pp40-45, 2006.4. (in Japanese)